

自動車運送事業に係る交通事故対策検討会報告書(令和3年度)

[第1分冊]

事業用自動車の交通事故統計(令和2年版)

令和4年3月

国土交通省自動車局

自動車運送事業に係る交通事故対策検討会

目 次

1. 事故全体の傾向	1
1-1. 交通事故全体の推移	1
1-2. 自動車事故件数の推移	4
1-3. 自動車事故死者数の推移	8
1-4. 自動車死亡事故件数の推移	13
1-5. 飲酒運転による事業用自動車の交通事故の推移	17
1-6. 業態別運転者年齢層別の交通事故	18
1-7. 業態別危険認知速度別の交通事故	20
1-8. 業態別時間帯別の交通事故	22
1-9. 交通事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通事故件数	24
2. バスの事故	26
2-1. 乗合バスの交通事故	30
2-2. 貸切バスの事故	46
3. タクシーの交通事故	58
4. トラックの交通事故	73
5. まとめ	94

附録. 事業用自動車の交通事故統計（令和2年版）

【凡 例】

1. 「交通事故」とは、道路交通法第2条第1項第1号に規定する道路において、車両等及び列車の交通によって起こされた事故で、人の死亡又は負傷を伴うもの（人身事故）をいう。物損事故については計上していない。
2. 「自動車事故」とは、交通事故のうち、自動車及び軽自動車の交通によって起された事故をいう。
3. 「自動車事故」は、「事業用自動車」の事故と、「自家用自動車」の事故に分けられる。うち、「自家用自動車」とは、乗用車（バス、マイクロ、普通乗用車、軽乗用車）及び、貨物車（大型貨物、中型貨物、準中型貨物、普通貨物、軽貨物、トレーラー）を合わせたものをいう。
4. 「死亡」（「死者」）とは、交通事故によって、発生から24時間以内に亡くなった場合（人）をいう。
5. 「重傷」（「重傷者」）とは、交通事故によって負傷し、1ヶ月（30日）以上の治療を要する場合（人）をいう。
6. 「軽傷」（「軽傷者」）とは、交通事故によって負傷し、1ヶ月（30日）未満の治療を要する場合（人）をいう。
7. 「負傷」（「負傷者」）とは、「重傷」（「重傷者」）と「軽傷」（「軽傷者」）の合計をいう。
8. 「貨物自動車」の分類は道路交通法に基づくものとする。
 - 大型　：車両総重量11トン以上、または最大積載量6.5トン以上
 - 中型　：車両総重量7.5トン以上11トン未満、または最大積載量4.5トン以上6.5トン未満
 - 準中型：車両総重量3.5トン以上7.5トン未満、または最大積載量2トン以上4.5トン未満
 - 普通　：車両総重量3.5トン未満、または最大積載量2トン未満
 - 軽　　：貨物自動車のうち、軽自動車であるもの

1. 事故全体の傾向

1-1. 交通事故全体の推移

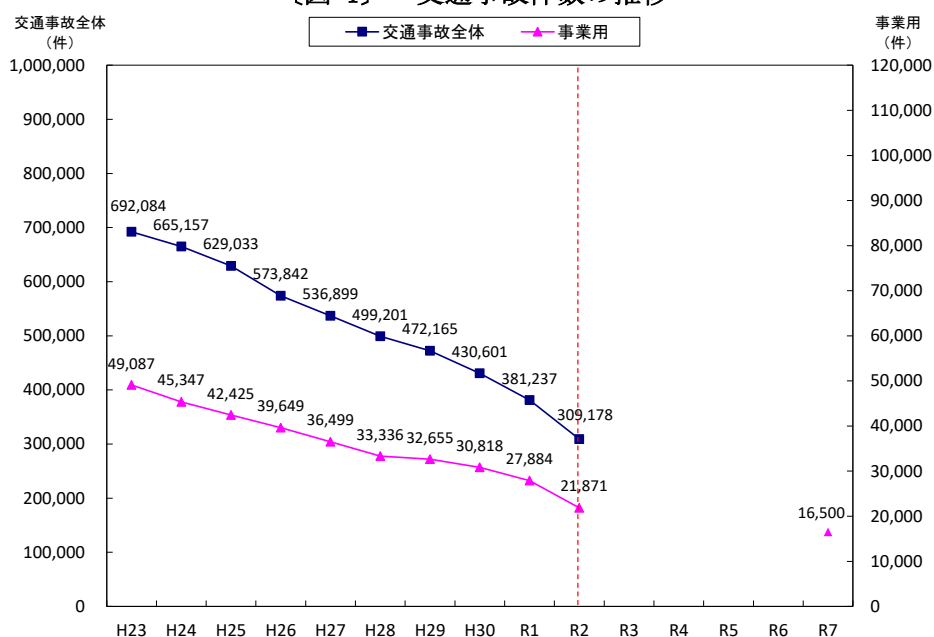
自動車に加え、二輪車や自転車等を含む「交通事故全体」と、「事業用自動車」の交通事故の推移を、「交通事故件数」、「交通事故死者数」、「交通死亡事故件数」の3つで比較した。

(1) 交通事故件数の推移

令和2年中に全国で発生した交通事故全体の件数は309,178件であり、そのうち、事業用自動車は21,871件であった。

なお、事業用自動車については、「事業用自動車総合安全プラン2025（令和3年3月）」において、令和7年までに人身事故件数を16,500件以下とする削減目標が示されている。

〔図 1〕 交通事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 1〕 交通事故件数の推移 (件)

年	交通事故件数	
	交通事故全体	事業用
H23	692,084	49,087
H24	665,157	45,347
H25	629,033	42,425
H26	573,842	39,649
H27	536,899	36,499
H28	499,201	33,336
H29	472,165	32,655
H30	430,601	30,818
R1	381,237	27,884
R2	309,178	21,871

出典：警察庁「交通統計」

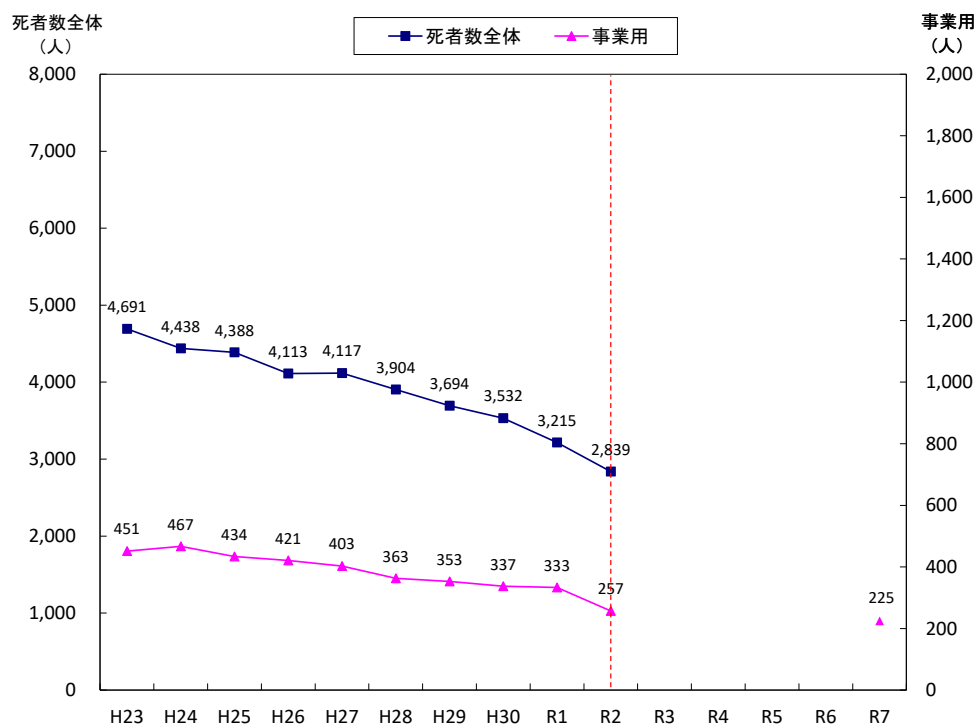
(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 交通事故死者数の推移

令和2年中に全国で発生した交通事故全体における死者数は2,839人であり、そのうち、事業用自動車での交通事故死者数は257人となっている。

なお、事業用自動車については、「事業用自動車総合安全プラン2025」において、令和7年までに事業用自動車での死者数を225人以下とする削減目標が示されている。

〔図 2〕 交通事故死者数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 2〕 交通事故死者数の推移 (人)

年	区分	死者数	
		死者数全体	事業用
H23		4,691	451
H24		4,438	467
H25		4,388	434
H26		4,113	421
H27		4,117	403
H28		3,904	363
H29		3,694	353
H30		3,532	337
R1		3,215	333
R2		2,839	257

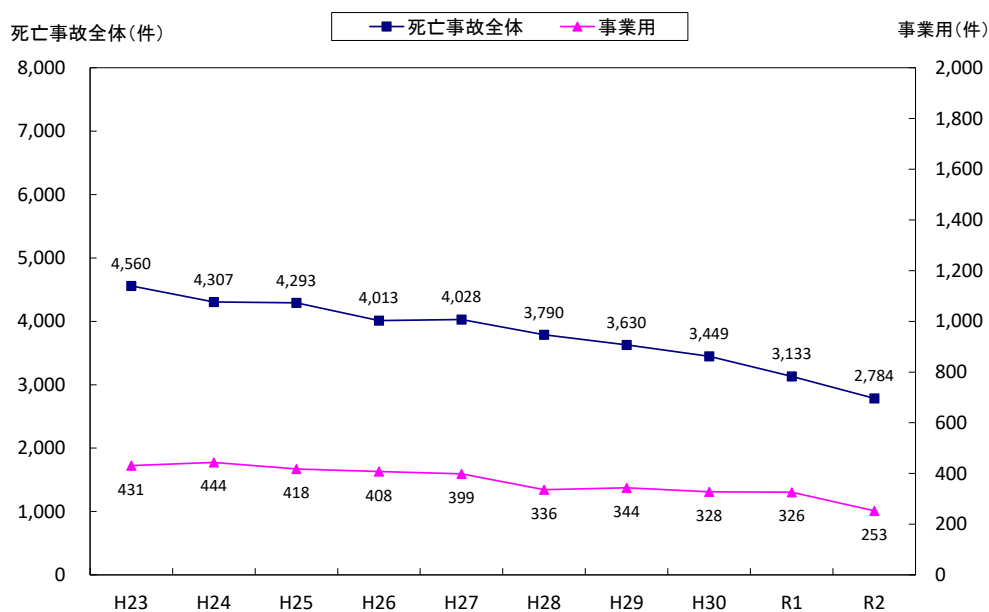
出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) 交通死亡事故件数の推移

令和2年中に全国で発生した交通死亡事故全体の件数は2,784件であり、前年と比べて349件減少している。そのうち、事業用自動車は253件であり、前年と比べて73件(約22%)減少している。

〔図 3〕 交通死亡事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 3〕 交通死亡事故件数の推移 (件)

年	区分	死亡事故件数	
		死亡事故全体	事業用
H23		4,560	431
H24		4,307	444
H25		4,293	418
H26		4,013	408
H27		4,028	399
H28		3,790	336
H29		3,630	344
H30		3,449	328
R1		3,133	326
R2		2,784	253

出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

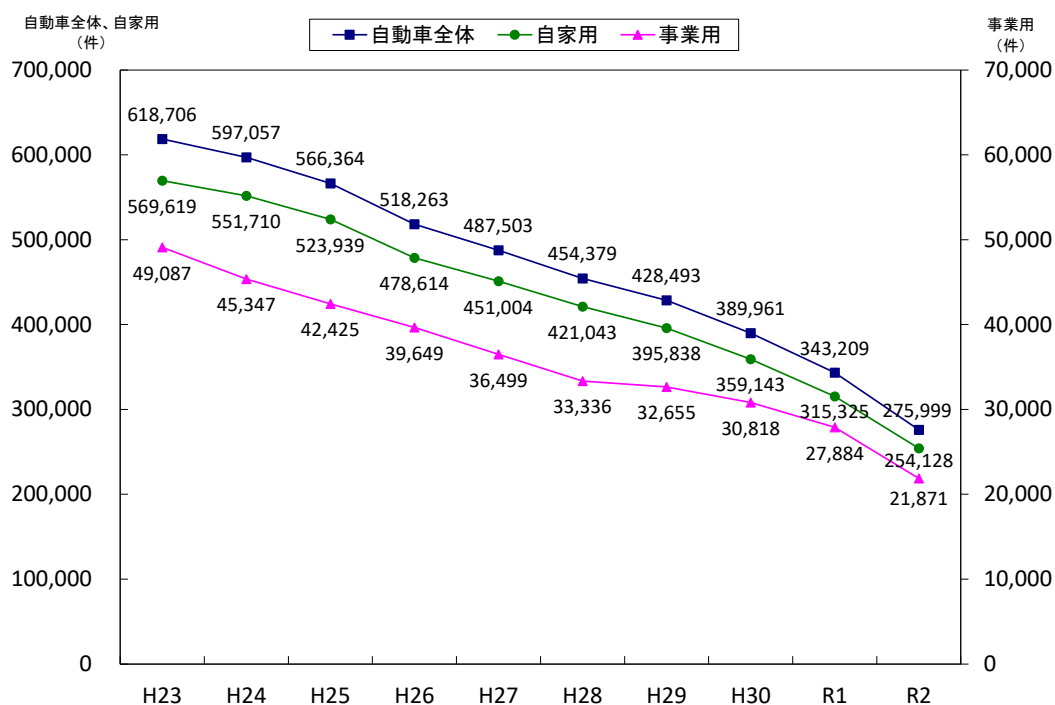
1-2. 自動車事故件数の推移

「事業用自動車」「自家用自動車（自家用のバス、乗用車及びトラックをいう。以下同じ）」及び「自動車全体（事業用自動車と自家用自動車を合わせたものをいう。以下同じ）」について、「交通事故件数」「交通事故死者数」「交通死亡事故件数」の3つを比較した。

(1) 自動車事故件数の推移

令和2年中に全国で発生した自動車全体の交通事故件数は275,999件であり、そのうち、自家用自動車は254,128件、事業用自動車は21,871件となっている。

〔図 4〕 自動車事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 4〕 自動車事故件数の推移 (件)

年	自動車全体	自家用	事業用
H23	618,706	569,619	49,087
H24	597,057	551,710	45,347
H25	566,364	523,939	42,425
H26	518,263	478,614	39,649
H27	487,503	451,004	36,499
H28	454,379	421,043	33,336
H29	428,493	395,838	32,655
H30	389,961	359,143	30,818
R1	343,209	315,325	27,884
R2	275,999	254,128	21,871

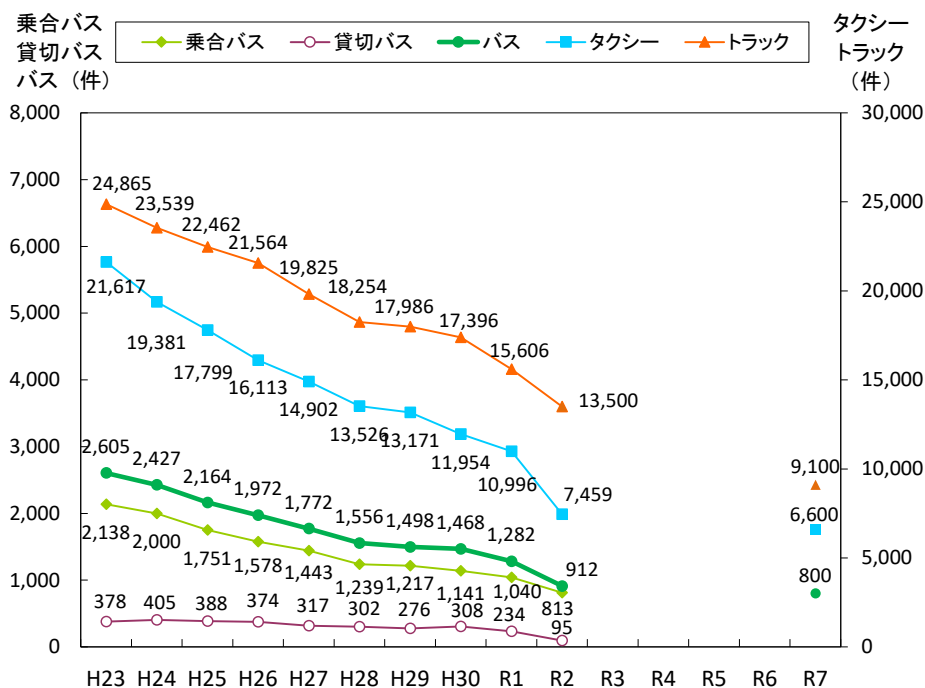
出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 事業用自動車の業態別交通事故件数の推移

事業用自動車の交通事故件数を業態別にみると、令和2年は各業態とも前年と比べて減少している。特に、貸切バスは約59%減少している。

なお、事業用自動車については、「事業用自動車総合安全プラン2025」において、令和7年までに、バスの事故件数を800件以下、タクシーの事故件数を6,600件以下、トラックの事故件数を9,100件以下とする削減目標が示されている。

〔図 5〕 事業用自動車の業態別交通事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 5〕 事業用自動車の業態別交通事故件数の推移（件）

区分 年	バス	バス			タクシー	トラック
		乗合バス	貸切バス	その他		
H23	2,605	2,138	378	89	21,617	24,865
H24	2,427	2,000	405	22	19,381	23,539
H25	2,164	1,751	388	25	17,799	22,462
H26	1,972	1,578	374	20	16,113	21,564
H27	1,772	1,443	317	12	14,902	19,825
H28	1,556	1,239	302	15	13,526	18,254
H29	1,498	1,217	276	5	13,171	17,986
H30	1,468	1,141	308	19	11,954	17,396
R1	1,282	1,040	234	8	10,996	15,606
R2	912	813	95	4	7,459	13,500

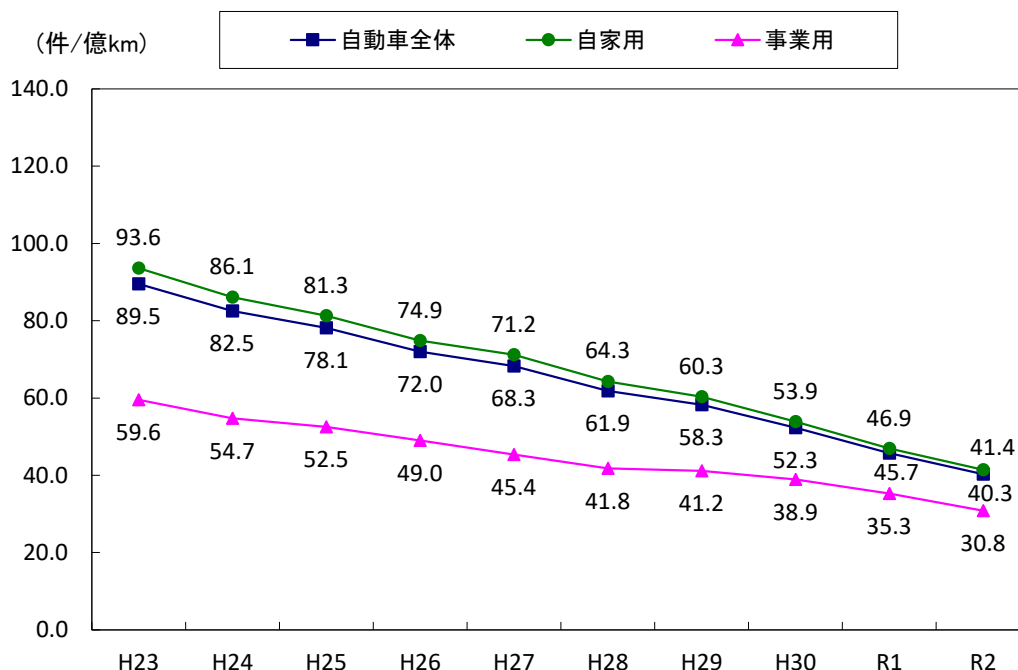
注：平成29年以降、乗車定員11人未満であり路線定期運行を行う業態は、乗合バスとして計上している。
（業態別の統計については、以下同様）

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) 走行距離1億キロあたり自動車事故件数の推移

走行距離あたりの自動車事故件数は、自動車全体、自家用自動車、事業用自動車のいずれも近年減少傾向となっており、10年間で半分程度となっている。

〔図 6〕 走行距離1億キロあたり自動車事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」

〔表 6〕 走行距離と自動車事故件数の推移

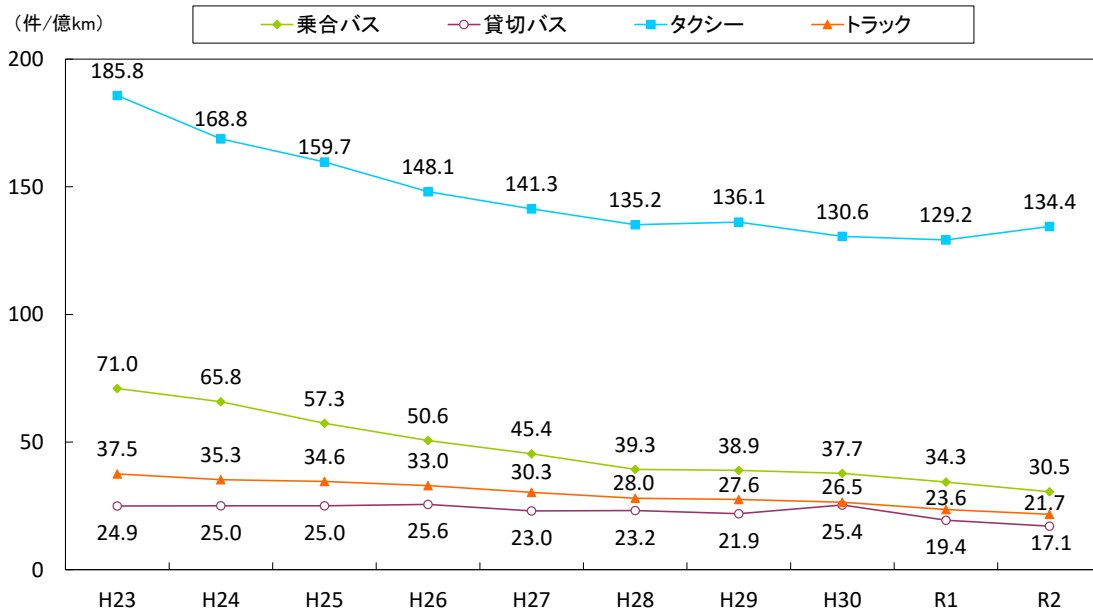
年	事故件数(件)			走行距離(億km)		
	自動車全体	自家用	事業用	自動車全体	自家用	事業用
H23	618,706	569,619	49,087	6,909.5	6,085.6	823.9
H24	597,057	551,710	45,347	7,234.0	6,405.5	828.5
H25	566,364	523,939	42,425	7,249.1	6,441.5	807.6
H26	518,263	478,614	39,649	7,200.8	6,392.3	808.5
H27	487,503	451,004	36,499	7,137.1	6,332.5	804.7
H28	454,379	421,043	33,336	7,345.8	6,548.7	797.1
H29	428,493	395,838	32,655	7,354.2	6,560.7	793.5
H30	389,961	359,143	30,818	7,451.7	6,660.2	791.5
R1	343,209	315,325	27,884	7,506.4	6,716.3	790.1
R2	275,999	254,128	21,871	6,846.8	6,137.2	709.7

出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」

(4) 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通事故件数の推移

走行距離あたりの事業用自動車の交通事故件数は近年減少傾向となっている。そのうち、タクシーが突出して多く、令和2年は前年より増加している。

〔図 7〕 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」

〔表 7〕 事業用自動車の業態別走行距離と交通事故件数の推移

区分 年	事故件数(件)							走行距離(億km)					
	バス				タクシー	トラック	自動車全体	バス	タクシー		トラック	自動車全体	
	乗合	貸切	その他					乗合	貸切				
H23	2,605	2,138	378	89	21,617	24,865	618,706	45.3	30.1	15.2	116.4	662.3	6,909.5
H24	2,427	2,000	405	22	19,381	23,539	597,057	46.6	30.4	16.2	114.8	667.0	7,234.0
H25	2,164	1,751	388	25	17,799	22,462	566,364	46.0	30.5	15.5	111.4	650.1	7,249.1
H26	1,972	1,578	374	20	16,113	21,564	518,263	45.8	31.2	14.6	108.8	653.9	7,200.8
H27	1,772	1,443	317	12	14,902	19,825	487,503	45.5	31.8	13.8	105.4	653.7	7,137.1
H28	1,556	1,239	302	15	13,526	18,254	454,379	44.5	31.5	13.0	100.1	652.5	7,345.8
H29	1,498	1,217	276	5	13,171	17,986	428,493	43.9	31.3	12.6	96.7	652.8	7,354.2
H30	1,468	1,141	308	19	11,954	17,396	389,961	42.4	30.2	12.1	91.5	657.6	7,451.7
R1	1,282	1,040	234	8	10,996	15,606	343,209	42.4	30.3	12.1	85.1	662.5	7,506.4
R2	912	813	95	4	7,459	13,500	275,999	32.2	26.6	5.6	55.5	622.0	6,846.8

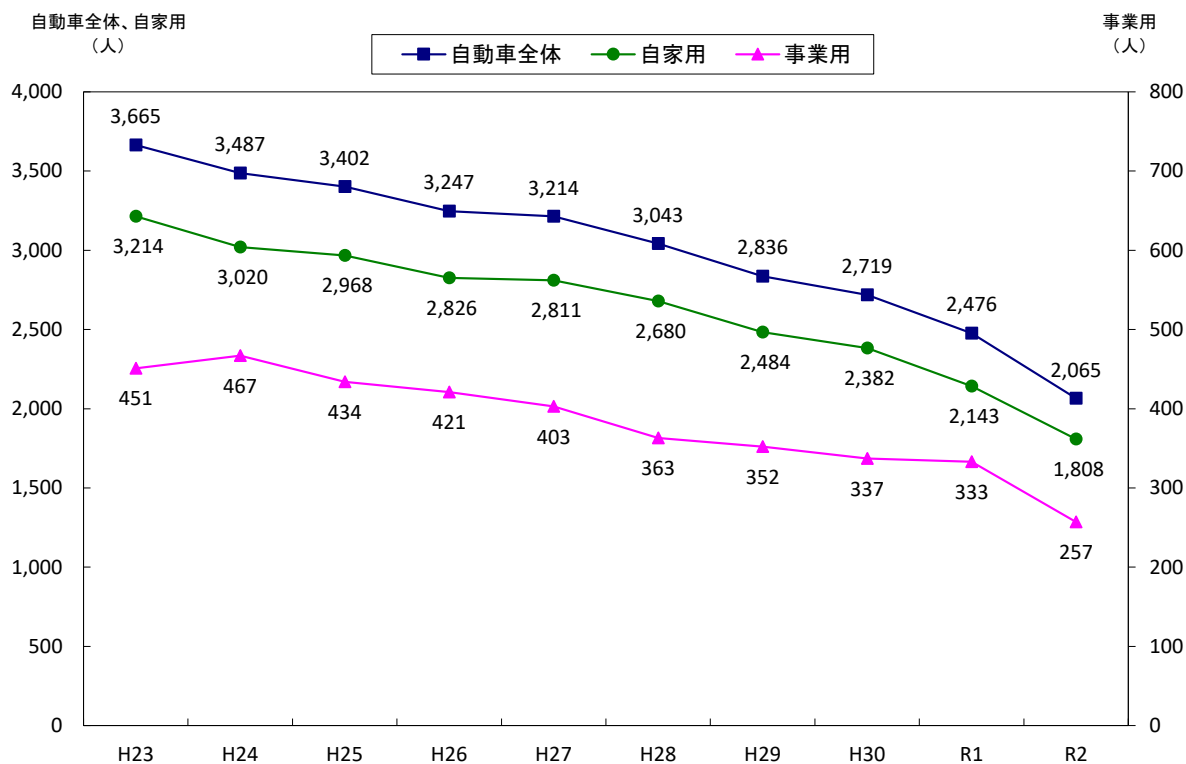
出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」

1-3. 自動車事故死者数の推移

(1) 自動車事故死者数の推移

令和2年中に全国で発生した自動車全体の交通事故死者数は2,065人である。そのうち、事業用自動車は257人であり、令和2年は前年より76人減少している。

〔図 8〕 自動車事故死者数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 8〕 自動車事故死者数の推移 (人)

年	自動車全体	自家用	事業用
H23	3,665	3,214	451
H24	3,487	3,020	467
H25	3,402	2,968	434
H26	3,247	2,826	421
H27	3,214	2,811	403
H28	3,043	2,680	363
H29	2,836	2,484	352
H30	2,719	2,382	337
R1	2,476	2,143	333
R2	2,065	1,808	257

出典：警察庁「交通統計」

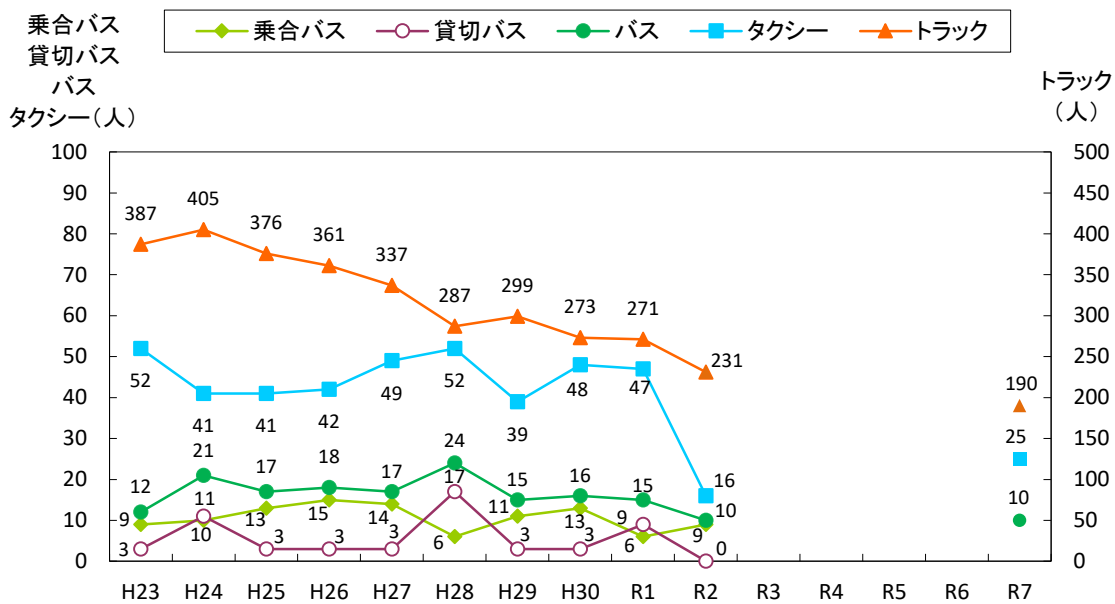
(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 事業用自動車の業態別交通事故死者数の推移

事業用自動車の交通事故死者数を業態別にみると、トラックが大半を占めている。前年と比べて、令和2年は乗合バスのみ増加している。貸切バスは、関越道における高速ツアーバス事故があった平成24年、軽井沢スキーバス事故があった平成28年に増加したものの、近年は横ばい傾向となっており、令和2年は0人となっている。タクシーは約66%減と、大幅に減少している。

なお、事業用自動車については、「事業用自動車総合安全プラン2025」において、令和7年までに、バスの交通事故死者数を10人以下、タクシーの交通事故死者数を25人以下、トラックの交通事故死者数を190人以下とする削減目標が示されている。

〔図 9〕 事業用自動車の業態別交通事故死者数の推移



出典：警察庁「交通統計」
 (公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 9〕 事業用自動車の業態別交通事故死者数の推移 (人)

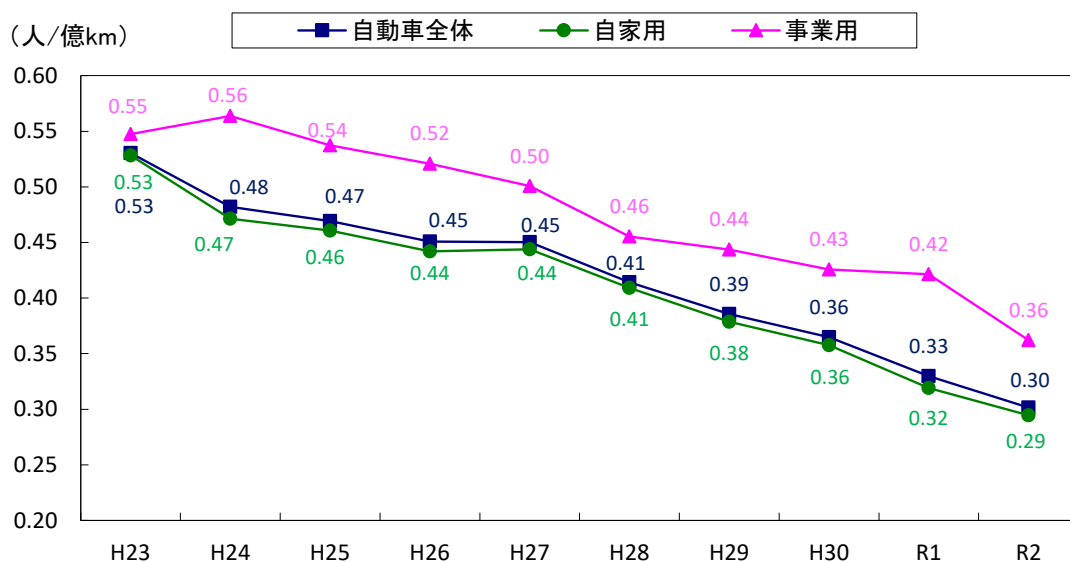
年	区分	バス			タクシー	トラック	
		乗合バス	貸切バス	その他			
H23		12	9	3	0	52	387
H24		21	10	11	0	41	405
H25		17	13	3	1	41	376
H26		18	15	3	0	42	361
H27		17	14	3	0	49	337
H28		24	6	17	1	52	287
H29		15	11	3	1	39	299
H30		16	13	3	0	48	273
R1		15	6	9	0	47	271
R2		10	9	0	1	16	231

出典：警察庁「交通統計」
 (公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) 走行距離1億キロあたり自動車事故死者数の推移

走行距離あたりの自動車事故死者数は、近年減少傾向となっている。特に、令和2年は事業用自動車が前年と比べて大幅に減少している。

〔図 10〕 走行距離1億キロあたり自動車事故死者数の推移



出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」

〔表 10〕 自動車事故死者数と走行距離の推移

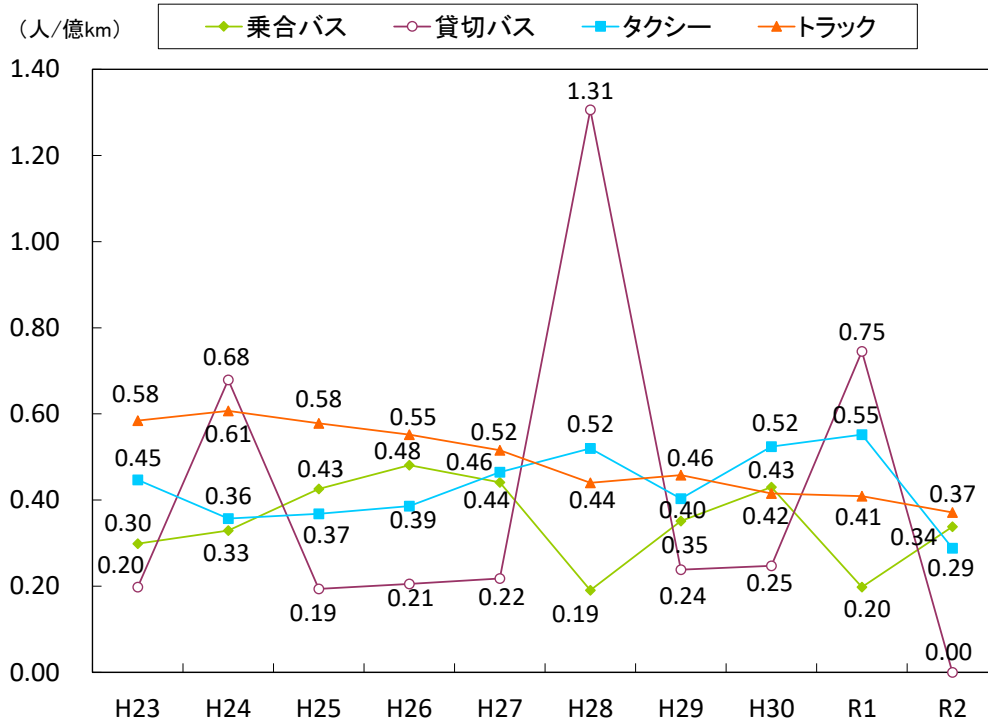
年	死者数(人)			走行距離(億km)		
	自動車全体	自家用	事業用	自動車全体	自家用	事業用
H23	3,665	3,214	451	6,909.5	6,085.6	823.9
H24	3,487	3,020	467	7,234.0	6,405.5	828.5
H25	3,402	2,968	434	7,249.1	6,441.5	807.6
H26	3,247	2,826	421	7,200.8	6,392.3	808.5
H27	3,214	2,811	403	7,137.1	6,332.5	804.7
H28	3,043	2,680	363	7,345.8	6,548.7	797.1
H29	2,836	2,484	352	7,354.2	6,560.7	793.5
H30	2,719	2,382	337	7,451.7	6,660.2	791.5
R1	2,476	2,143	333	7,506.4	6,716.3	790.1
R2	2,065	1,808	257	6,846.8	6,137.2	709.7

出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」

(4) 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通事故死者数の推移

走行距離あたりの事業用自動車の業態別交通事故死者数は、前年と比べて令和2年は乗合バスのみ増加している。貸切バスが増加している平成24年と平成28年は、それぞれ関東における高速ツアーバス事故と軽井沢スキーバス事故の影響によるものである。

〔図 11〕 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通事故死者数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」

〔表 11〕 事業用自動車の業態別交通事故死者数と走行距離の推移

区分 年	死者数(人)							走行距離(億km)					
	バス	バス			タクシー	トラック	自動車 全体	バス	バス		タクシー	トラック	自動車 全体
		乗合	貸切	その他					乗合	貸切			
H23	12	9	3	0	52	387	3,665	45.3	30.1	15.2	116.4	662.3	6,909.5
H24	21	10	11	0	41	405	3,487	46.6	30.4	16.2	114.8	667.0	7,234.0
H25	17	13	3	1	41	376	3,402	46.0	30.5	15.5	111.4	650.1	7,249.1
H26	18	15	3	0	42	361	3,247	45.8	31.2	14.6	108.8	653.9	7,200.8
H27	17	14	3	0	49	337	3,214	45.5	31.8	13.8	105.4	653.7	7,137.1
H28	24	6	17	1	52	287	3,043	44.5	31.5	13.0	100.1	652.5	7,345.8
H29	15	11	3	1	39	299	2,836	43.9	31.3	12.6	96.7	652.8	7,354.2
H30	16	13	3	0	48	273	2,719	42.4	30.2	12.1	91.5	657.6	7,451.7
R1	15	6	9	0	47	271	2,476	42.4	30.3	12.1	85.1	662.5	7,506.4
R2	10	9	0	1	16	231	2,065	32.2	26.6	5.6	55.5	622.0	6,846.8

出典：警察庁「交通統計」

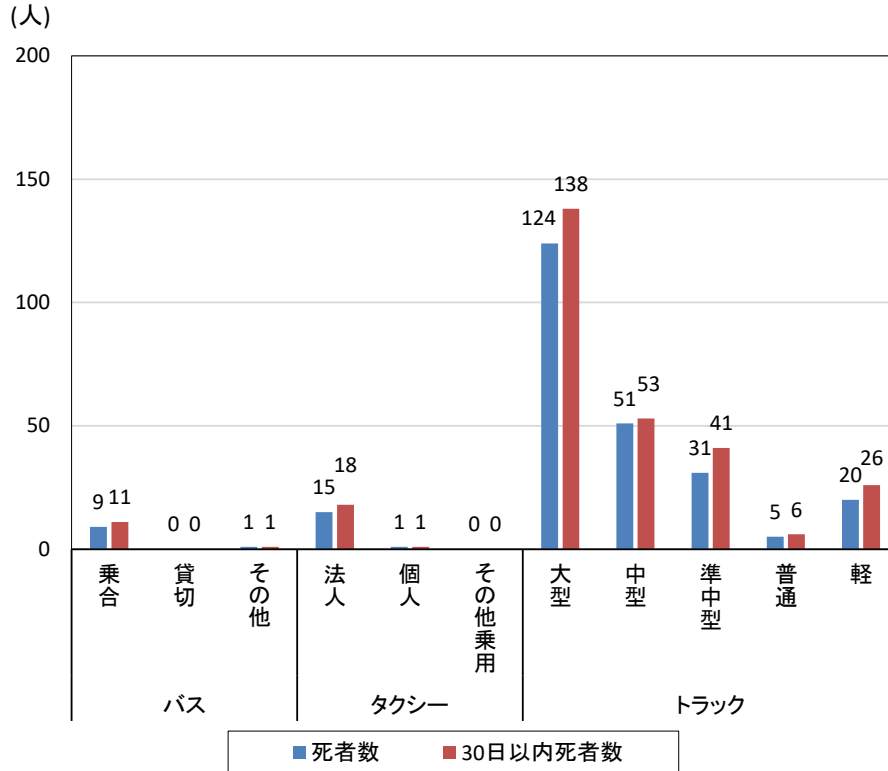
(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」

(5) 事業用自動車の業態別交通事故死者数と30日以内死者数

死者数に対する30日以内死者数（交通事故によって、発生から30日以内に亡くなった人数）の増加率は、バスが20.0%、タクシーが18.8%、トラックが14.3%となっている。

〔図 12〕 事業用自動車の業態別交通事故死者数と30日以内死者数（令和2年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 12〕 事業用自動車の業態別交通事故死者数（人）と30日以内死者数（人）（令和2年）

		死者数	30日以内死者数
バス	乗合	9	11
	貸切	0	0
	その他	1	1
	計	10	12
タクシー	法人	15	18
	個人	1	1
	その他乗用	0	0
	計	16	19
トラック	大型	124	138
	中型	51	53
	準中型	31	41
	普通	5	6
	軽	20	26
	計	231	264

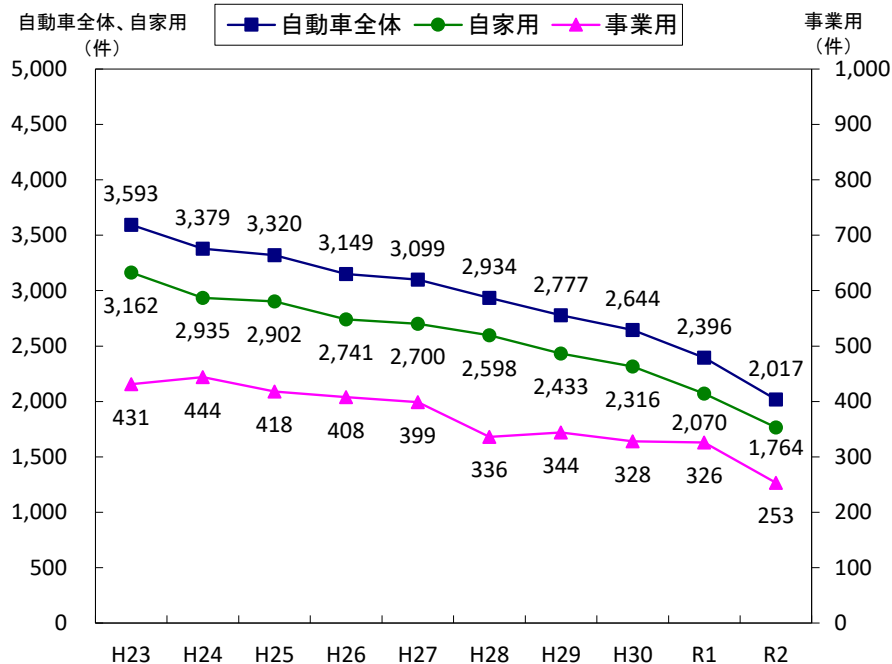
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

1-4. 自動車死亡事故件数の推移

(1) 自動車死亡事故件数の推移

令和2年中に全国で発生した自動車全体の交通死亡事故件数は2,017件であり、そのうち、自家用自動車は1,764件、事業用自動車は253件となっている。

〔図 13〕 自動車死亡事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 13〕 自動車死亡事故件数の推移 (件)

年	自動車全体	自家用	事業用
H23	3,593	3,162	431
H24	3,379	2,935	444
H25	3,320	2,902	418
H26	3,149	2,741	408
H27	3,099	2,700	399
H28	2,934	2,598	336
H29	2,777	2,433	344
H30	2,644	2,316	328
R1	2,396	2,070	326
R2	2,017	1,764	253

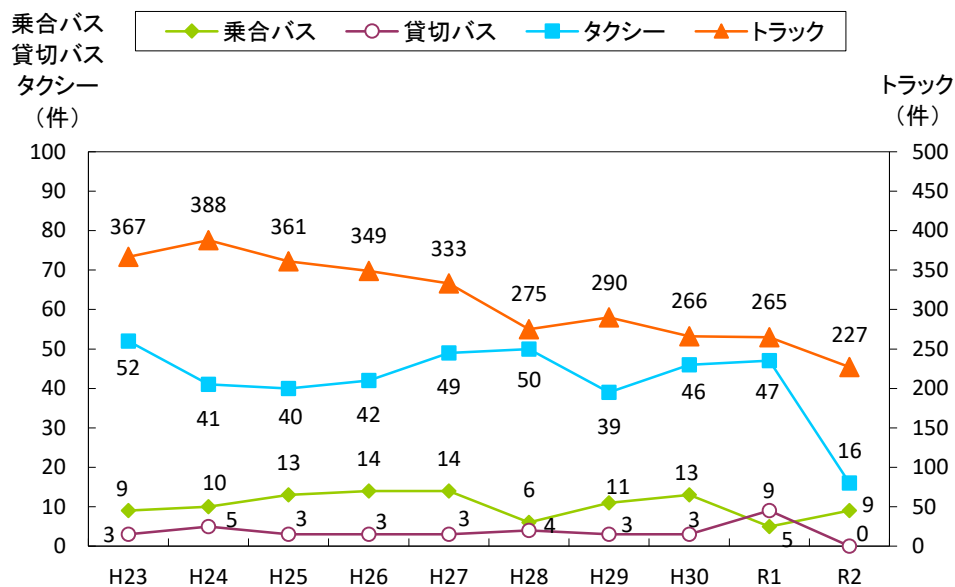
出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 事業用自動車の業態別交通死亡事故件数の推移

事業用自動車の交通死亡事故件数を業態別にみると、トラックが大半を占めている。前年と比べて、令和2年は乗合バスのみ増加している。特に、貸切バスは0件、タクシーは約66%減と大幅に減少している。

〔図 14〕 事業用自動車の業態別交通死亡事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 14〕 事業用自動車の業態別交通死亡事故件数の推移 (件)

区分 年	バス	バス			タクシー	トラック
		乗合バス	貸切バス	その他		
H23	12	9	3	0	52	367
H24	15	10	5	0	41	388
H25	17	13	3	1	40	361
H26	17	14	3	0	42	349
H27	17	14	3	0	49	333
H28	11	6	4	1	50	275
H29	15	11	3	1	39	290
H30	16	13	3	0	46	266
R1	14	5	9	0	47	265
R2	10	9	0	1	16	227

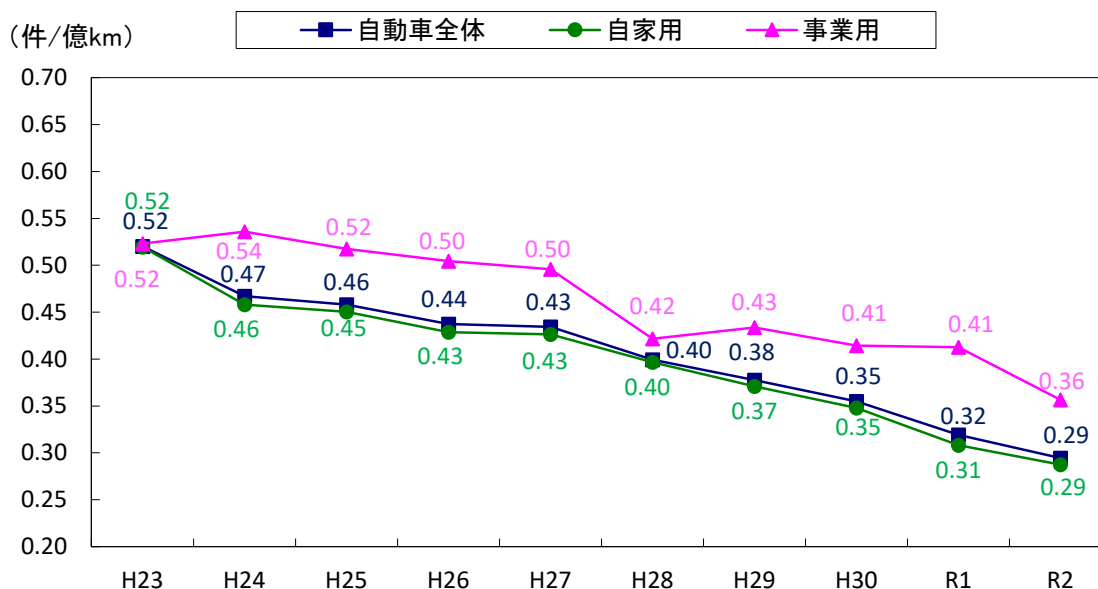
出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) 走行距離1億キロあたり自動車死亡事故件数の推移

走行距離あたりの自動車死亡事故件数は、近年減少傾向となっている。特に、令和2年は事業用自動車が前年と比べて大幅に減少している。

〔図 15〕 走行距離 1 億キロあたり自動車死亡事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」

〔表 15〕 自動車死亡事故件数と走行距離の推移

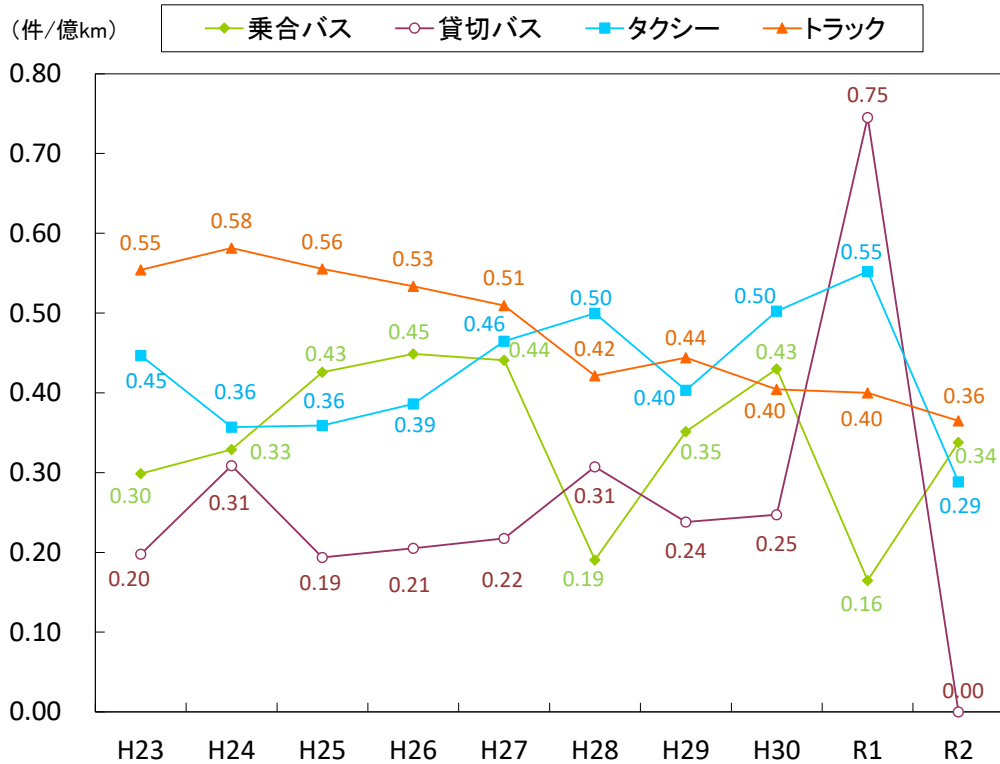
年	区分	死亡事故件数(件)			走行距離(億km)		
		自動車全体	自家用	事業用	自動車全体	自家用	事業用
H23		3,593	3,162	431	6,909.5	6,085.6	823.9
H24		3,379	2,935	444	7,234.0	6,405.5	828.5
H25		3,320	2,902	418	7,249.1	6,441.5	807.6
H26		3,149	2,741	408	7,200.8	6,392.3	808.5
H27		3,099	2,700	399	7,137.1	6,332.5	804.7
H28		2,934	2,598	336	7,345.8	6,548.7	797.1
H29		2,777	2,433	344	7,354.2	6,560.7	793.5
H30		2,644	2,316	328	7,451.7	6,660.2	791.5
R1		2,396	2,070	326	7,506.4	6,716.3	790.1
R2		2,017	1,764	253	6,846.8	6,137.2	709.7

出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」

(4) 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通死亡事故件数の推移

走行距離あたりの事業用自動車の交通死亡事故件数は、前年と比べて令和2年は乗合バスのみ増加している。タクシーは大幅に減少している。

〔図 16〕 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通死亡事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」

〔表 16〕 事業用自動車の業態別走行距離と交通死亡事故件数の推移

区分 年	死亡事故件数(件)							走行キロ(億km)					
	バス	乗合	貸切	その他	タクシー	トラック	自動車全体	バス	乗合	貸切	タクシー	トラック	自動車全体
H23	12	9	3	0	52	367	3,593	45.3	30.1	15.2	116.4	662.3	6,909.5
H24	15	10	5	0	41	388	3,379	46.6	30.4	16.2	114.8	667.0	7,234.0
H25	17	13	3	1	40	361	3,320	46.0	30.5	15.5	111.4	650.1	7,249.1
H26	17	14	3	0	42	349	3,149	45.8	31.2	14.6	108.8	653.9	7,200.8
H27	17	14	3	0	49	333	3,099	45.5	31.8	13.8	105.4	653.7	7,137.1
H28	11	6	4	1	50	275	2,934	44.5	31.5	13.0	100.1	652.5	7,345.8
H29	15	11	3	1	39	290	2,777	43.9	31.3	12.6	96.7	652.8	7,354.2
H30	16	13	3	0	46	266	2,644	42.4	30.2	12.1	91.5	657.6	7,451.7
R1	14	5	9	0	47	265	2,396	42.4	30.3	12.1	85.1	662.5	7,506.4
R2	10	9	0	1	16	227	2,017	32.2	26.6	5.6	55.5	622.0	6,846.8

出典：警察庁「交通統計」

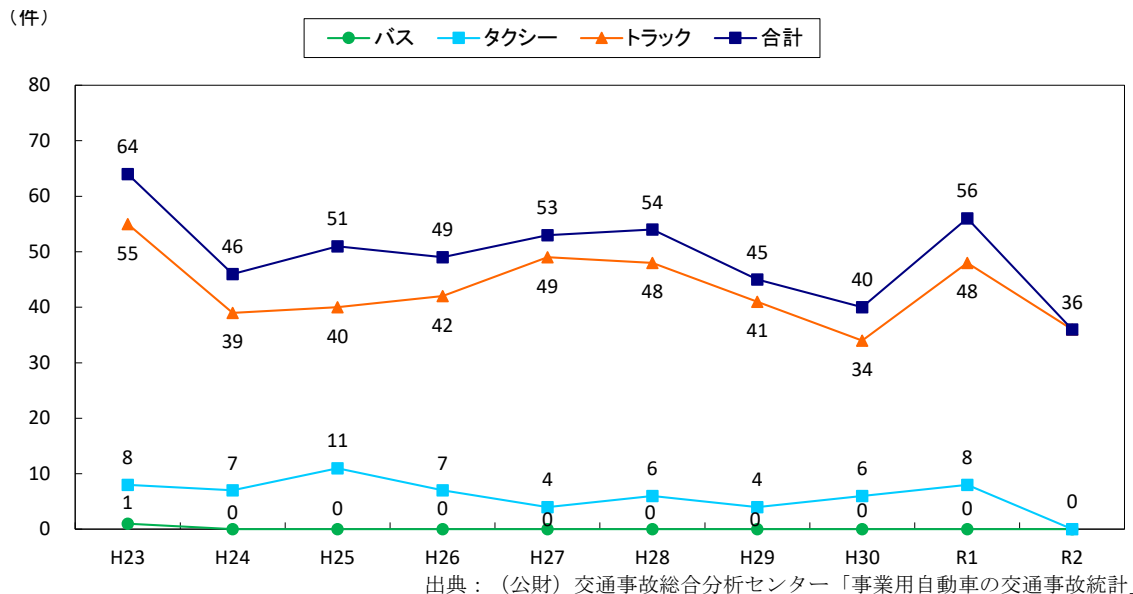
(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」

1-5. 飲酒運転による事業用自動車の交通事故の推移

飲酒運転による事業用自動車の交通事故は、平成24年から横ばい傾向となっていたが、令和2年は減少している。なお、令和2年は全てトラックによるものであり、バスとタクシーは0件となっている。

〔図 17〕 飲酒運転による事業用自動車の交通事故件数の推移



〔表 17〕 業態別飲酒運転による交通事故件数 (件)

年	交通事故件数							
	バス	乗合			貸切	その他	タクシー	トラック
H23	1	0	0	1	0	8	55	64
H24	0	0	0	0	0	7	39	46
H25	0	0	0	0	0	11	40	51
H26	0	0	0	0	0	7	42	49
H27	0	0	0	0	0	4	49	53
H28	0	0	0	0	0	6	48	54
H29	0	0	0	0	0	4	41	45
H30	0	0	0	0	0	6	34	40
R1	0	0	0	0	0	8	48	56
R2	0	0	0	0	0	0	36	36

出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 18〕 業態別飲酒運転による交通死亡事故件数の推移 (件)

年	交通死亡事故件数							
	バス	乗合			貸切	その他	タクシー	トラック
H23	0	0	0	0	0	0	4	4
H24	0	0	0	0	0	0	6	6
H25	0	0	0	0	0	0	6	6
H26	0	0	0	0	0	1	5	6
H27	0	0	0	0	0	0	5	5
H28	0	0	0	0	0	0	1	1
H29	0	0	0	0	0	0	4	4
H30	0	0	0	0	0	0	2	2
R1	0	0	0	0	0	0	6	6
R2	0	0	0	0	0	0	4	4

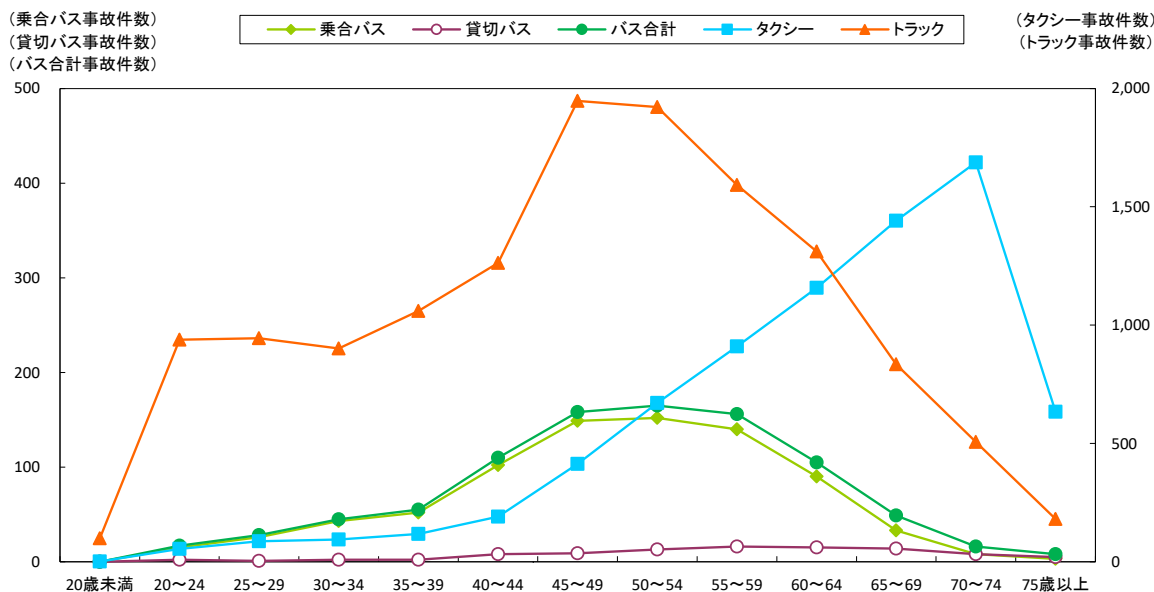
出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

1-6. 業態別運転者年齢層別の交通事故

(1) 業態別運転者年齢層別交通事故件数

交通事故第1当事者の年齢分布を業態別にみると、バスやトラックは同じ傾向となっており、タクシーは比較的高齢側に分布している。なお、タクシーは他の2業態と比較して運転者全体の平均年齢が高い。

[図 18] 業態別運転者年齢層別交通事故件数（令和2年）



※ 交通事故第1当事者の平均年齢は、年齢層毎の年齢の加重平均により算出

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
厚生労働省「令和2年賃金構造基本統計調査（全国）」

[表 19] 業態別運転者年齢層別交通事故件数（件）（令和2年）

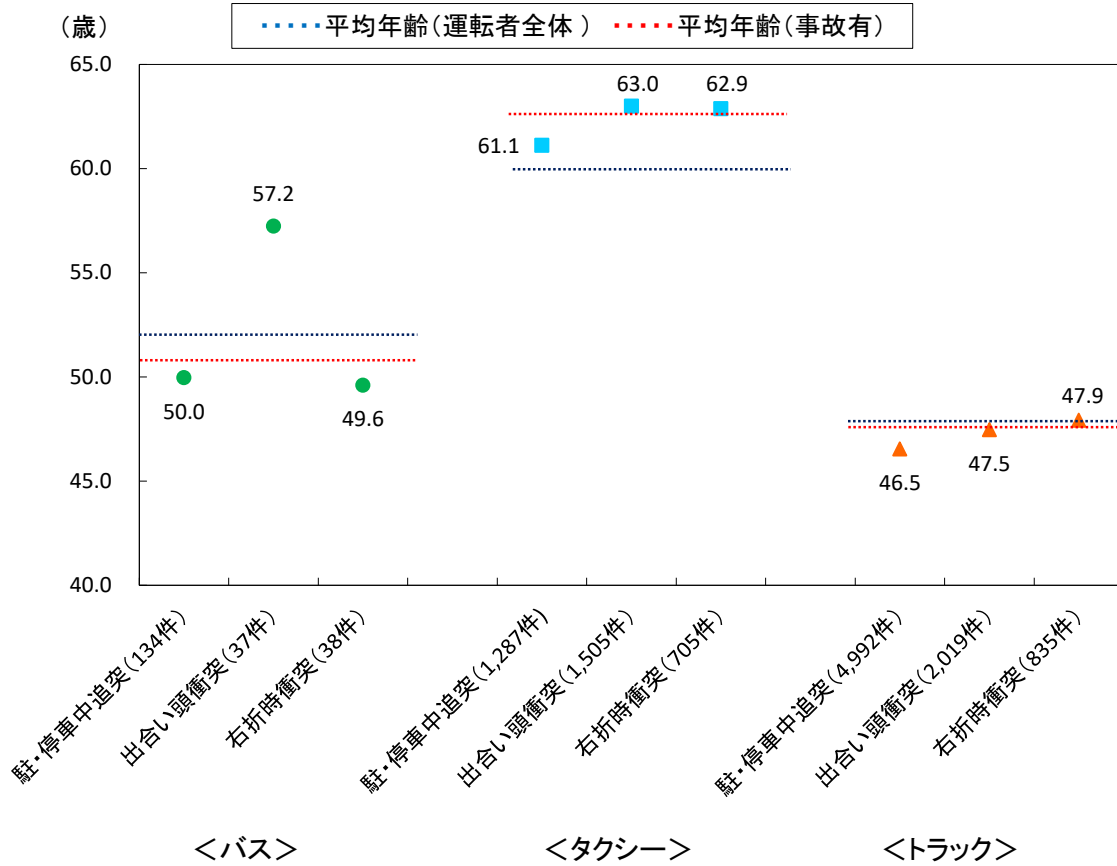
		20歳未満	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75歳以上	合計
バス	乗合	0	15	26	43	52	102	149	152	140	90	33	8	3	813
	貸切	0	2	1	2	2	8	9	13	16	15	14	8	5	95
	その他	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	4
小計		0	17	28	45	55	110	158	165	156	105	49	16	8	912
タクシー	法人	0	50	82	86	112	180	387	618	860	1,070	1,317	1,487	545	6,794
	個人	1	0	2	2	3	7	16	44	42	81	117	193	86	594
その他乗用		0	4	2	6	3	4	10	9	8	7	7	8	3	71
小計		1	54	86	94	118	191	413	671	910	1,158	1,441	1,688	634	7,459
貨物自動車	大型	0	84	178	197	293	437	752	720	571	425	208	88	17	3,970
	中型	0	103	139	148	226	269	455	446	333	274	182	81	15	2,671
	準中型	39	196	160	171	199	229	298	290	246	219	124	66	24	2,261
	普通	7	50	46	41	59	46	67	68	56	38	41	21	7	547
	軽	53	506	421	344	283	282	376	398	386	355	279	250	118	4,051
小計 (トレーラ)		99	939	944	901	1060	1263	1948	1922	1592	1311	834	506	181	13500 (810)
合計		100	1,010	1,058	1,040	1,233	1,564	2,519	2,758	2,658	2,574	2,324	2,210	823	21,871

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 業態別事故類型別事故第1当事者平均年齢

事故第1当事者の平均年齢と運転者全体の平均年齢を比較すると、バスの出合い頭衝突は平均より5歳以上高く、タクシーは事故類型を問わず平均より高い年齢となっている。

〔図 19〕 業態別事故類型別事故第1当事者の運転者平均年齢（車両との事故）（令和2年）



注：() 内は事故件数

業態	バス	タクシー	トラック
平均年齢 (運転者全体)	51.8	59.5	47.9
平均年齢 (事故あり)	50.6	62.7	47.8

- ※ 事故第1当事者の運転者の平均年齢は、年齢層毎の年齢の加重平均により算出
- ※ 上記事故類型は「車両との事故」の事故類型から事故件数の多い3つを抽出

出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
厚生労働省「令和2年賃金構造基本統計調査(全国)」

1-7. 業態別危険認知速度別の交通事故

(1) 業態別危険認知速度別交通事故件数

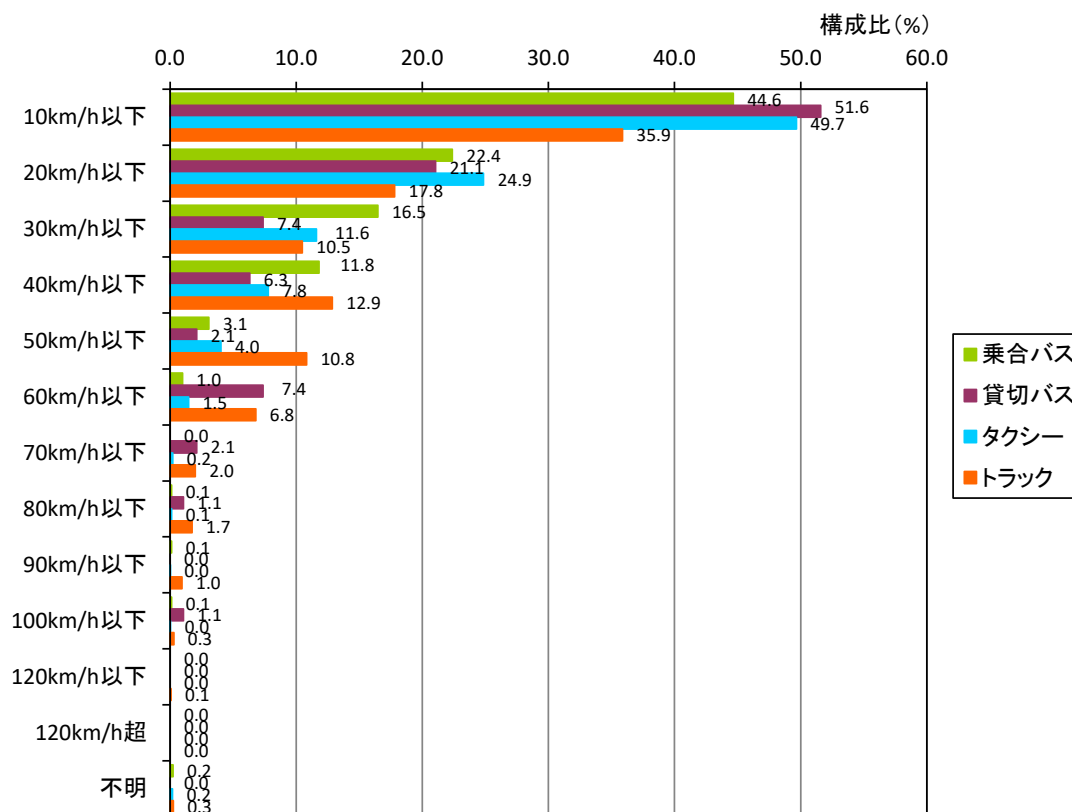
業態別の危険認知速度別交通事故件数をみると、いずれの業態も10km/h以下が最も多く、タクシーは約半数を占めている。表20に認知速度別交通事故件数を、図20に業態別の構成比を示す。

〔表 20〕 業態別危険認知速度別交通事故件数（件）（令和 2年）

区分 速度	交通事故件数						
	バス	乗合	貸切	その他	タクシー	トラック	合計
10km/h以下	415	363	49	3	3,704	4,842	8,961
20km/h以下	202	182	20	0	1,854	2,405	4,461
30km/h以下	141	134	7	0	865	1,417	2,423
40km/h以下	103	96	6	1	580	1,738	2,421
50km/h以下	27	25	2	0	301	1,461	1,789
60km/h以下	15	8	7	0	110	918	1,043
70km/h以下	2	0	2	0	16	270	288
80km/h以下	2	1	1	0	9	235	246
90km/h以下	1	1	0	0	2	129	132
100km/h以下	2	1	1	0	3	40	45
120km/h以下	0	0	0	0	0	11	11
120km/h超	0	0	0	0	0	0	0
不明	2	2	0	0	15	34	51
合計	912	813	95	4	7,459	13,500	21,871

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 20〕 業態別危険認知速度別交通事故件数の構成比（%）（令和 2年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 業態別危険認知速度別交通死亡事故件数

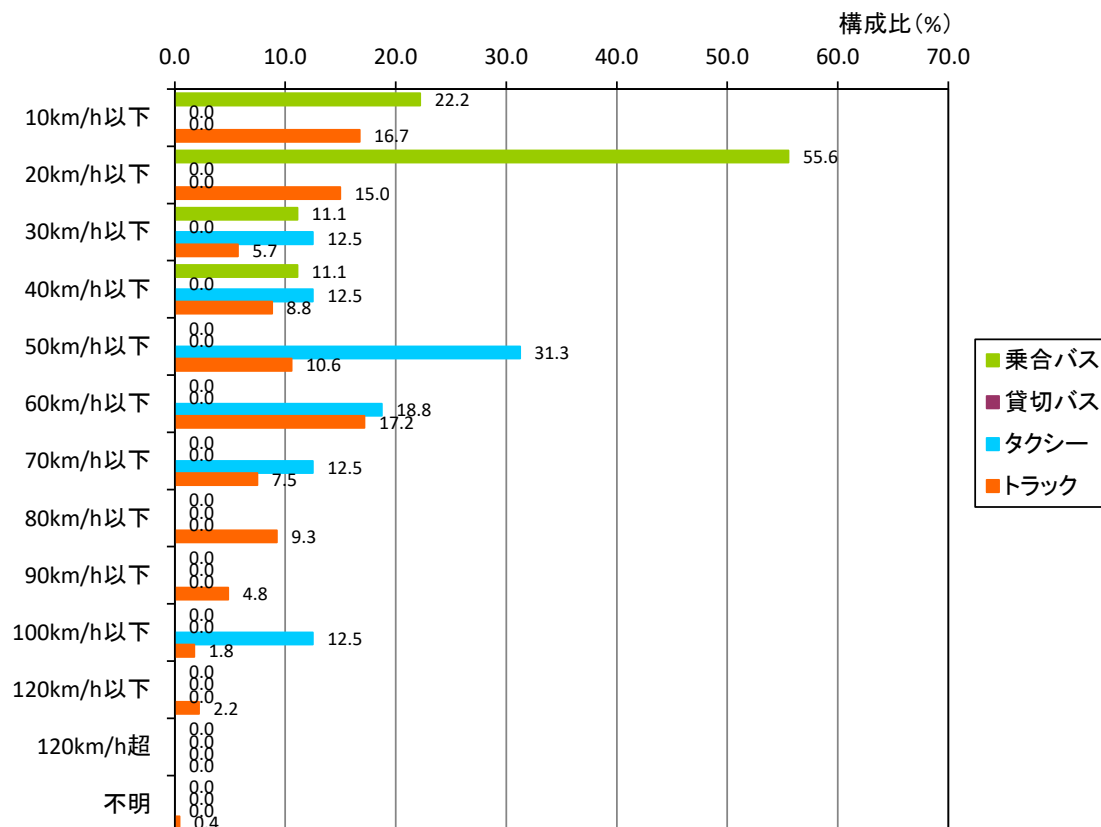
表21に業態別危険認知速度別交通死亡事故件数を、図21に危険認知速度別交通死亡事故件数の業態別の構成比を示す。業態別で見ると、バスは10km/h～20km/h以下、タクシーは40km/h～50km/h以下、トラックは50km/h～60km/h以下が最も多くなっている。

〔表 21〕 業態別危険認知速度別交通死亡事故件数（件）（令和2年）

区分 速度	交通死亡事故件数						合計
	バス	乗合	貸切	その他	タクシー	トラック	
10km/h以下	3	2	0	1	0	38	44
20km/h以下	5	5	0	0	0	34	44
30km/h以下	1	1	0	0	2	13	17
40km/h以下	1	1	0	0	2	20	24
50km/h以下	0	0	0	0	5	24	29
60km/h以下	0	0	0	0	3	39	42
70km/h以下	0	0	0	0	2	17	19
80km/h以下	0	0	0	0	0	21	21
90km/h以下	0	0	0	0	0	11	11
100km/h以下	0	0	0	0	2	4	6
120km/h以下	0	0	0	0	0	5	5
120km/h超	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	0	0	1	1
合計	10	9	0	1	16	227	253

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 21〕 業態別危険認知速度別交通死亡事故件数の構成比（％）（令和2年）



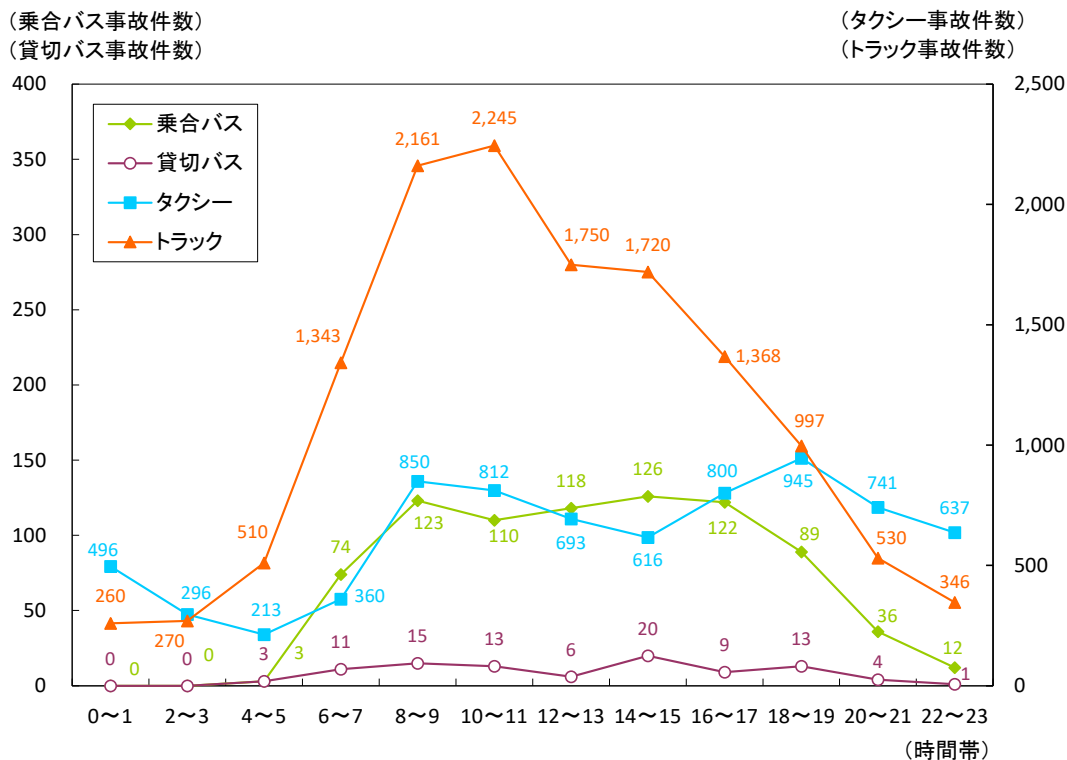
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

1-8. 業態別時間帯別の交通事故

(1) 業態別時間帯別交通事故件数

業態別の時間帯別交通事故件数をみると、乗合バスと貸切バスは14時～15時台、タクシーは18時～19時台、トラックは10時～11時台が最も多い。

〔図 22〕 業態別時間帯別交通事故件数（令和2年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 22〕 業態別時間帯別交通事故件数（件）（令和2年）

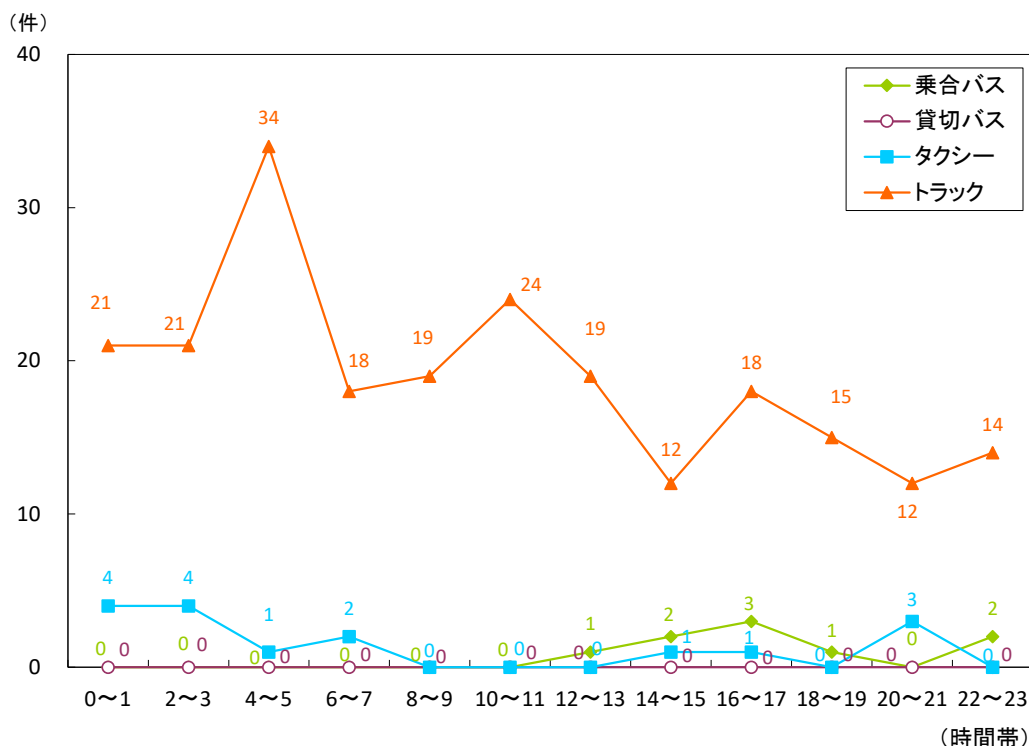
区分	時間帯	0~1	2~3	4~5	6~7	8~9	10~11	12~13	14~15	16~17	18~19	20~21	22~23	合計
		バス	乗合	0	0	3	74	123	110	118	126	122	89	
	貸切	0	0	3	11	15	13	6	20	9	13	4	1	95
	その他	0	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	4
	小計	0	0	6	85	138	123	125	146	133	103	40	13	912
タクシー	法人	444	276	197	334	772	748	643	553	721	865	667	574	6,794
	個人	51	19	14	22	62	57	39	48	71	78	71	62	594
	その他乗用	1	1	2	4	16	7	11	15	8	2	3	1	71
	小計	496	296	213	360	850	812	693	616	800	945	741	637	7,459
トラック	大型	111	107	183	433	622	680	491	474	341	222	162	144	3,970
	中型	63	86	154	329	473	426	346	303	204	118	87	82	2,671
	準中型	44	46	105	252	410	407	318	282	202	112	47	36	2,261
	普通	9	11	15	45	100	95	79	82	54	35	12	10	547
	軽	33	20	53	284	556	637	516	579	567	510	222	74	4,051
	小計	260	270	510	1,343	2,161	2,245	1,750	1,720	1,368	997	530	346	13,500
合計		756	566	729	1,788	3,149	3,180	2,568	2,482	2,301	2,045	1,311	996	21,871

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 業態別時間帯別交通死亡事故件数

業態別の時間帯別交通死亡事故件数をみると、乗合バスは16時～17時台、タクシーは0時～3時台、トラックは4～5時台が最も多い。

〔図 23〕 業態別時間帯別交通死亡事故件数（令和2年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 23〕 業態別時間帯別交通死亡事故件数（件）（令和2年）

区分		時間帯	0～1	2～3	4～5	6～7	8～9	10～11	12～13	14～15	16～17	18～19	20～21	22～23	合計
バス	乗合		0	0	0	0	0	0	1	2	3	1	0	2	9
	貸切		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	小計		0	0	0	0	0	0	1	2	4	1	0	2	10
タクシー	法人		4	3	1	2	0	0	0	1	1	0	3	0	15
	個人		0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
その他乗用			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計			4	4	1	2	0	0	0	1	1	0	3	0	16
トラック	大型		10	9	16	8	13	13	13	6	8	8	7	10	121
	中型		7	9	10	4	3	3	2	3	4	2	1	2	50
	準中型		2	2	5	3	3	7	2	2	2	1	2	0	31
	普通		1	1	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	5
	軽		1	0	3	1	0	1	2	0	4	4	2	2	20
	小計		21	21	34	18	19	24	19	12	18	15	12	14	227
合計			25	25	35	20	19	24	20	15	23	16	15	16	253

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

1-9. 交通事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通事故件数

(1) 交通事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通事故件数

〔表 24〕 交通事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通事故件数（件）（令和2年）

事業の種類 都道府県	バス				タクシー	トラック	合計
	乗合	貸切	その他				
北海道	29 (10)	28 (10)	1 (16)	0 (4)	410 (5)	322 (10)	761 (10)
青森県	8 (20)	7 (21)	1 (16)	0 (4)	30 (26)	59 (37)	97 (36)
岩手県	8 (20)	8 (19)	0 (30)	0 (4)	31 (24)	54 (39)	93 (38)
宮城県	8 (20)	6 (23)	2 (11)	0 (4)	101 (14)	175 (15)	284 (15)
秋田県	1 (42)	0 (46)	1 (16)	0 (4)	8 (42)	32 (44)	41 (45)
山形県	2 (37)	2 (35)	0 (30)	0 (4)	12 (39)	66 (35)	80 (39)
福島県	6 (27)	2 (35)	4 (7)	0 (4)	29 (27)	121 (23)	156 (26)
茨城県	8 (20)	6 (23)	1 (16)	1 (2)	31 (24)	291 (11)	330 (13)
栃木県	5 (31)	5 (27)	0 (30)	0 (4)	25 (31)	140 (19)	170 (24)
群馬県	9 (17)	9 (16)	0 (30)	0 (4)	36 (21)	250 (13)	295 (14)
埼玉県	38 (9)	36 (7)	2 (11)	0 (4)	245 (8)	1,190 (3)	1,473 (5)
千葉県	41 (7)	35 (8)	5 (6)	1 (2)	186 (10)	712 (7)	939 (8)
東京都	163 (1)	144 (1)	17 (1)	2 (1)	1,909 (1)	1,416 (2)	3,488 (1)
神奈川県	113 (2)	106 (2)	7 (3)	0 (4)	586 (4)	1,090 (4)	1,789 (3)
新潟県	8 (20)	8 (19)	0 (30)	0 (4)	24 (32)	79 (30)	111 (32)
富山県	1 (42)	1 (40)	0 (30)	0 (4)	8 (42)	51 (41)	60 (42)
石川県	6 (27)	6 (23)	0 (30)	0 (4)	26 (30)	75 (33)	107 (34)
福井県	2 (37)	1 (40)	1 (16)	0 (4)	6 (45)	38 (42)	46 (44)
山梨県	0 (47)	0 (46)	0 (30)	0 (4)	7 (44)	58 (38)	65 (41)
長野県	6 (27)	5 (27)	1 (16)	0 (4)	34 (22)	139 (20)	179 (22)
岐阜県	5 (31)	5 (27)	0 (30)	0 (4)	17 (37)	137 (21)	159 (25)
静岡県	21 (12)	19 (12)	2 (11)	0 (4)	174 (11)	631 (8)	826 (9)
愛知県	41 (7)	34 (9)	7 (3)	0 (4)	365 (6)	967 (5)	1,373 (6)
三重県	3 (36)	2 (35)	1 (16)	0 (4)	9 (41)	160 (16)	172 (23)
滋賀県	5 (31)	5 (27)	0 (30)	0 (4)	14 (38)	95 (27)	114 (31)
京都府	66 (3)	65 (3)	1 (16)	0 (4)	200 (9)	264 (12)	530 (11)
大阪府	60 (5)	48 (6)	12 (2)	0 (4)	991 (2)	1,714 (1)	2,765 (2)
兵庫県	53 (6)	49 (5)	4 (7)	0 (4)	328 (7)	630 (9)	1,011 (7)
奈良県	6 (27)	4 (32)	2 (11)	0 (4)	12 (39)	111 (24)	129 (30)
和歌山県	2 (37)	1 (40)	1 (16)	0 (4)	19 (36)	79 (30)	100 (35)
鳥取県	1 (42)	1 (40)	0 (30)	0 (4)	4 (46)	24 (46)	29 (46)
島根県	1 (42)	1 (40)	0 (30)	0 (4)	1 (47)	19 (47)	21 (47)
岡山県	7 (25)	5 (27)	2 (11)	0 (4)	41 (19)	158 (17)	206 (16)
広島県	13 (14)	9 (16)	4 (7)	0 (4)	117 (13)	210 (14)	340 (12)
山口県	13 (14)	12 (14)	1 (16)	0 (4)	41 (19)	76 (32)	130 (29)
徳島県	2 (37)	2 (35)	0 (30)	0 (4)	21 (35)	54 (39)	77 (40)
香川県	4 (34)	3 (33)	1 (16)	0 (4)	32 (23)	147 (18)	183 (20)
愛媛県	2 (37)	2 (35)	0 (30)	0 (4)	28 (28)	64 (36)	94 (37)
高知県	4 (34)	3 (33)	1 (16)	0 (4)	23 (33)	29 (45)	56 (43)
福岡県	61 (4)	54 (4)	7 (3)	0 (4)	721 (3)	756 (6)	1,538 (4)
佐賀県	13 (14)	12 (14)	1 (16)	0 (4)	22 (34)	104 (26)	139 (28)
長崎県	23 (11)	23 (11)	0 (30)	0 (4)	89 (15)	71 (34)	183 (20)
熊本県	9 (17)	9 (16)	0 (30)	0 (4)	60 (18)	123 (22)	192 (18)
大分県	1 (42)	1 (40)	0 (30)	0 (4)	28 (28)	80 (29)	109 (33)
宮崎県	7 (25)	7 (21)	0 (30)	0 (4)	66 (17)	82 (28)	155 (27)
鹿児島県	14 (13)	13 (13)	1 (16)	0 (4)	79 (16)	109 (25)	202 (17)
沖縄県	9 (17)	6 (23)	3 (10)	0 (4)	142 (12)	37 (43)	188 (19)
計	912	813	95	4	7,459	13,500	21,871

注1：数値横のカッコ内は順位

注2：都道府県合計には、不明を含む

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 交通事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通死亡事故件数

[表 25] 交通事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通死亡事故件数（件）（令和2年）

事業の種類 都道府県	バス				タクシー	トラック	合計
	乗合	貸切	その他				
北海道	0 (8)	0 (7)	0 (1)	0 (2)	1 (5)	14 (2)	15 (3)
青森県	0 (8)	0 (7)	0 (1)	0 (2)	1 (5)	2 (28)	3 (24)
岩手県	0 (8)	0 (7)	0 (1)	0 (2)	1 (5)	2 (28)	3 (24)
宮城県	0 (8)	0 (7)	0 (1)	0 (2)	0 (13)	6 (12)	6 (12)
秋田県	0 (8)	0 (7)	0 (1)	0 (2)	0 (13)	2 (28)	2 (31)
山形県	0 (8)	0 (7)	0 (1)	0 (2)	0 (13)	2 (28)	2 (31)
福島県	0 (8)	0 (7)	0 (1)	0 (2)	0 (13)	3 (23)	3 (24)
茨城県	0 (8)	0 (7)	0 (1)	0 (2)	0 (13)	10 (7)	10 (9)
栃木県	1 (3)	1 (3)	0 (1)	0 (2)	0 (13)	5 (14)	6 (12)
群馬県	0 (8)	0 (7)	0 (1)	0 (2)	0 (13)	5 (14)	5 (15)
埼玉県	0 (8)	0 (7)	0 (1)	0 (2)	0 (13)	12 (5)	12 (7)
千葉県	1 (3)	0 (7)	0 (1)	1 (1)	2 (1)	13 (3)	16 (2)
東京都	3 (1)	3 (1)	0 (1)	0 (2)	2 (1)	8 (9)	13 (5)
神奈川県	2 (2)	2 (2)	0 (1)	0 (2)	0 (13)	11 (6)	13 (5)
新潟県	0 (8)	0 (7)	0 (1)	0 (2)	0 (13)	2 (28)	2 (31)
富山県	0 (8)	0 (7)	0 (1)	0 (2)	0 (13)	0 (45)	0 (45)
石川県	0 (8)	0 (7)	0 (1)	0 (2)	0 (13)	4 (17)	4 (18)
福井県	0 (8)	0 (7)	0 (1)	0 (2)	0 (13)	0 (45)	0 (45)
山梨県	0 (8)	0 (7)	0 (1)	0 (2)	0 (13)	1 (40)	1 (42)
長野県	0 (8)	0 (7)	0 (1)	0 (2)	0 (13)	2 (28)	2 (31)
岐阜県	0 (8)	0 (7)	0 (1)	0 (2)	0 (13)	3 (23)	3 (24)
静岡県	0 (8)	0 (7)	0 (1)	0 (2)	1 (5)	7 (10)	8 (10)
愛知県	0 (8)	0 (7)	0 (1)	0 (2)	2 (1)	10 (7)	12 (7)
三重県	0 (8)	0 (7)	0 (1)	0 (2)	1 (5)	4 (17)	5 (15)
滋賀県	0 (8)	0 (7)	0 (1)	0 (2)	0 (13)	5 (14)	5 (15)
京都府	0 (8)	0 (7)	0 (1)	0 (2)	0 (13)	4 (17)	4 (18)
大阪府	0 (8)	0 (7)	0 (1)	0 (2)	1 (5)	24 (1)	25 (1)
兵庫県	0 (8)	0 (7)	0 (1)	0 (2)	1 (5)	7 (10)	8 (10)
奈良県	1 (3)	1 (3)	0 (1)	0 (2)	0 (13)	2 (28)	3 (24)
和歌山県	0 (8)	0 (7)	0 (1)	0 (2)	0 (13)	1 (40)	1 (42)
鳥取県	0 (8)	0 (7)	0 (1)	0 (2)	0 (13)	1 (40)	1 (42)
島根県	0 (8)	0 (7)	0 (1)	0 (2)	0 (13)	2 (28)	2 (31)
岡山県	0 (8)	0 (7)	0 (1)	0 (2)	0 (13)	4 (17)	4 (18)
広島県	0 (8)	0 (7)	0 (1)	0 (2)	0 (13)	6 (12)	6 (12)
山口県	0 (8)	0 (7)	0 (1)	0 (2)	0 (13)	2 (28)	2 (31)
徳島県	0 (8)	0 (7)	0 (1)	0 (2)	0 (13)	4 (17)	4 (18)
香川県	0 (8)	0 (7)	0 (1)	0 (2)	0 (13)	3 (23)	3 (24)
愛媛県	0 (8)	0 (7)	0 (1)	0 (2)	0 (13)	2 (28)	2 (31)
高知県	0 (8)	0 (7)	0 (1)	0 (2)	0 (13)	2 (28)	2 (31)
福岡県	0 (8)	0 (7)	0 (1)	0 (2)	2 (1)	13 (3)	15 (3)
佐賀県	0 (8)	0 (7)	0 (1)	0 (2)	0 (13)	4 (17)	4 (18)
長崎県	0 (8)	0 (7)	0 (1)	0 (2)	0 (13)	2 (28)	2 (31)
熊本県	1 (3)	1 (3)	0 (1)	0 (2)	0 (13)	1 (40)	2 (31)
大分県	0 (8)	0 (7)	0 (1)	0 (2)	1 (5)	3 (23)	4 (18)
宮崎県	1 (3)	1 (3)	0 (1)	0 (2)	0 (13)	1 (40)	2 (31)
鹿児島県	0 (8)	0 (7)	0 (1)	0 (2)	0 (13)	3 (23)	3 (24)
沖縄県	0 (8)	0 (7)	0 (1)	0 (2)	0 (13)	0 (45)	0 (45)
計	10	9	0	1	16	227	253

注1：数値横のカッコ内は順位

注2：都道府県合計には、不明を含む

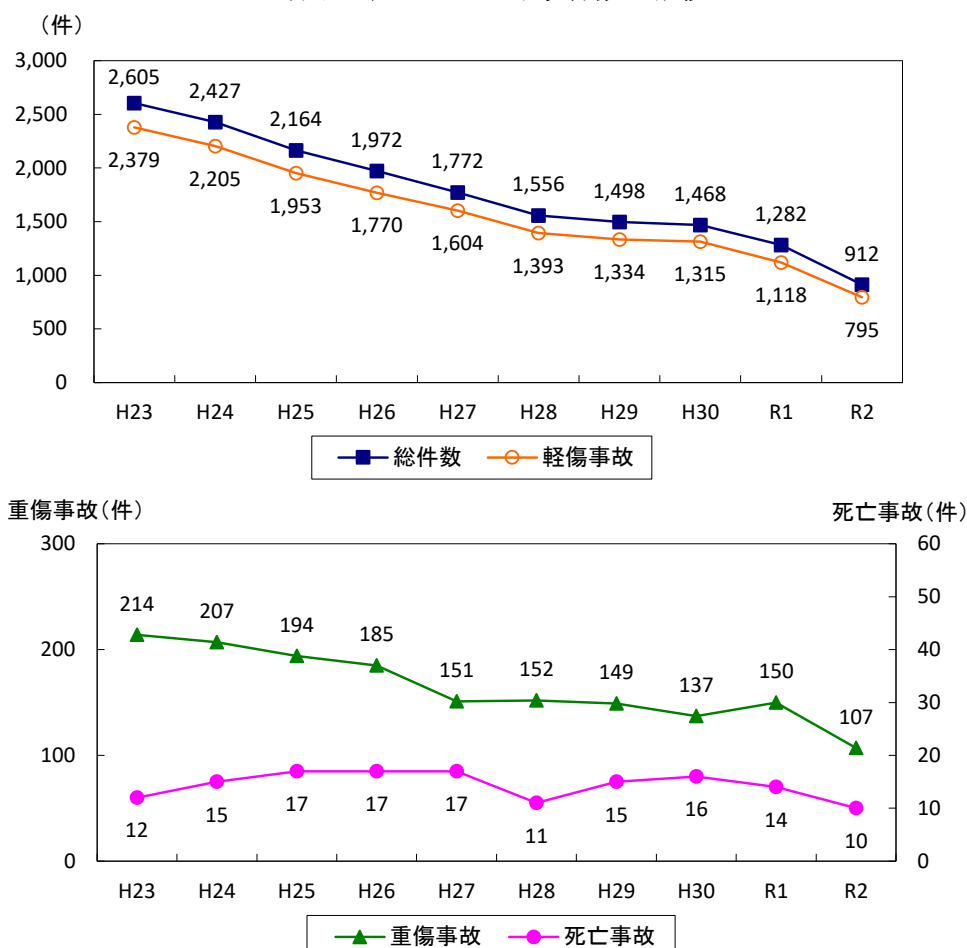
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

2. バスの事故

(1) バスの事故件数、死傷事故件数の推移

バス（事業用）による交通事故について、総件数、軽傷事故件数、重傷事故件数は近年減少傾向となっている。また、交通死亡事故件数は近年横ばいだったものの、前年と比べて令和2年は大幅に減少している。

〔図 24〕 バスの事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 26〕 バスの事故件数の推移（件）

年	区分	総件数	軽傷事故	重傷事故	死亡事故
H23		2,605	2,379	214	12
H24		2,427	2,205	207	15
H25		2,164	1,953	194	17
H26		1,972	1,770	185	17
H27		1,772	1,604	151	17
H28		1,556	1,393	152	11
H29		1,498	1,334	149	15
H30		1,468	1,315	137	16
R1		1,282	1,118	150	14
R2		912	795	107	10

※バス種別区分の乗合、貸切、その他の合計値

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) バス事故のうち、同乗者の死傷事故件数

運転者が第1当事者となったバス事故の、業態別の同乗者の死傷事故件数は、以下の通りであった。

[表 27] バス事故のうち、同乗者の死傷事故件数 (件)

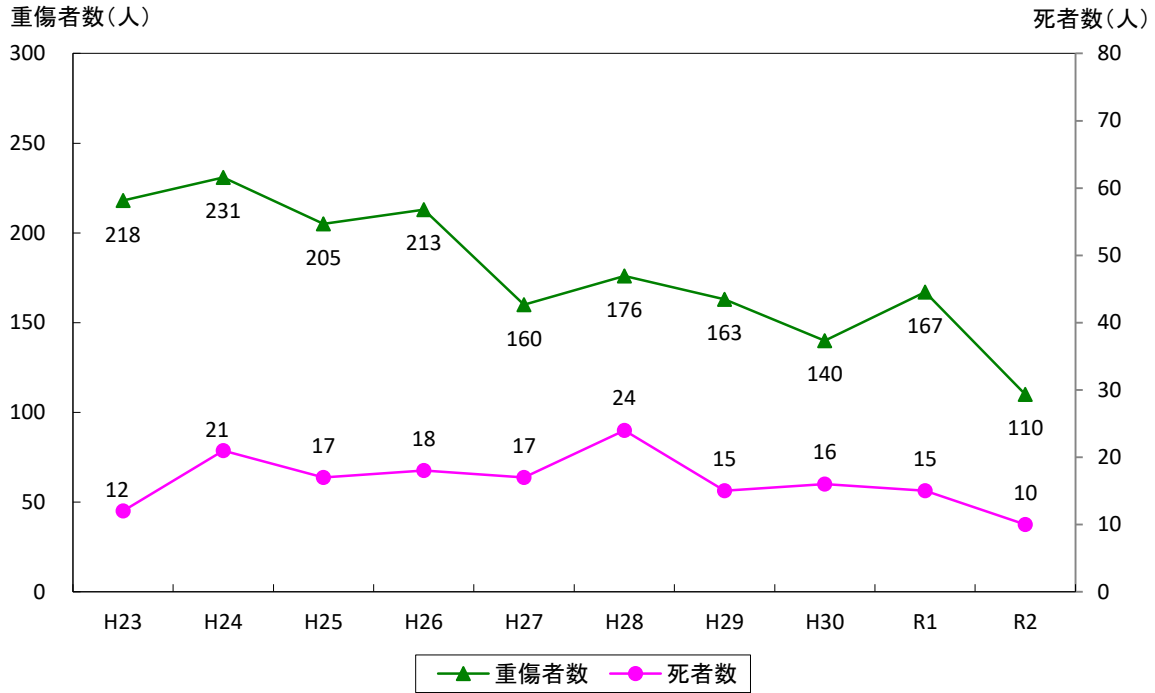
	死亡	重傷	軽傷	合計
乗合	0	43	285	328
貸切	0	1	6	7
その他	0	0	0	0
計	0	44	291	335

出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) バス事故の死傷者数の推移

バス（事業用）による交通事故の重傷者数は近年減少傾向となっており、令和2年は前年と比べて57人減少した。死者数は近年横ばいだったものの、令和2年は過去10年間で最小となっている。

〔図 25〕 バス事故の死傷者数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 28〕 バス事故の死傷者数の推移(人)

年	区分	死傷者合計	軽傷者数	重傷者数	死者数
H23		3,320	3,090	218	12
H24		3,083	2,831	231	21
H25		2,872	2,650	205	17
H26		2,586	2,355	213	18
H27		2,325	2,148	160	17
H28		2,123	1,923	176	24
H29		1,926	1,748	163	15
H30		1,890	1,734	140	16
R1		1,667	1,485	167	15
R2		1,071	951	110	10

※バス種別区分の乗合、貸切、その他の合計値

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(4) バスの事故のうち、同乗者の死傷者数

運転者が第1当事者となったバス事故の、業態別の同乗者の死傷者数は、以下の通りであった。

〔表 29〕 バス事故のうち、同乗者の死傷者数（人）

	死亡	重傷	軽傷	合計
乗合	0	45	334	379
貸切	0	1	16	17
その他	0	0	0	0
計	0	46	350	396

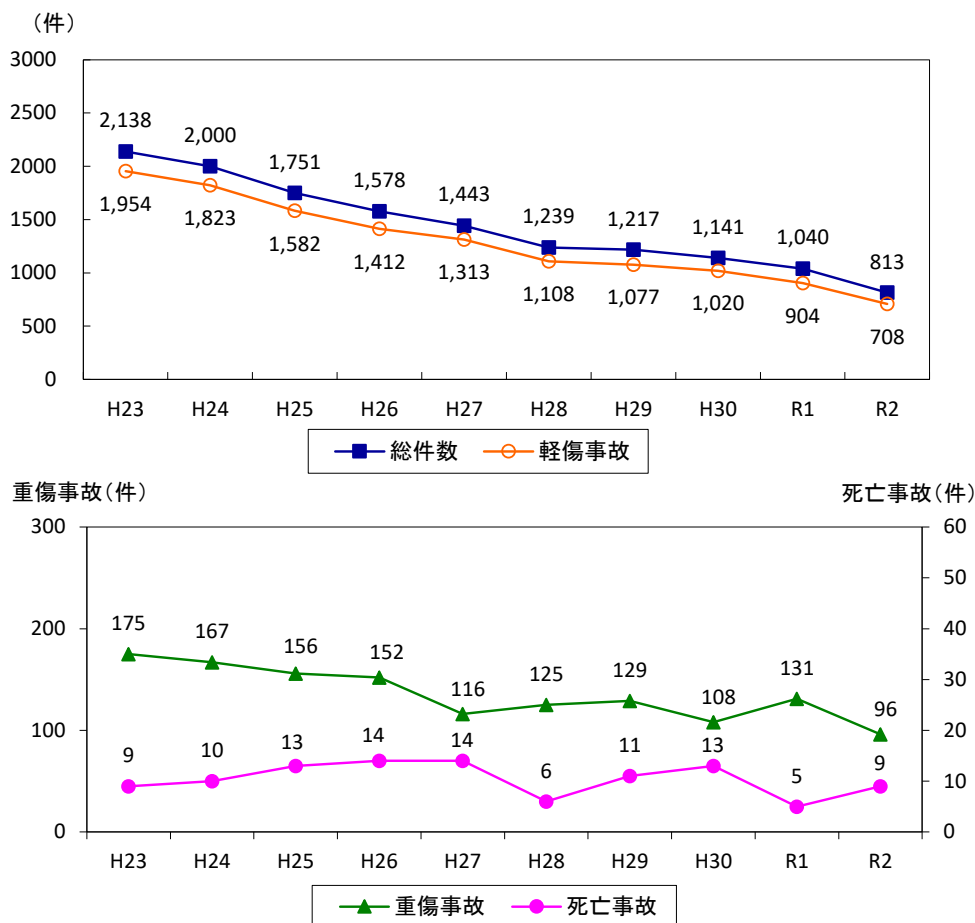
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

2-1. 乗合バスの交通事故

(1) 乗合バスの交通事故件数、交通死傷事故件数の推移

乗合バスによる交通事故について、総件数、軽傷事故件数、重傷事故件数は近年減少傾向となっている。また、交通死亡事故件数は近年横ばいであり、前年と比べて令和2年は4件増加している。

〔図 26〕 乗合バスの事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 30〕 乗合バスの事故件数の推移（件）

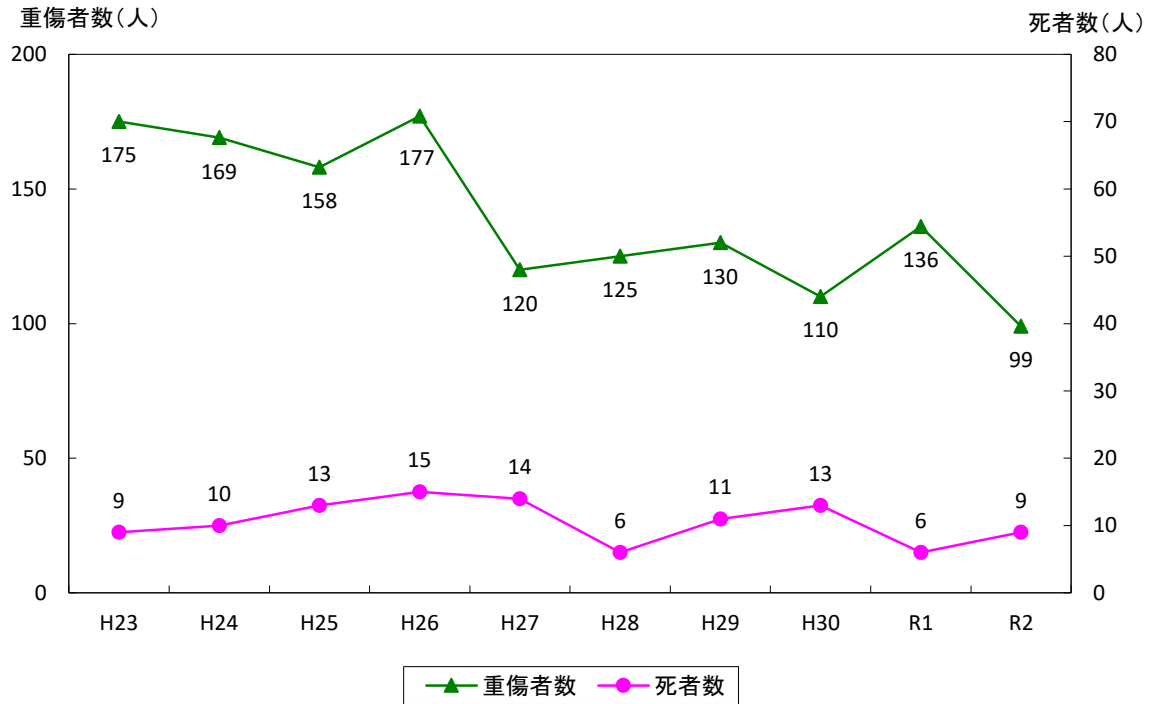
区分	総件数	軽傷事故	重傷事故	死亡事故
H23	2,138	1,954	175	9
H24	2,000	1,823	167	10
H25	1,751	1,582	156	13
H26	1,578	1,412	152	14
H27	1,443	1,313	116	14
H28	1,239	1,108	125	6
H29	1,217	1,077	129	11
H30	1,141	1,020	108	13
R1	1,040	904	131	5
R2	813	708	96	9

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 乗合バス事故の死傷者数の推移

乗合バスによる交通事故の重傷者数は近年減少傾向となっており、令和2年は前年と比べて37人減少した。死者数は近年横ばいであり、前年と比べて令和2年は3人増加している。

〔図 27〕 乗合バス事故の死傷者数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 31〕 乗合バス事故の死傷者数の推移（人）

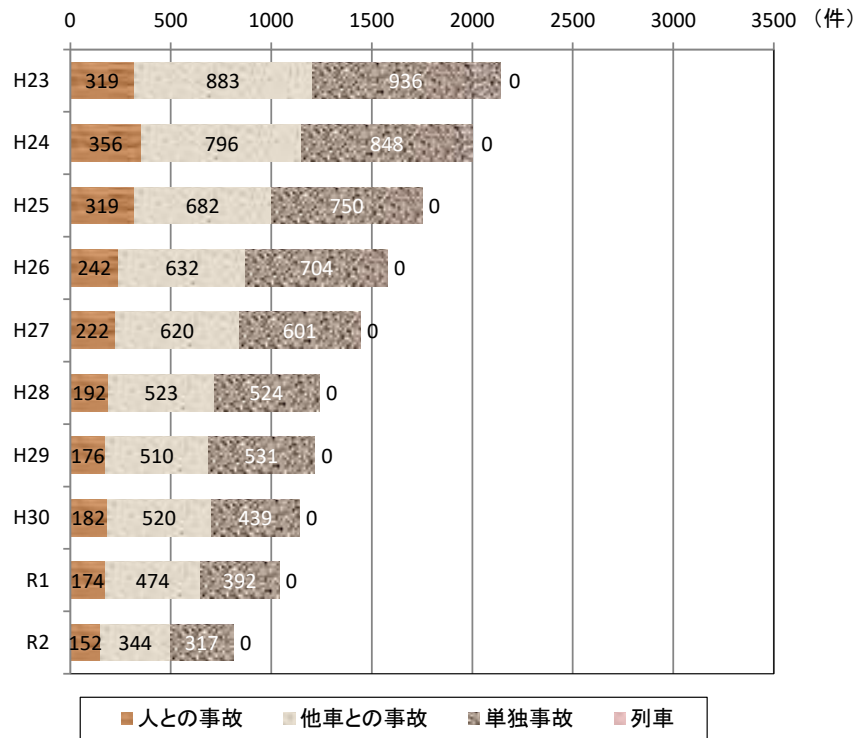
年	区分	死傷者合計	軽傷者数	重傷者数	死者数
H23		2,510	2,326	175	9
H24		2,318	2,139	169	10
H25		2,066	1,895	158	13
H26		1,933	1,741	177	15
H27		1,739	1,605	120	14
H28		1,482	1,351	125	6
H29		1,452	1,311	130	11
H30		1,429	1,306	110	13
R1		1,276	1,134	136	6
R2		933	825	99	9

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) 乗合バスの事故類型別交通事故件数の推移

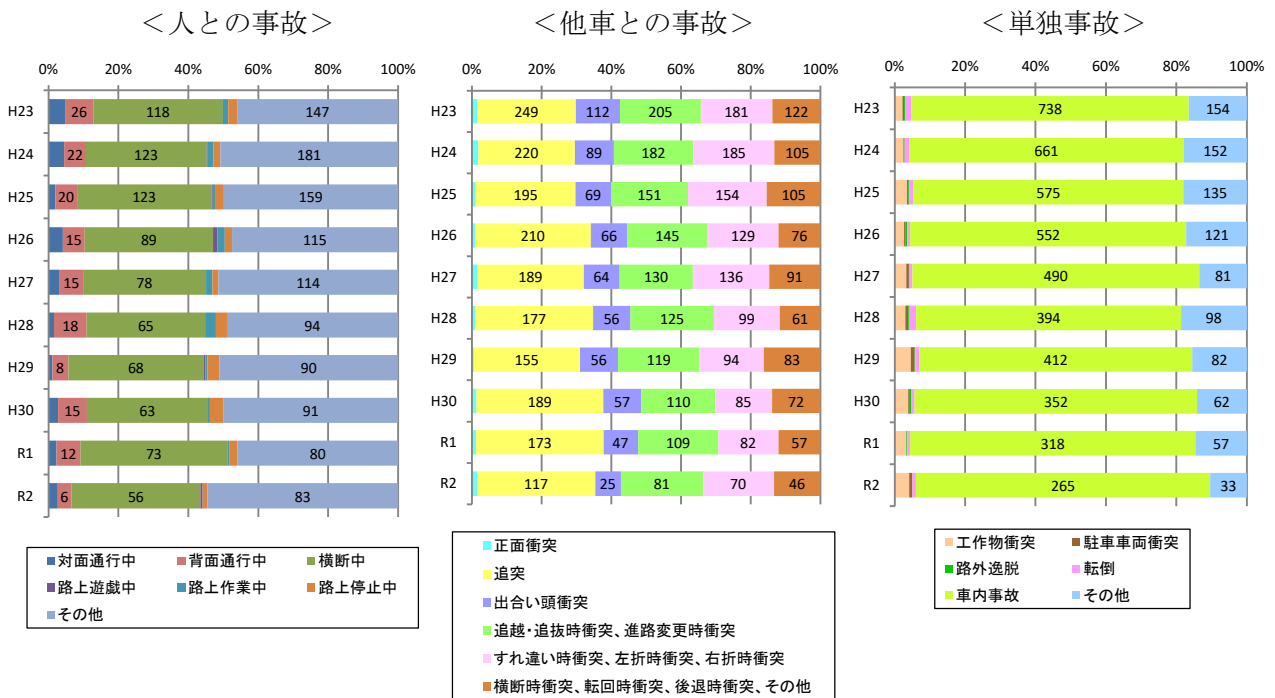
乗合バスの交通事故を事故の種類で類型化すると、他車との事故と単独事故が多く、合計で約80%を占めている。また、単独事故のうち約80%が車内事故である。

〔図 28〕 乗合バスの事故類型別交通事故件数の推移



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 29〕 乗合バスの事故類型別交通事故件数の内訳の推移

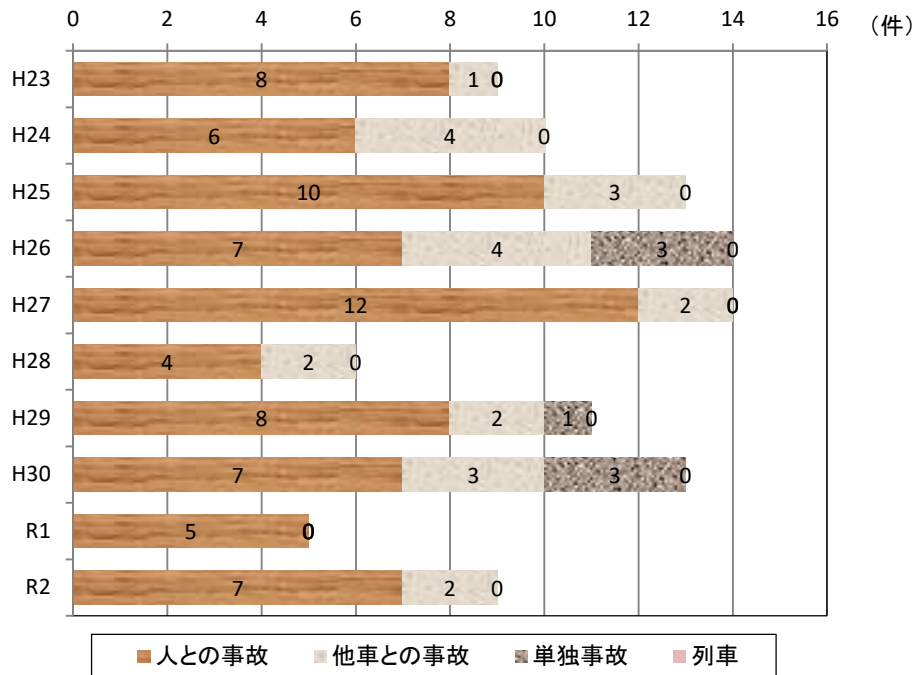


出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故」

(4) 乗合バスの事故類型別交通死亡事故件数の推移

乗合バスの交通死亡事故を事故の種類で類型化すると、ほぼ人との事故である。令和2年は人との事故が7件、他車との事故が2件であり、単独事故や列車との交通死亡事故は発生しなかった。

〔図 30〕 乗合バスの事故類型別交通死亡事故件数の推移

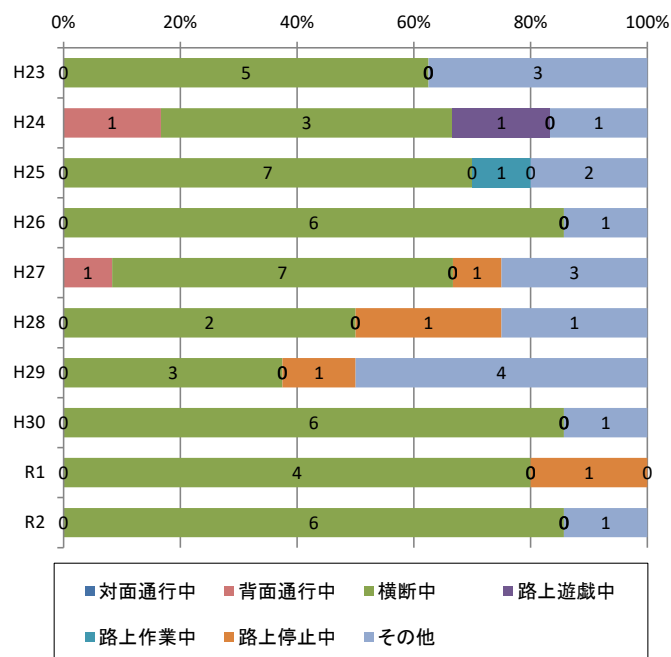


出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(5) 乗合バスの事故類型別交通死亡事故件数の内訳（人との事故）

人との交通死亡事故は、歩行者が横断中に発生する事故が最も多い。

〔図 31〕 乗合バスの事故類型別交通死亡事故件数の内訳（人との事故）



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(6) 乗合バスの事故類型別交通死亡事故件数の内訳（他車との事故）

乗合バスの交通死亡事故のうち他車との事故について、特に偏った特徴は見られない。

〔表 32〕 乗合バスの事故類型別死亡事故件数の内訳（件）（他車との事故）

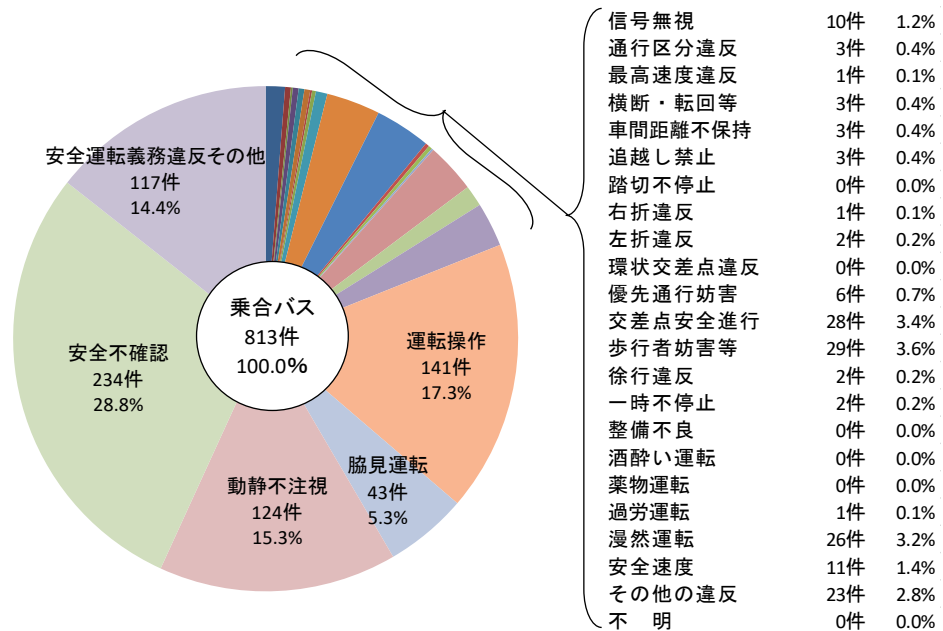
区分 年	正面衝突	追突	出会い頭衝突	追越・追抜時衝突、進路変更時衝突	すれ違い時衝突、左折時衝突、右折時衝突	横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他
H23	0	0	1	0	0	0
H24	1	0	2	0	1	0
H25	0	0	1	0	2	0
H26	0	1	1	0	2	0
H27	0	0	0	0	1	1
H28	0	1	0	0	1	0
H29	0	0	0	1	1	0
H30	0	0	2	0	1	0
R1	0	0	0	0	0	0
R2	0	0	0	0	2	0

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故」

(7) 乗合バスの法令違反別の交通事故件数の割合

乗合バスでは、「安全不確認」234件（28.8%）、「運転操作」141件（17.3%）、「動静不注視」124件（15.3%）といった法令違反の交通事故が多い。「運転操作」は車内事故発生の要因の一つと考えられる。

〔図 32〕 乗合バスの法令違反別の交通事故件数の割合（令和2年）

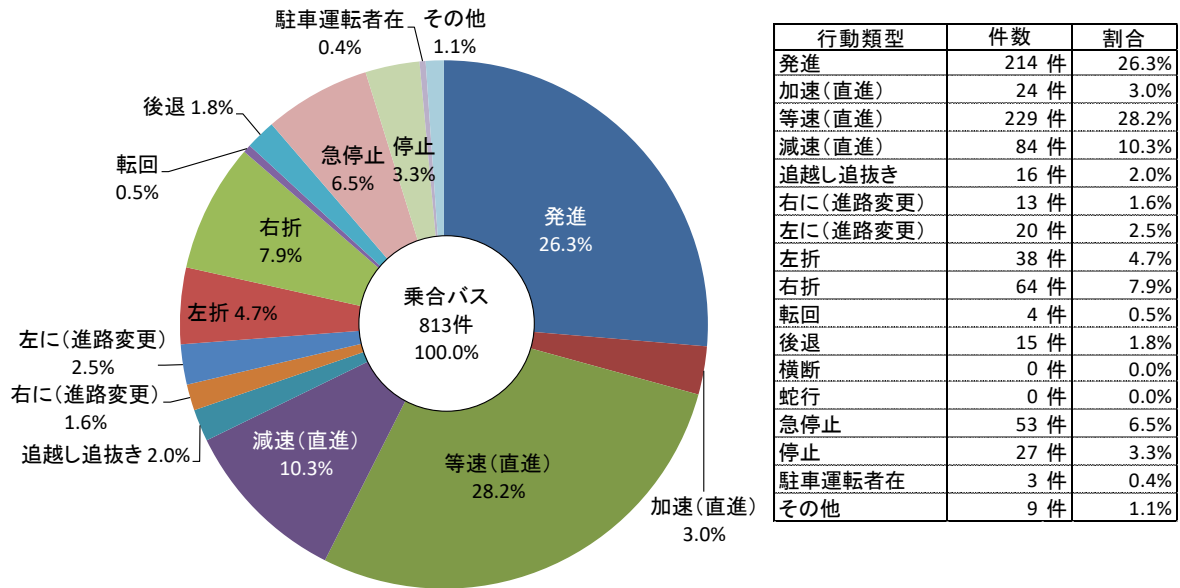


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(8) 乗合バスの行動類型別交通事故件数の割合

乗合バスの交通事故をバスの動きで類型化すると、等速（直進）時と発進時が多く、合計で半数を超えている。

〔図 33〕 乗合バスの行動類型別事故件数の割合（令和 2 年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(9) 乗合バスの事故類型別、衝突地点別交通事故件数

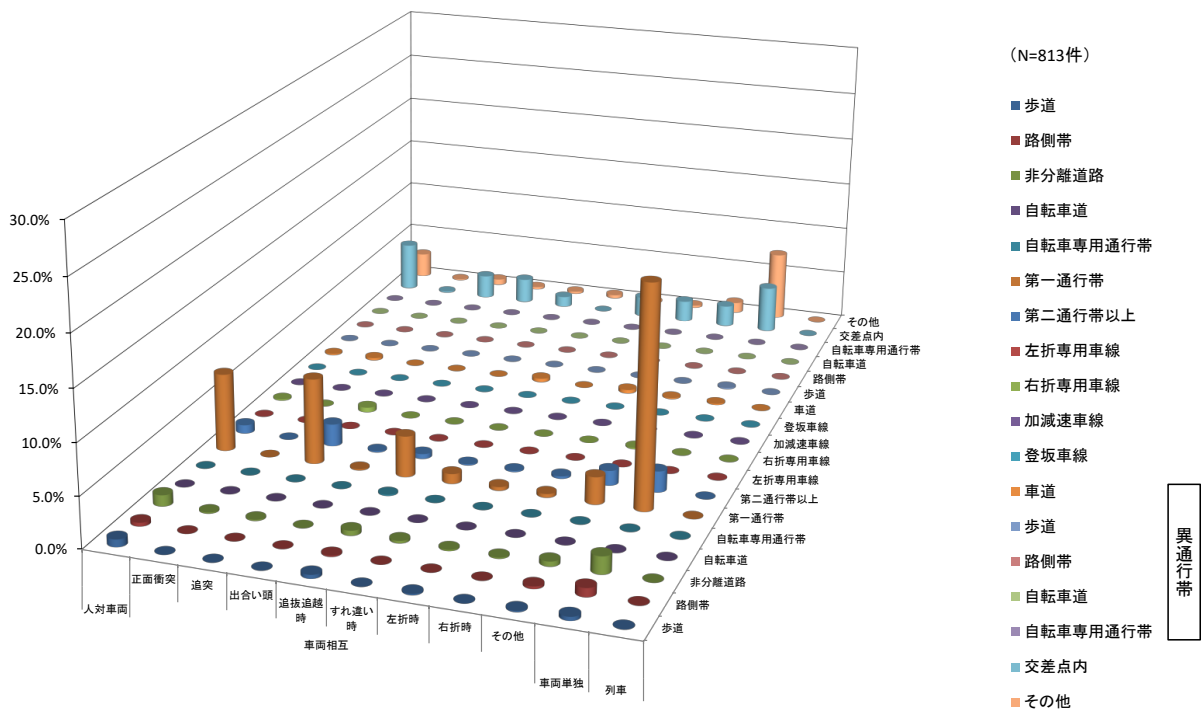
乗合バスの事故類型別、衝突地点別交通事故件数と構成比をそれぞれ表33と図34に、交通死亡事故件数と構成比をそれぞれ表34と図35に示す。第一通行帯での単独事故が177件と20%を超えており、最も多くなっている。

〔表 33〕 乗合バスの事故類型別、衝突地点別交通事故件数（件）（令和2年）

	人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計	
		正面衝突	追突	出合い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他				
単路（交差点付近を含む）	歩道	6	0	0	0	3	0	1	0	1	3	0	14
	路側帯	3	0	0	0	1	0	0	0	2	7	0	13
	非分離道路	9	1	1	0	4	2	1	1	4	14	0	37
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	第一通行帯	63	0	69	1	33	8	3	3	22	177	0	379
	第二通行帯以上	7	0	18	1	4	1	1	2	12	17	0	63
	左折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	右折専用車線	1	0	4	0	0	0	0	0	1	0	0	6
	加減速車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
異通行帯	登坂車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	車道	1	2	0	0	0	3	0	3	1	1	0	11
	歩道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	路側帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
交差点内	41	1	20	21	9	0	17	18	18	39	0	184	
その他	21	1	5	2	2	3	1	2	9	58	0	104	
合計	152	5	117	25	57	17	24	29	70	317	0	813	

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 34〕 乗合バスの事故類型別、衝突地点別交通事故件数の構成比（％）（令和2年）



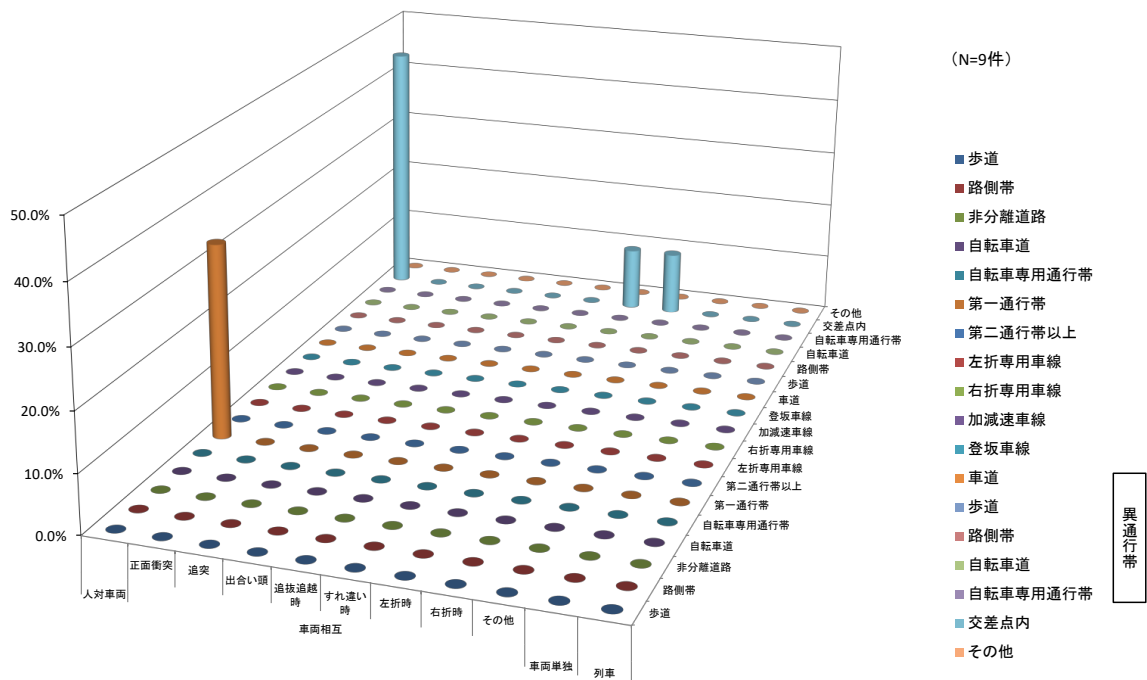
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 34〕 乗合バスの事故類型別、衝突地点別交通死亡事故件数（件）（令和2年）

	人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計	
		正面衝突	追突	出合い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他				
単路（交差点付近を含む）	歩道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	路側帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非分離道路	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	第一通行帯	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	第二通行帯以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	左折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	右折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	加減速車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	登坂車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
異通行帯	車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	歩道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	路側帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交差点内	4	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	6	
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	7	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	9	

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 35〕 乗合バスの事故類型別、衝突地点別交通死亡事故件数の構成比（％）（令和2年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(10) 乗合バスの事故類型別、行動類型別交通事故件数

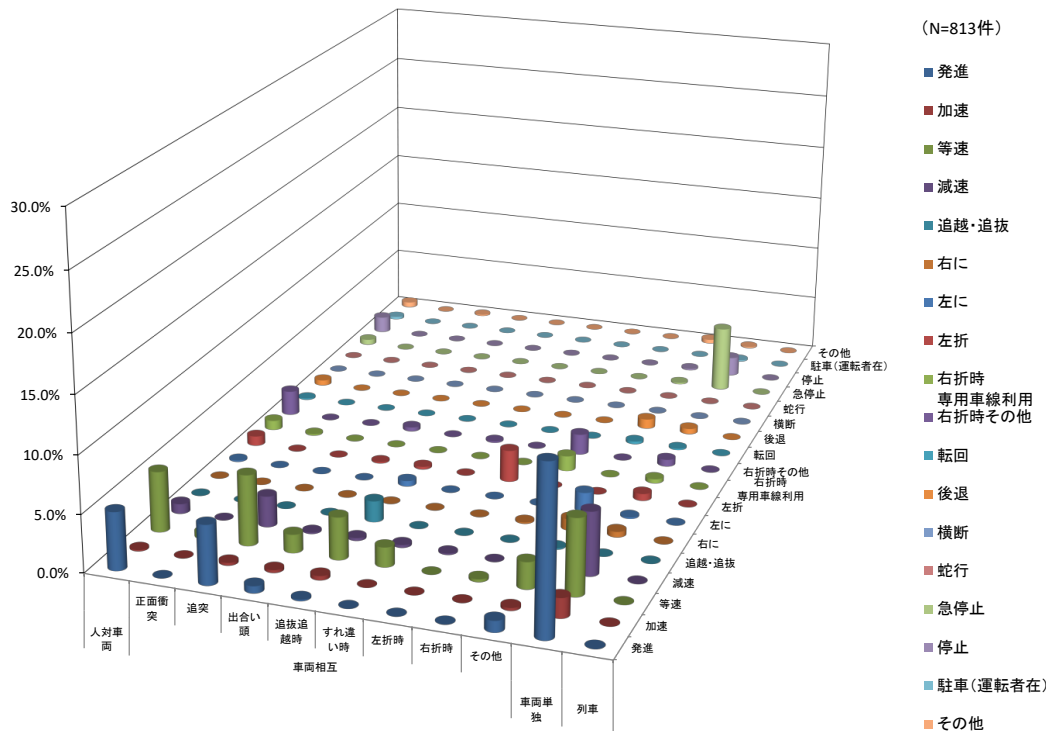
乗合バスの事故類型別、行動類型別交通事故件数と構成比をそれぞれ表35と図36に、交通死亡事故件数と構成比をそれぞれ表36と図37に示す。発進時の単独事故が最も多く117件（約14%）となっている。

〔表 35〕 乗合バスの事故類型別、行動類型別交通事故件数（件）（令和2年）

	人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計	
		正面衝突	追突	出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他				
発進	41	0	42	5	1	0	0	0	8	117	0	214	
直進	加速	1	0	2	2	3	0	0	0	2	14	0	24
	等速	43	4	50	13	30	14	0	2	19	54	0	229
	減速	7	0	22	1	2	2	1	0	4	45	0	84
追越・追抜	0	0	0	0	15	0	0	0	1	0	0	16	
進路変更	右に	0	0	0	0	0	0	0	1	8	4	0	13
	左に	1	0	0	0	4	0	0	0	14	1	0	20
左折	7	0	0	1	2	0	23	0	0	5	0	38	
右折時	専用車線利用	7	1	0	0	0	0	0	11	0	3	0	22
	その他	18	0	0	3	0	1	0	15	0	5	0	42
転回	1	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	4	
後退	4	0	0	0	0	0	0	0	7	4	0	15	
横断	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
蛇行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
急停止	4	0	0	0	0	0	0	0	1	48	0	53	
停止	12	0	0	0	0	0	0	0	1	14	0	27	
駐車(運転者在)	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	
その他	4	0	1	0	0	0	0	0	3	1	0	9	
合計	152	5	117	25	57	17	24	29	70	317	0	813	

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 36〕 乗合バスの事故類型別、行動類型別交通事故件数の構成比（%）（令和2年）



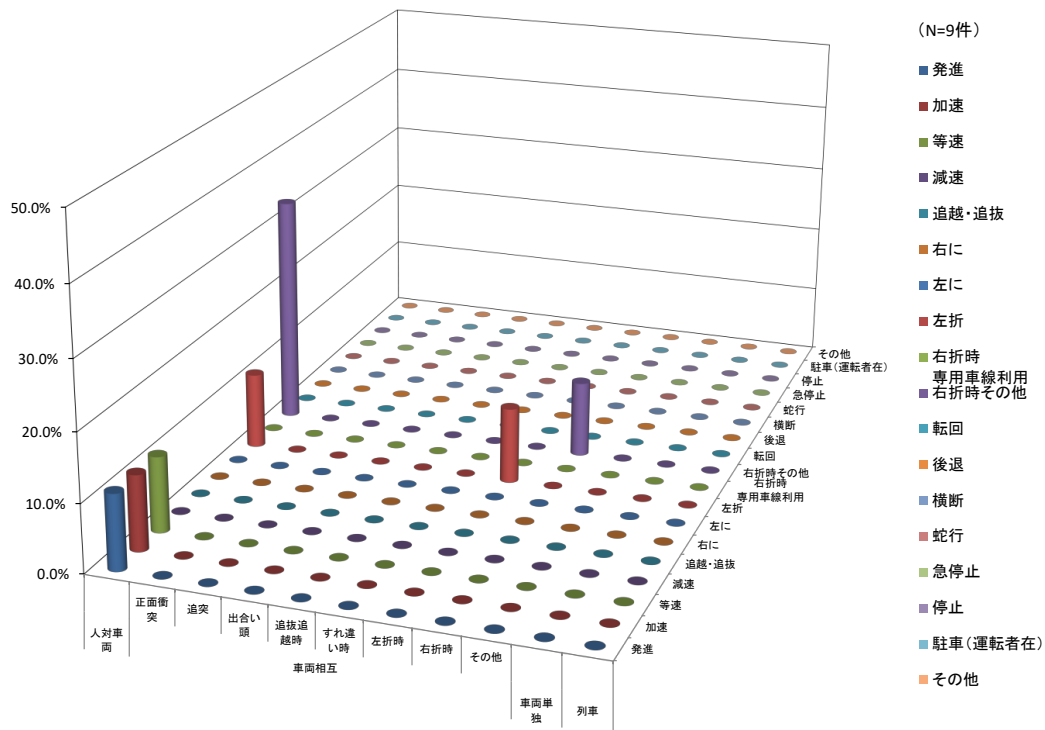
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 36〕 乗合バスの事故類型別、行動類型別交通死亡事故件数（件）（令和2年）

	人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計
		正面衝突	追突	出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他			
発進	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
直進	加速	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	等速	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	減速	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	追越・追抜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
進路変更	右に	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	左に	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	左折	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
右折時	専用車線利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4
	転回	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	後退	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	横断	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	蛇行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	急停止	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	停止	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	駐車(運転者在)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	7	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	9

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 37〕 乗合バスの事故類型別、行動類型別交通死亡事故件数の構成比（%）（令和2年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(11) 乗合バスの行動類型別、車内事故件数の推移

乗合バスの車内事故件数は近年減少傾向となっており、令和2年は265件と前年と比べて約17%減少している。

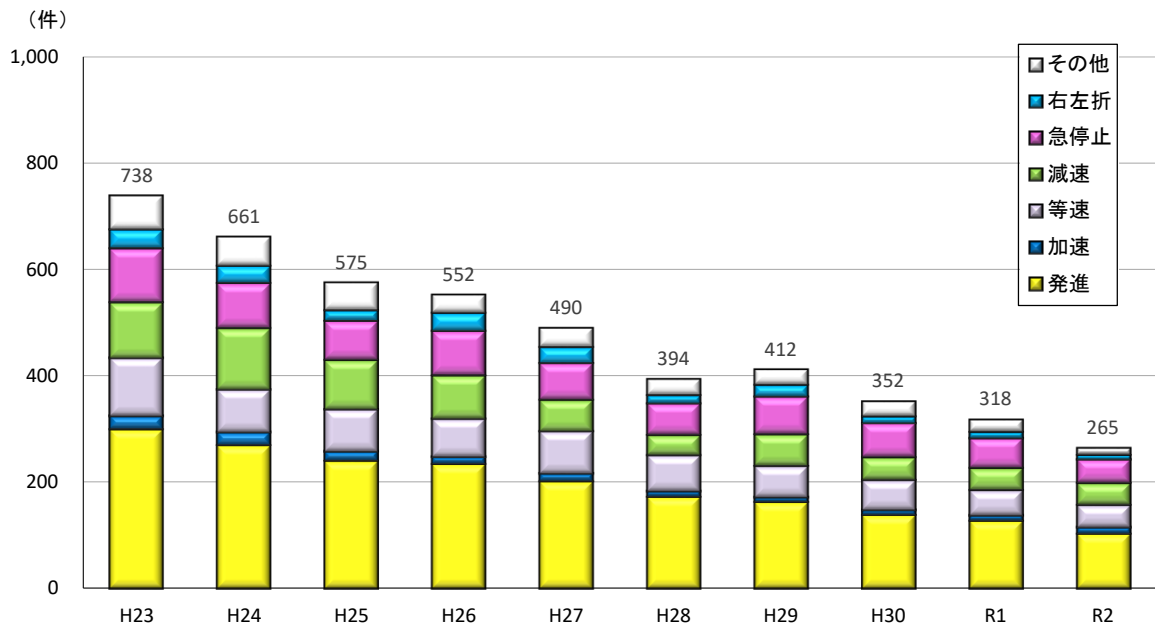
また、発生時のバスの動きで類型化すると、発進時が103件、直進時が96件、急停止が44件となっており、合計で90%を超えている。

〔表 37〕 乗合バスの行動類型別、車内事故件数の推移（件）

区分		年									
		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
発進		298	268	239	233	201	172	162	138	127	103
直進	加速	25	25	18	14	15	11	10	10	11	13
	等速	110	81	80	72	80	68	59	57	48	42
	減速	105	116	93	82	59	38	59	42	41	41
急停止		101	84	73	83	69	59	71	64	56	44
右左折		35	32	20	34	30	16	22	13	12	9
その他		64	55	52	34	36	30	29	28	23	13
合計		738	661	575	552	490	394	412	352	318	265

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 38〕 乗合バスの行動類型別、車内事故件数の推移

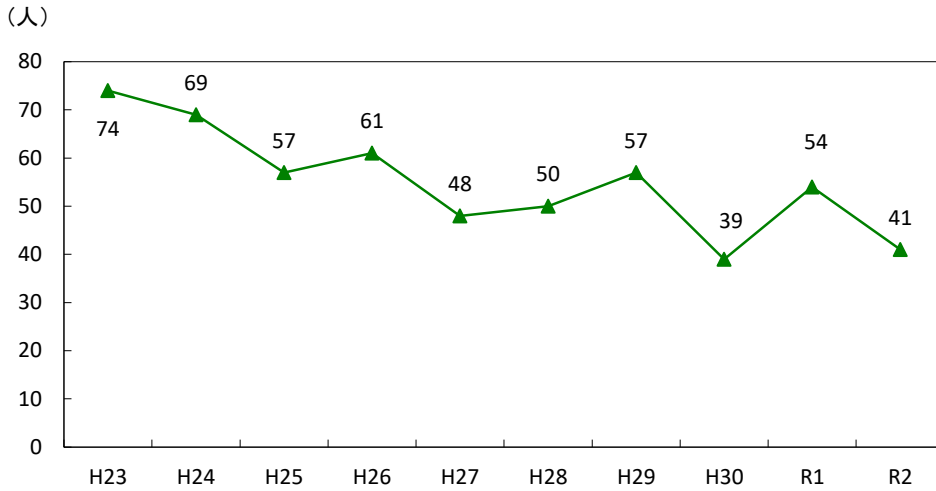


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(12) 乗合バスの車内事故による重傷者数の推移

乗合バスの車内事故による重傷者数は、令和2年は前年と比べて13人減少している。

〔図 39〕 乗合バスの車内事故による重傷者数の推移

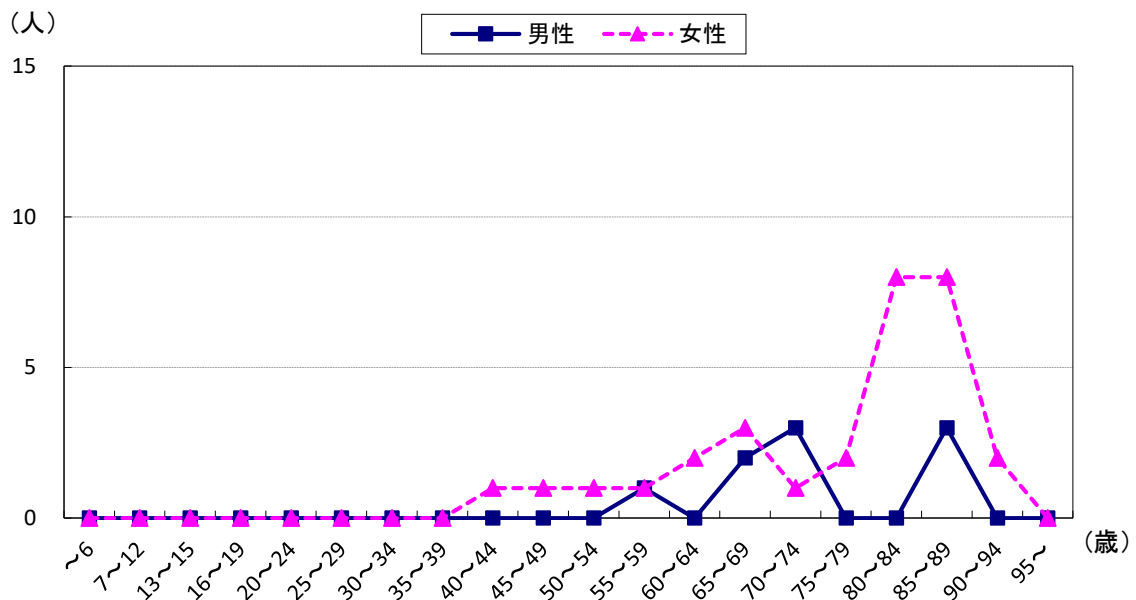


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(13) 乗合バスの車内事故による重傷者数の男女別年齢分布

乗合バスの車内事故による重傷者数は高齢者が多く、特に女性の80歳代が多くなっている。

〔図 40〕 乗合バスの車内事故による重傷者数の男女別年齢分布（令和2年）

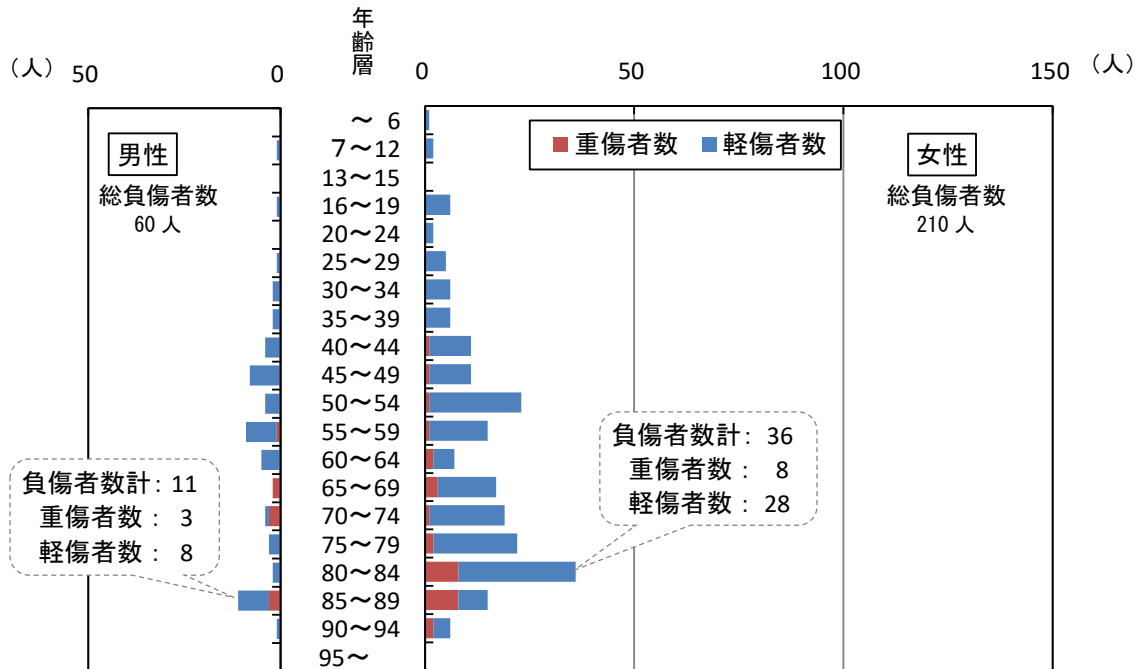


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(14) 乗合バスの車内事故による男女別負傷者数の年齢分布

乗合バスの車内事故による負傷者数は男女とも高齢者が多くなっている。なお、男性に比べて女性の総負傷者数が3.5倍となっている。

〔図 41〕 乗合バスの車内事故による男女別年齢層別負傷者数（令和2年）

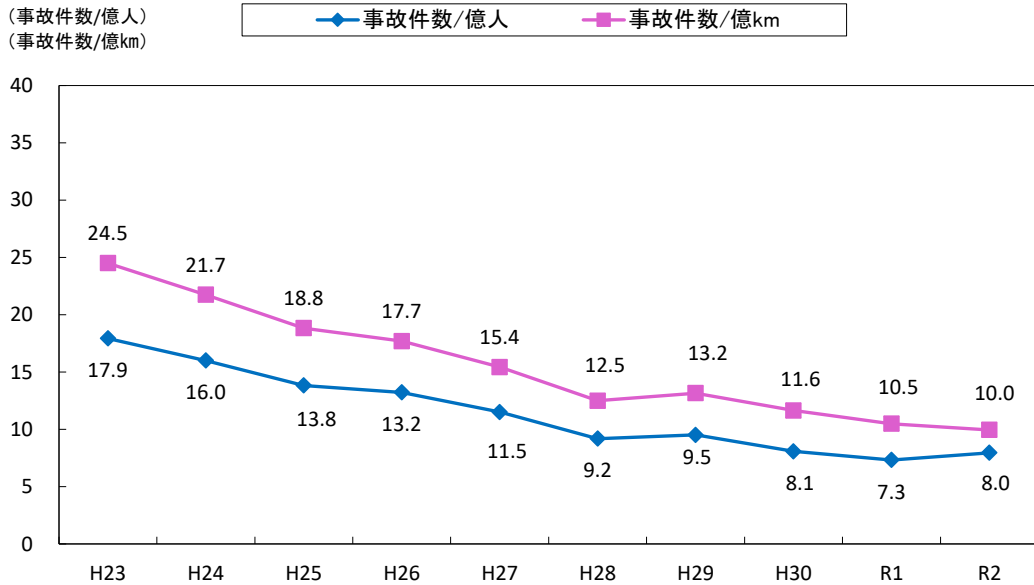


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(15) 乗合バスの輸送人員 1 億人あたり及び走行距離 1 億キロあたり車内事故件数の推移

乗合バスの輸送人員あたり及び走行距離あたりの車内事故件数は減少傾向となっているが、令和 2 年は前年と比べて輸送人員あたりの件数は増加、走行距離あたりの件数は減少している。

〔図 42〕 乗合バスの輸送人員 1 億人あたり及び走行距離 1 億キロあたり車内事故件数の推移



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
国土交通省「自動車輸送統計調査」

〔表 38〕 乗合バスの車内事故件数、輸送人員及び走行距離の推移

	事故件数(件)	輸送人員(億人)	走行距離(億km)
H23	738	41.2	30.1
H24	661	41.3	30.4
H25	575	41.6	30.5
H26	552	41.7	31.2
H27	490	42.6	31.8
H28	394	42.8	31.5
H29	412	43.3	31.3
H30	352	43.6	30.2
R1	318	43.4	30.3
R2	265	33.3	26.6

出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
国土交通省「自動車輸送統計調査」

(16) 乗合バスの車内事故件数の事故種類別時間帯分布

乗合バスの車内事故件数を時間帯別にみると、8時～17時台の日中の時間帯に多く発生している。

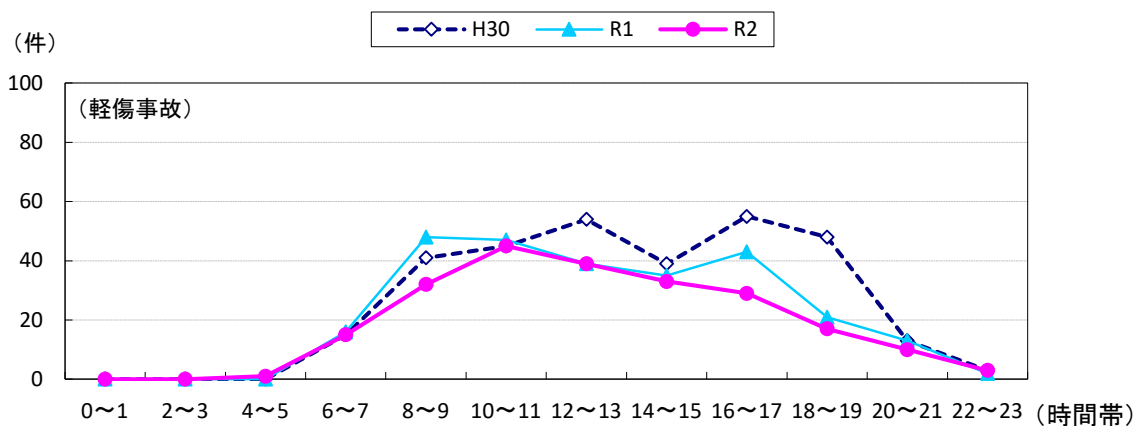
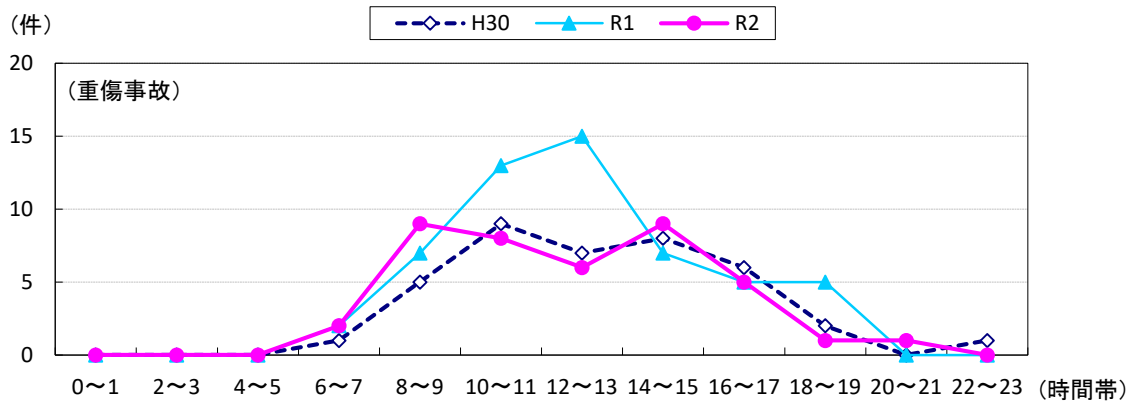
〔表 39〕 乗合バス車内事故件数の事故種類別時間帯分布（令和2年）

時間帯	重傷事故	軽傷事故	負傷事故計
0～1	0	0	0
2～3	0	0	0
4～5	0	1	1
6～7	2	15	17
8～9	9	32	41
10～11	8	45	53
12～13	6	39	45
14～15	9	33	42
16～17	5	29	34
18～19	1	17	18
20～21	1	10	11
22～23	0	3	3
合計	41	224	265

※運転者が負傷した事故を含む。

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 43〕 乗合バス車内事故件数の事故種類別時間帯分布



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(17) 乗合バスの車内事故による事故種別別負傷者数の年齢分布

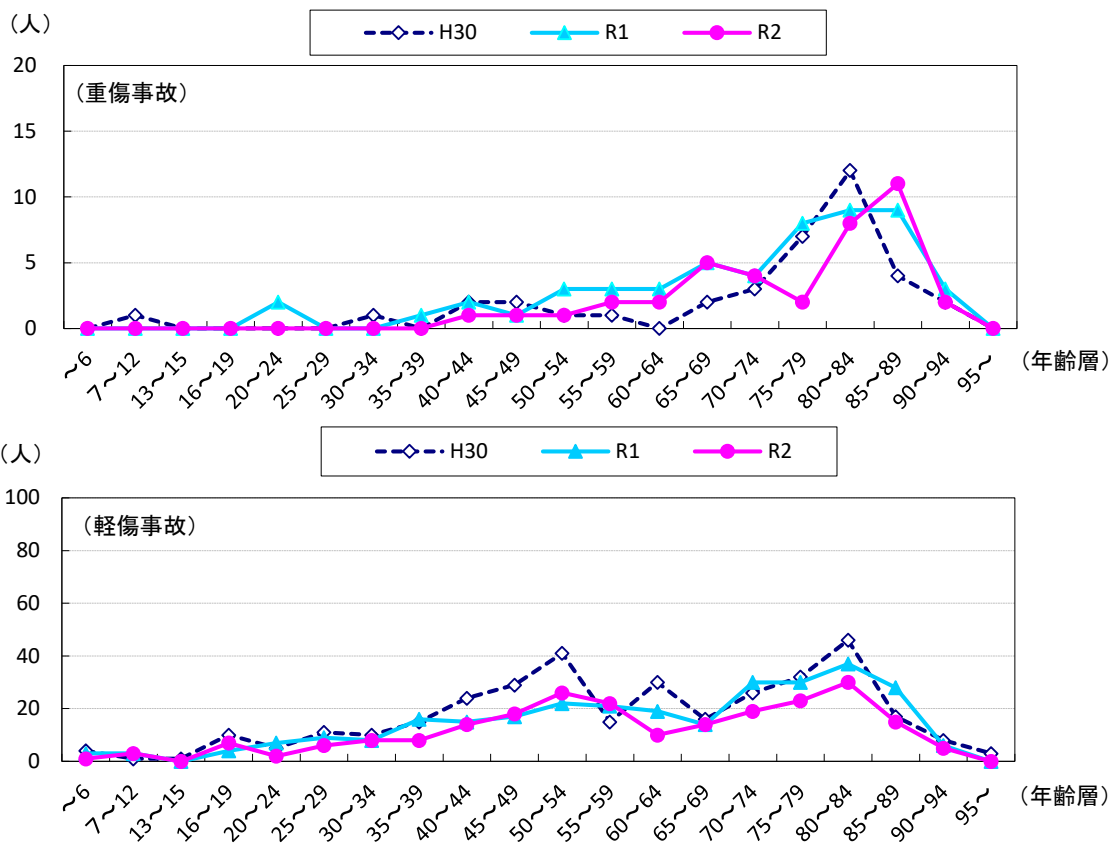
乗合バスの車内事故による負傷者数は半数以上を65歳以上の高齢者が占めている。また、重傷者のうち65歳以上の数は32人と80%を超えている。このように高齢者の比率の高さが顕著となっている。

〔表 40〕 乗合バスの車内事故による事故種別別負傷者数の年齢分布（人）（令和2年）

年齢層	重傷者数	軽傷者数	負傷者計
～ 6	0	1	1
7～12	0	3	3
13～15	0	0	0
16～19	0	7	7
20～24	0	2	2
25～29	0	6	6
30～34	0	8	8
35～39	0	8	8
40～44	1	14	15
45～49	1	18	19
50～54	1	26	27
55～59	2	22	24
60～64	2	10	12
65～69	5	14	19
70～74	4	19	23
75～79	2	23	25
80～84	8	30	38
85～89	11	15	26
90～94	2	5	7
95～	0	0	0
合計	39	231	270

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 44〕 乗合バスの車内事故による事故種別別負傷者数の年齢分布



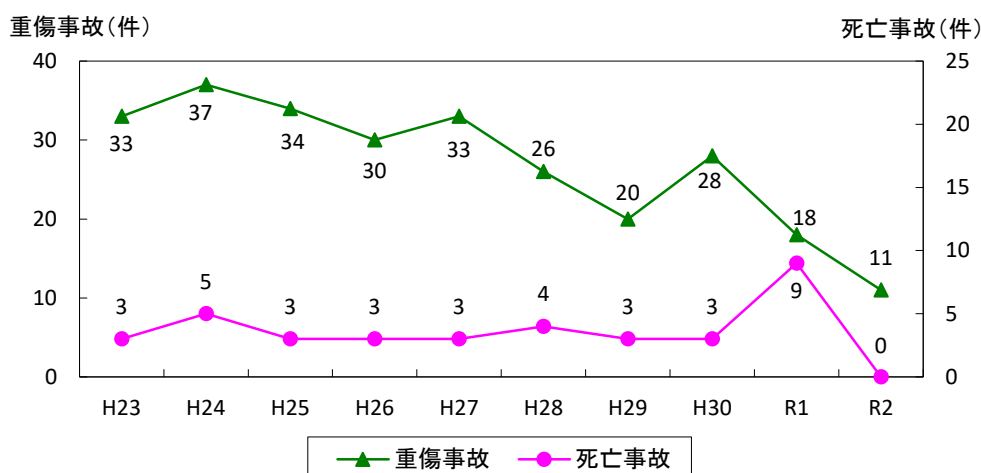
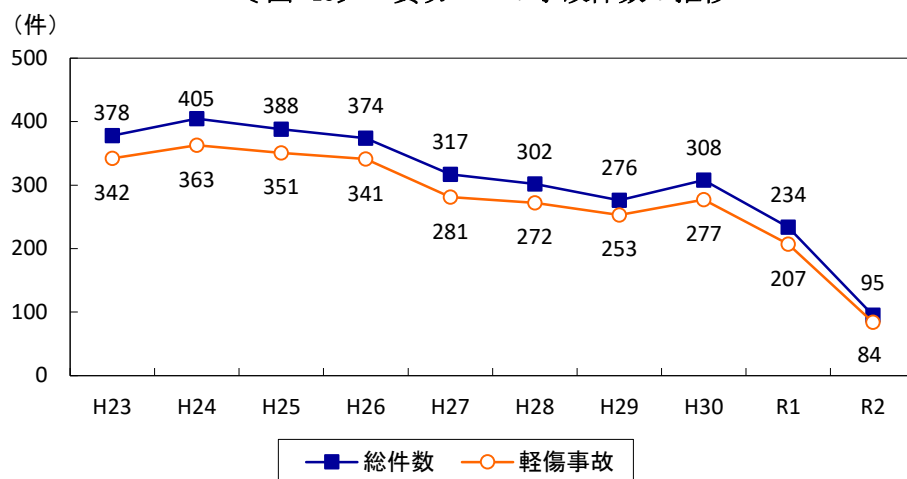
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

2-2. 貸切バスの事故

(1) 貸切バスの交通事故件数、交通死傷事故件数の推移

貸切バスの交通事故件数について、総件数、軽傷事故件数、重傷事故件数は近年減少傾向となっていたが、令和2年は前年と比べて大幅に減少している。また、交通死亡事故件数は近年横ばいであったが、令和2年は0件となっている。

〔図 45〕 貸切バスの事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 41〕 貸切バスの事故件数の推移（件）

区分 年	総件数	軽傷事故	重傷事故	死亡事故
H23	378	342	33	3
H24	405	363	37	5
H25	388	351	34	3
H26	374	341	30	3
H27	317	281	33	3
H28	302	272	26	4
H29	276	253	20	3
H30	308	277	28	3
R1	234	207	18	9
R2	95	84	11	0

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

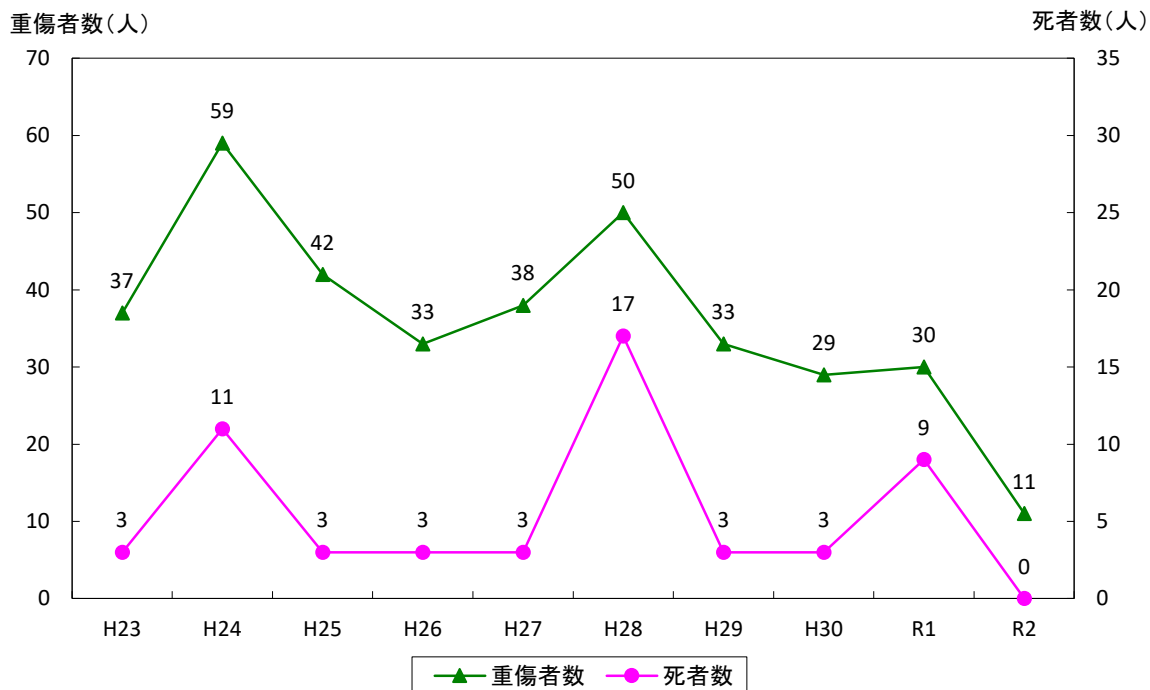
(2) 貸切バス事故の死傷者数の推移

貸切による交通事故の重傷者数は近年減少傾向となっており、令和2年は前年に比べて半分以下と大きく減少した。死者数は0人となっている。

※平成24年は関越道における高速ツアーバス事故の影響により増加

※平成28年は軽井沢スキーバス事故の影響により増加

〔図 46〕 貸切バス事故の死傷者数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 42〕 貸切バス事故の死傷者数の推移（人）

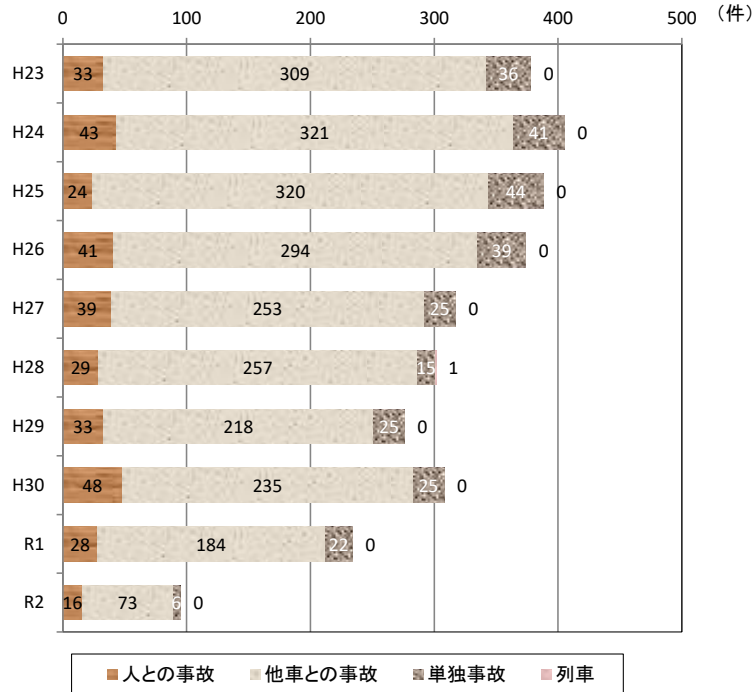
年	区分	死傷者合計	軽傷者数	重傷者数	死者数
H23		673	633	37	3
H24		725	655	59	11
H25		745	700	42	3
H26		623	587	33	3
H27		565	524	38	3
H28		625	558	50	17
H29		468	432	33	3
H30		431	399	29	3
R1		382	343	30	9
R2		133	122	11	0

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) 貸切バスの事故類型別交通事故件数の推移

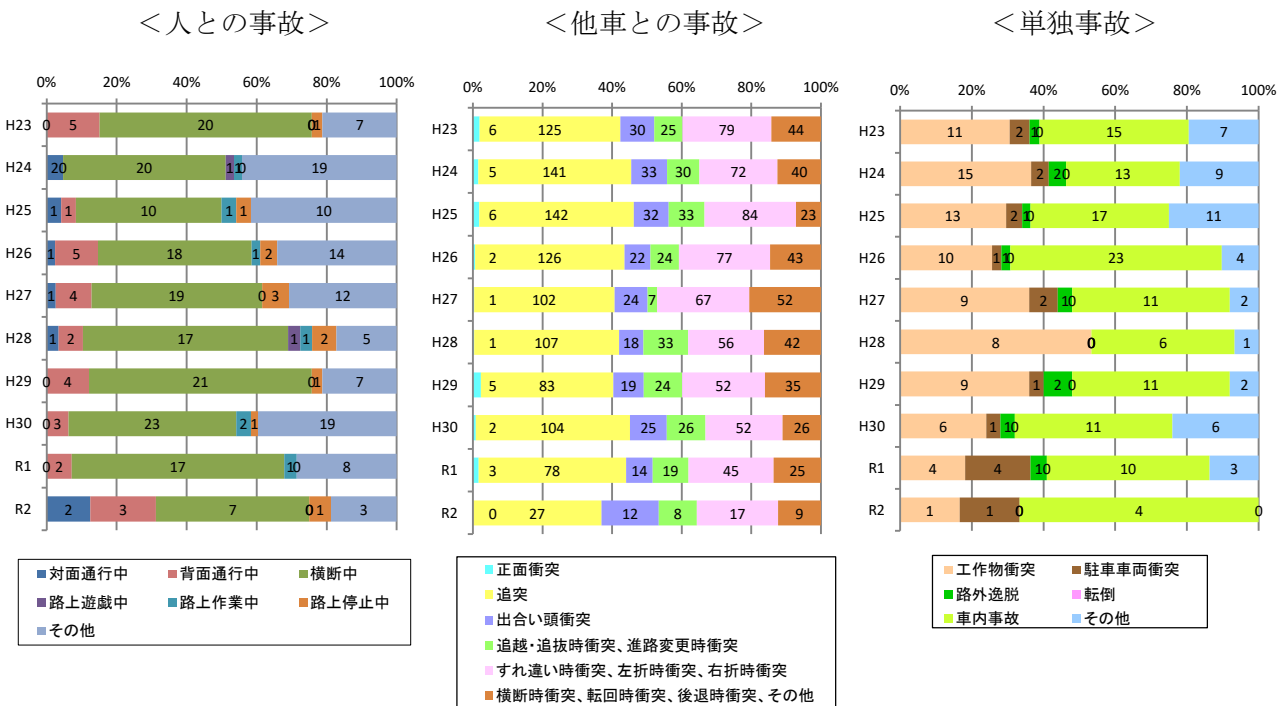
貸切バスの交通事故を事故の種類で類型化すると、他車との事故が多く、約80%を占めている。このうち、約40%が追突事故である。

〔図 47〕 貸切バスの事故類型別交通事故件数の推移



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 48〕 貸切バスの事故類型別交通事故件数の内訳 (件)

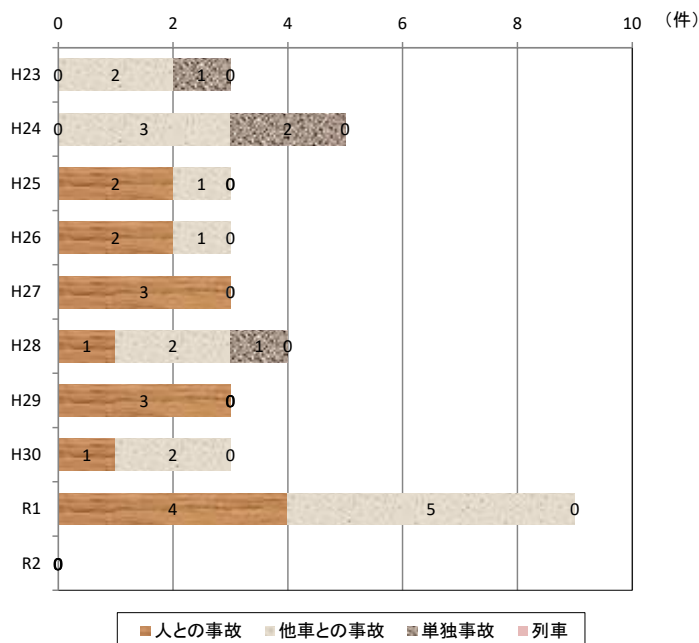


出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(4) 貸切バスの事故類型別交通死亡事故件数の推移

貸切バスの交通死亡事故は、令和元年は人との事故、他車との事故がそれぞれ過去10年間で最も多くなっていた。令和2年の貸切バスの交通死亡事故件数は0件である。

〔図 49〕 貸切バスの事故類型別交通死亡事故件数の推移



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(5) 貸切バスの事故類型別交通死亡事故件数の内訳（他車との事故）

貸切バスの他車との交通死亡事故について、顕著な傾向は見られない。なお、令和2年は貸切バスの交通死亡事故件数は0件であった。

〔表 43〕 貸切バスの事故類型別交通死亡事故件数の内訳の推移（件）（他車との事故）

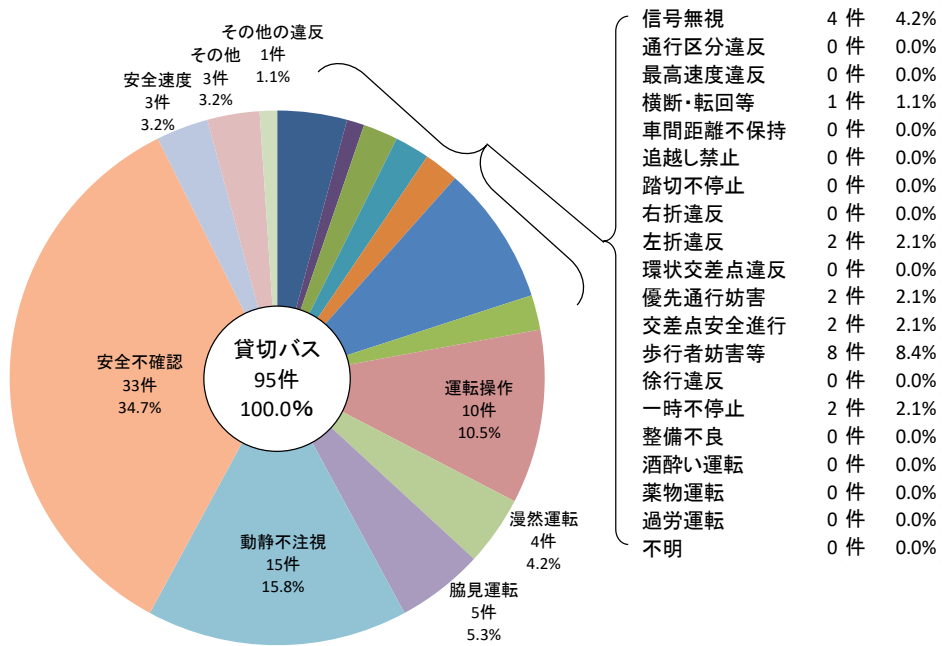
区分 年	正面衝突	追突	出合い頭衝突	追越・追抜時衝突、 進路変更時衝突	すれ違い時衝突、 左折時衝突、右折時衝突	横断時衝突、 転回時衝突、後退時衝突、 その他
H23	0	1	1	0	0	0
H24	0	1	0	0	1	1
H25	0	1	0	0	0	0
H26	0	0	1	0	0	0
H27	0	0	0	0	0	0
H28	0	0	0	1	1	0
H29	0	0	0	0	0	0
H30	0	0	1	1	0	0
R1	0	2	1	1	0	1
R2	0	0	0	0	0	0

出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(6) 貸切バスの事故の法令違反別の交通事故件数の割合

貸切バスの法令違反別の事故件数をみると、「安全不確認」33件（34.7%）、「動静不注意」15件（15.8%）、「運転操作」10件（10.5%）といった法令違反の交通事故が多い。

〔図 50〕 貸切バスの法令違反別の交通事故件数の割合（令和2年）

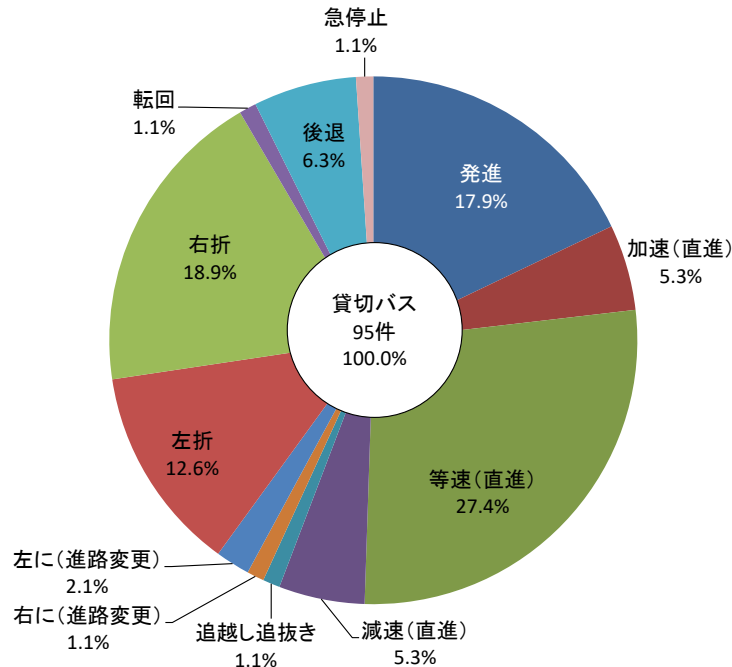


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(7) 貸切バスの行動類型別交通事故件数の割合

貸切バスの交通事故をバスの動きで類型化すると、等速（直進）時と右折時と発進時が多く、合計で60%を超えている。

〔図 51〕 貸切バスの行動類型別交通事故件数の割合（令和2年）



行動類型	件数	割合
発進	17 件	17.9%
加速(直進)	5 件	5.3%
等速(直進)	26 件	27.4%
減速(直進)	5 件	5.3%
追越し追抜き	1 件	1.1%
右に(進路変更)	1 件	1.1%
左に(進路変更)	2 件	2.1%
左折	12 件	12.6%
右折	18 件	18.9%
転回	1 件	1.1%
後退	6 件	6.3%
横断	0 件	0.0%
蛇行	0 件	0.0%
急停止	1 件	1.1%
停止	0 件	0.0%
駐車運転者在	0 件	0.0%
その他	0 件	0.0%

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(8) 貸切バスの事故類型別、衝突地点別交通事故件数

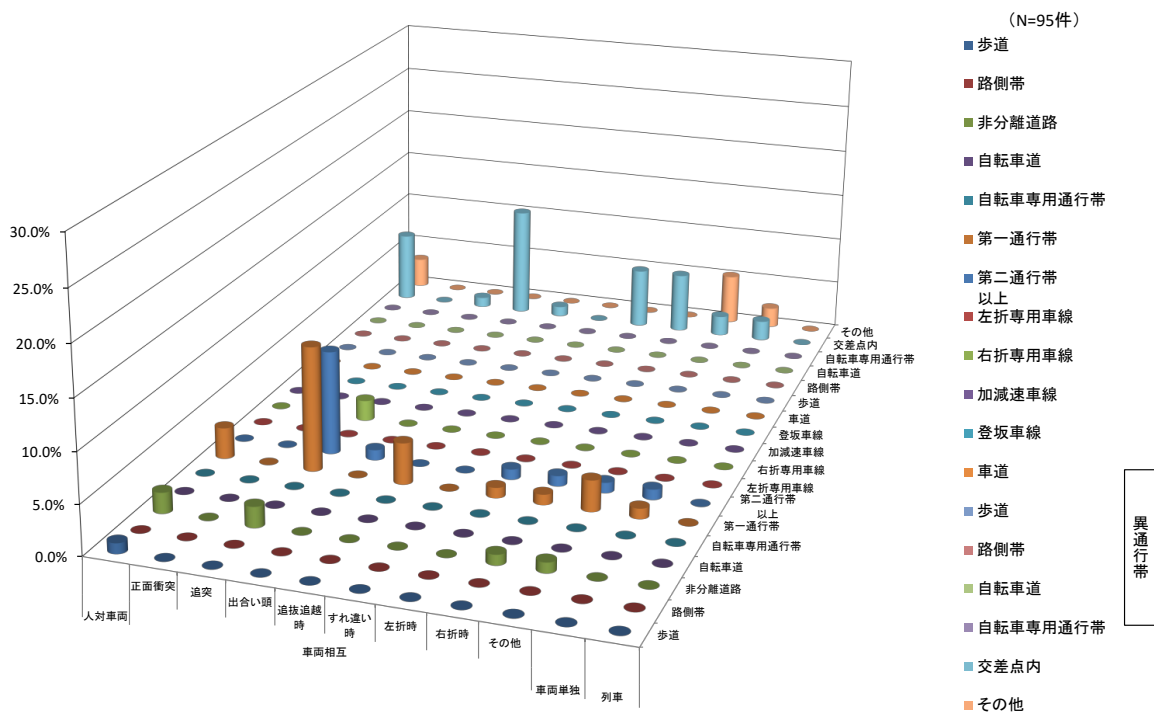
貸切バスの事故類型別、衝突地点別交通事故件数と構成比をそれぞれ表44と図52に、交通死亡事故件数と構成比をそれぞれ表45と図53に示す。第一通行帯での追突事故の12件が最も多くなっており、令和2年の交通死亡事故件数は0件となっている。

〔表 44〕 貸切バスの事故類型別、衝突地点別交通事故件数 (件) (令和2年)

	対人	車両相互								車両単独	列車	合計	
		正面衝突	追突	出合い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他				
単路 (交差点付近を含む)	歩道	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	路側帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非分離道路	2	0	2	0	0	0	0	1	1	0	0	6
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	第一通行帯	3	0	12	0	4	0	1	1	3	1	0	25
	第二通行帯以上	0	0	10	1	0	0	1	1	1	1	0	15
	左折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	右折専用車線	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	加減速車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	登坂車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	歩道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	路側帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
交差点内	7	0	1	11	1	0	6	6	2	2	0	36	
その他	3	0	0	0	0	0	0	0	5	2	0	10	
合計	16	0	27	12	5	0	8	9	12	6	0	95	

出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 52〕 貸切バスの事故類型別、衝突地点別交通事故件数の構成比 (%) (令和2年)



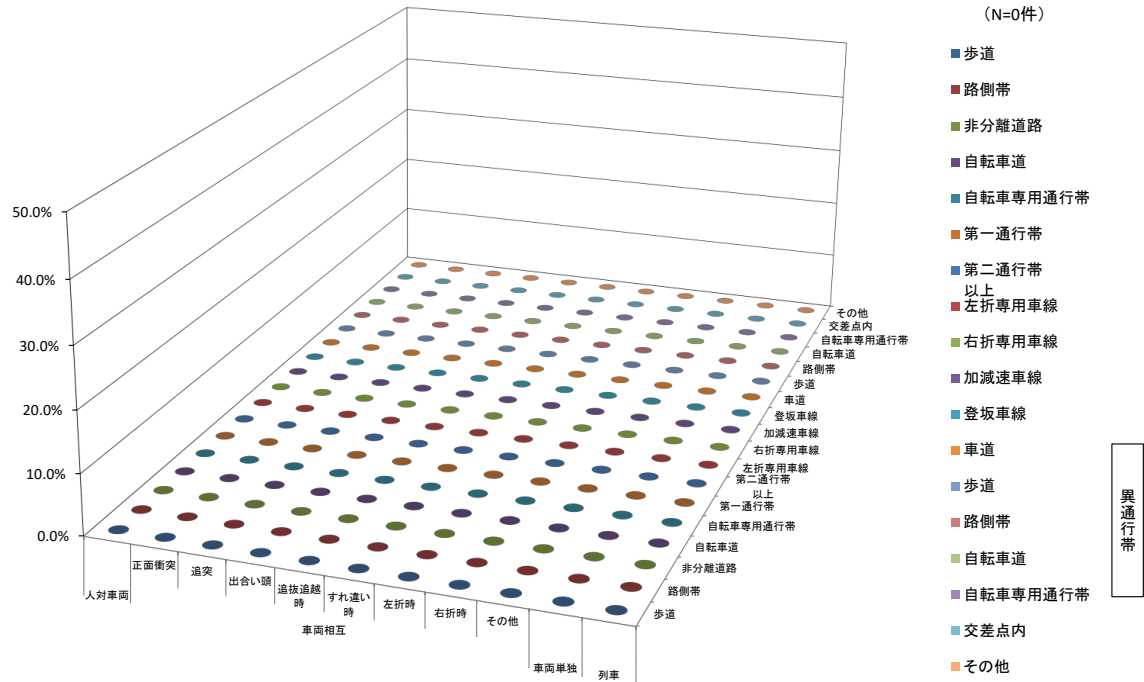
出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 45〕 貸切バスの事故類型別、衝突地点別交通死亡事故件数（件）（令和2年）

	人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計
		正面衝突	追突	出合い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他			
単路（交差点付近を含む）	歩道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	路側帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非分離道路	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	第一通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	第二通行帯以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	左折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	右折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	加減速車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	登坂車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	異通行帯											
歩道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
路側帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
交差点内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 53〕 貸切バスの事故類型別、衝突地点別交通死亡事故件数の構成比（％）（令和2年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(9) 貸切バスの事故類型別、行動類型別交通事故件数

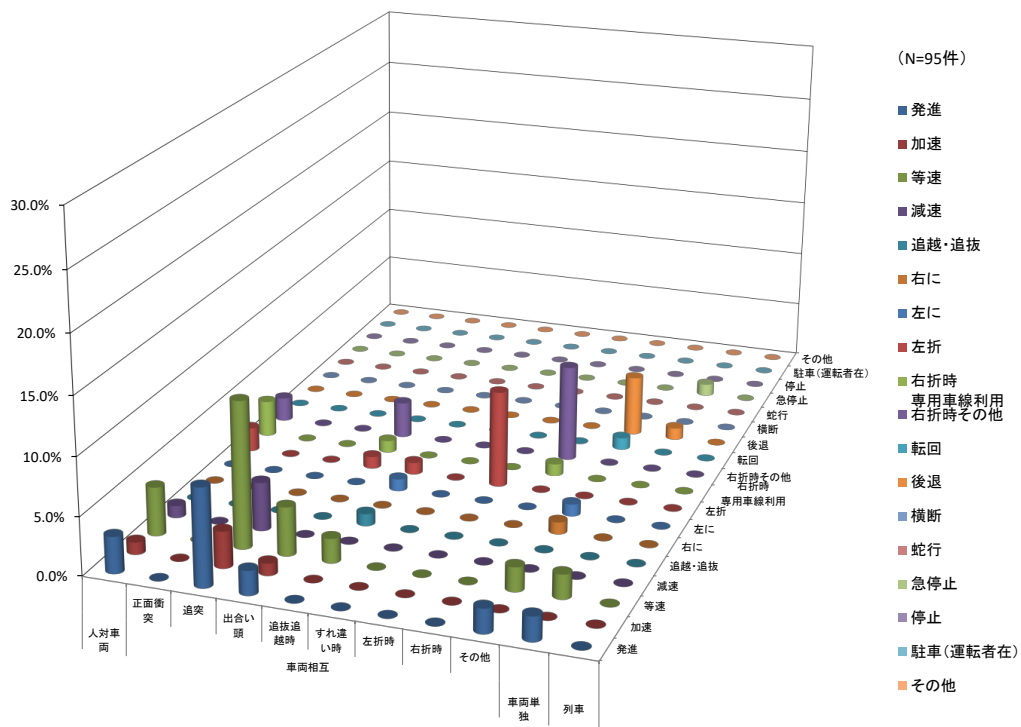
貸切バスの事故類型別、行動類型別交通事故件数と構成比をそれぞれ表46と図54に、交通死亡事故件数と構成比をそれぞれ表47と図55に示す。等速直進時の追突事故が最も多く12件（約13%）となっており、令和2年の交通死亡事故件数は0件となっている。

〔表 46〕 貸切バスの事故類型別、行動類型事故件数（件）（令和2年）

	人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計
		正面衝突	追突	出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他			
発進	3	0	8	2	0	0	0	0	2	2	0	17
直進	加速	1	0	3	1	0	0	0	0	0	0	5
	等速	4	0	12	4	2	0	0	2	2	0	26
	減速	1	0	4	0	0	0	0	0	0	0	5
追越・追抜		0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
進路変更	右に	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	左に	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
左折		2	0	0	1	1	0	8	0	0	0	12
右折時	専用車線利用	3	0	0	1	0	0	0	1	0	0	5
	その他	2	0	0	3	0	0	0	8	0	0	13
転回		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
後退		0	0	0	0	0	0	0	0	5	1	6
横断		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
蛇行		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
急停止		0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
停止		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
駐車(運転者在)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		16	0	27	12	5	0	8	9	12	6	95

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 54〕 貸切バスの事故類型別、行動類型別事故件数の構成比（%）（令和2年）



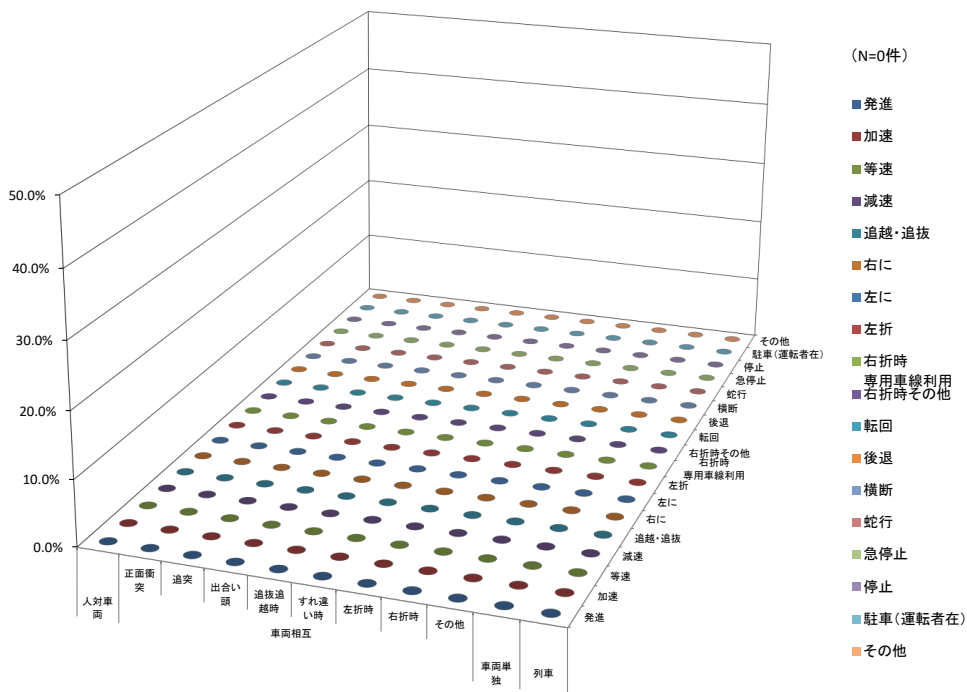
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 47〕 貸切バスの事故類型別、行動類型死亡事故件数（件）（令和 2 年）

	人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計
		正面衝突	追突	出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他			
発進	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
直進	加速	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	等速	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減速	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
追越・追抜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
進路変更	右に	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	左に	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
左折	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右折時	専用車線利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
転回	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
後退	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
横断	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
蛇行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
急停止	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
停止	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
駐車(運転者在)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 55〕 貸切バスの事故類型別、行動類型別死亡事故件数の構成比（％）（令和 2 年）

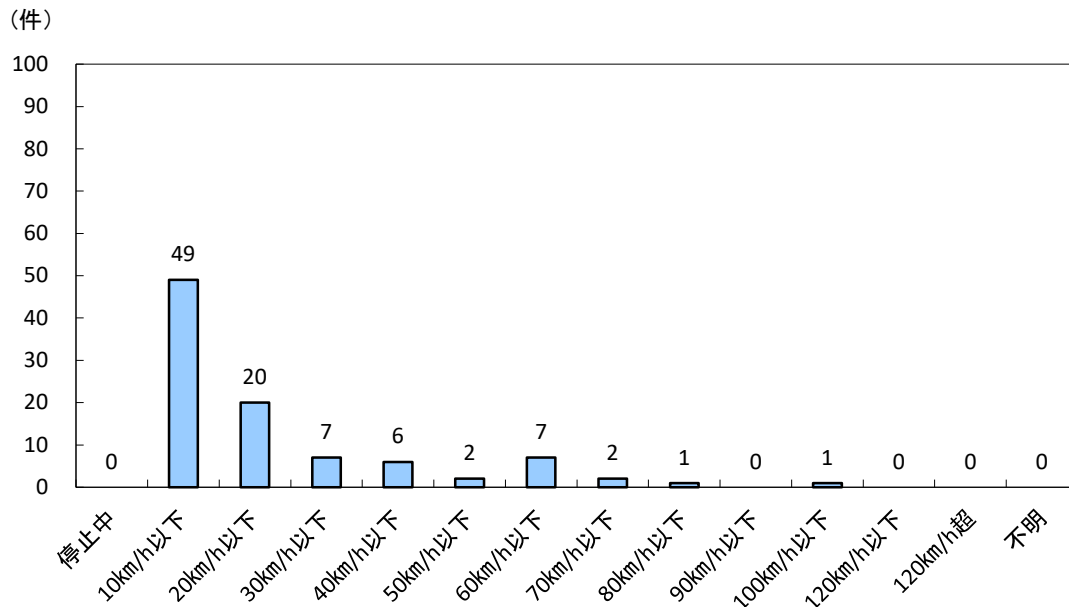


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(10) 貸切バスの危険認知速度別の交通事故件数

貸切バスの危険認知速度別の交通事故件数は10km/h以下で49件と最も多く発生しており、次いで10km/h～20km/h以下で20件発生している。

〔図 56〕 貸切バスの危険認知速度別の交通事故件数（令和2年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(11) 貸切バスの追突事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布

貸切バスの追突事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布をみると、10時～11時台と14～15時台の時間帯が最も多く、それぞれ5件発生している。

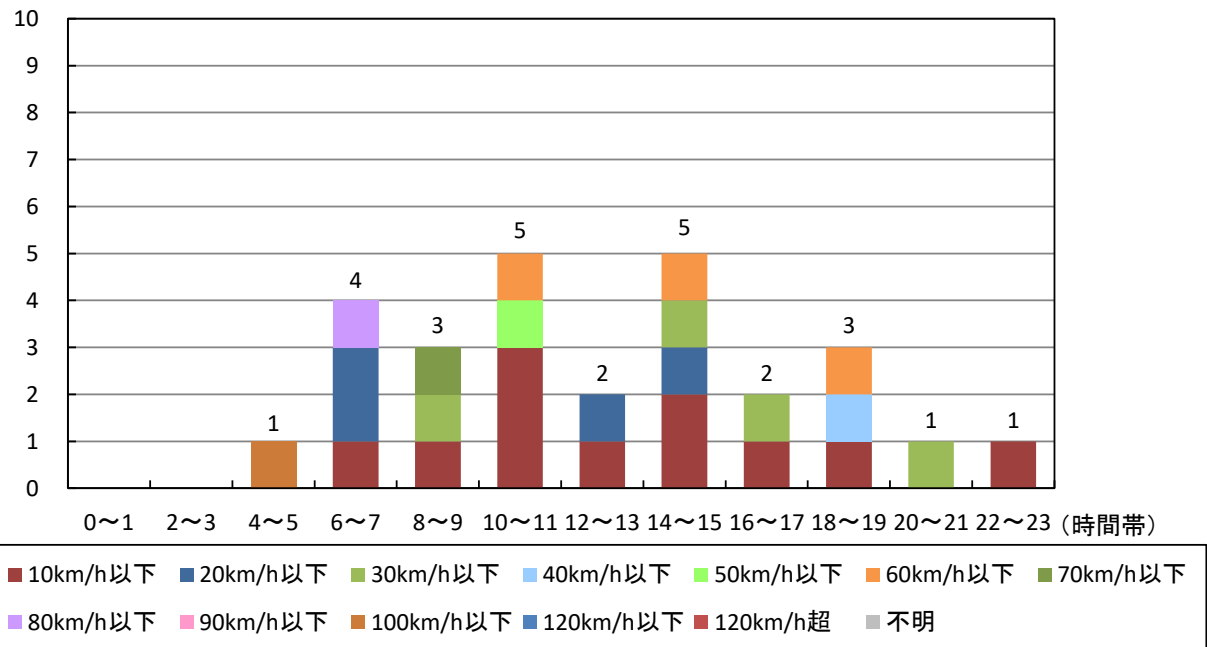
〔表 48〕 貸切バスの追突事故件数危険認知速度別発生時間帯分布（件）（令和2年）

危険認知速度	時 間 帯												合計
	0～1	2～3	4～5	6～7	8～9	10～11	12～13	14～15	16～17	18～19	20～21	22～23	
10km/h以下	0	0	0	1	1	3	1	2	1	1	0	1	11
20km/h以下	0	0	0	2	0	0	1	1	0	0	0	0	4
30km/h以下	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	1	0	4
40km/h以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
50km/h以下	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
60km/h以下	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	3
70km/h以下	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
80km/h以下	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
90km/h以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
100km/h以下	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
120km/h以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
120km/h超	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	1	4	3	5	2	5	2	3	1	1	27

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 57〕 貸切バスの追突事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布（件）（令和2年）

（件）



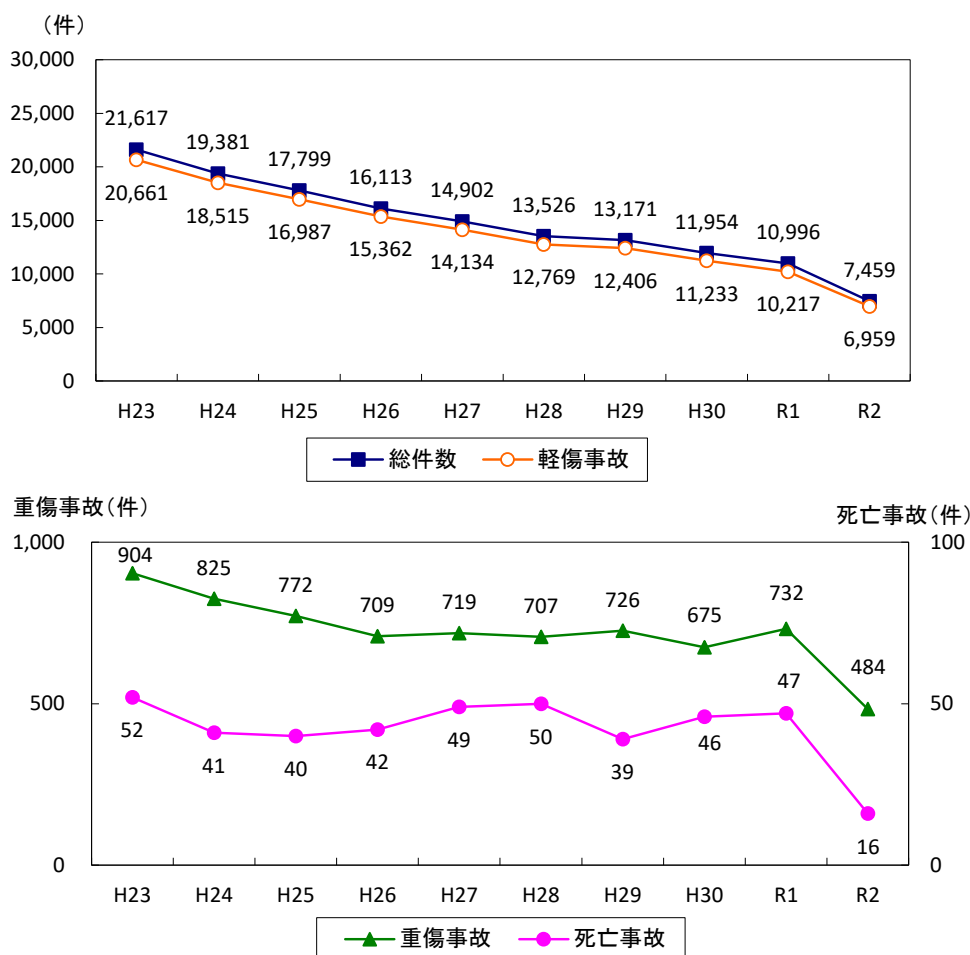
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

3. タクシーの交通事故

(1) タクシーの交通事故件数、交通死傷事故件数の推移

タクシーの交通事故件数について、総件数、軽傷事故件数、重傷事故件数は近年減少傾向となっており、交通死亡事故件数は近年横ばいとなっているが、令和2年はいずれも前年と比べて大幅に減少している。

〔図 58〕 タクシーの交通事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 49〕 タクシーの交通事故件数の推移（件）

年	区分	総件数	軽傷事故	重傷事故	死亡事故
H23		21,617	20,661	904	52
H24		19,381	18,515	825	41
H25		17,799	16,987	772	40
H26		16,113	15,362	709	42
H27		14,902	14,134	719	49
H28		13,526	12,769	707	50
H29		13,171	12,406	726	39
H30		11,954	11,233	675	46
R1		10,996	10,217	732	47
R2		7,459	6,959	484	16

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) タクシー事故のうち、同乗者の死傷事故件数

運転者が第1当事者となったタクシー事故の、業態別の同乗者の死傷事故件数は、以下の通りであった。

[表 50] タクシー事故のうち、同乗者の死傷事故件数 (件)

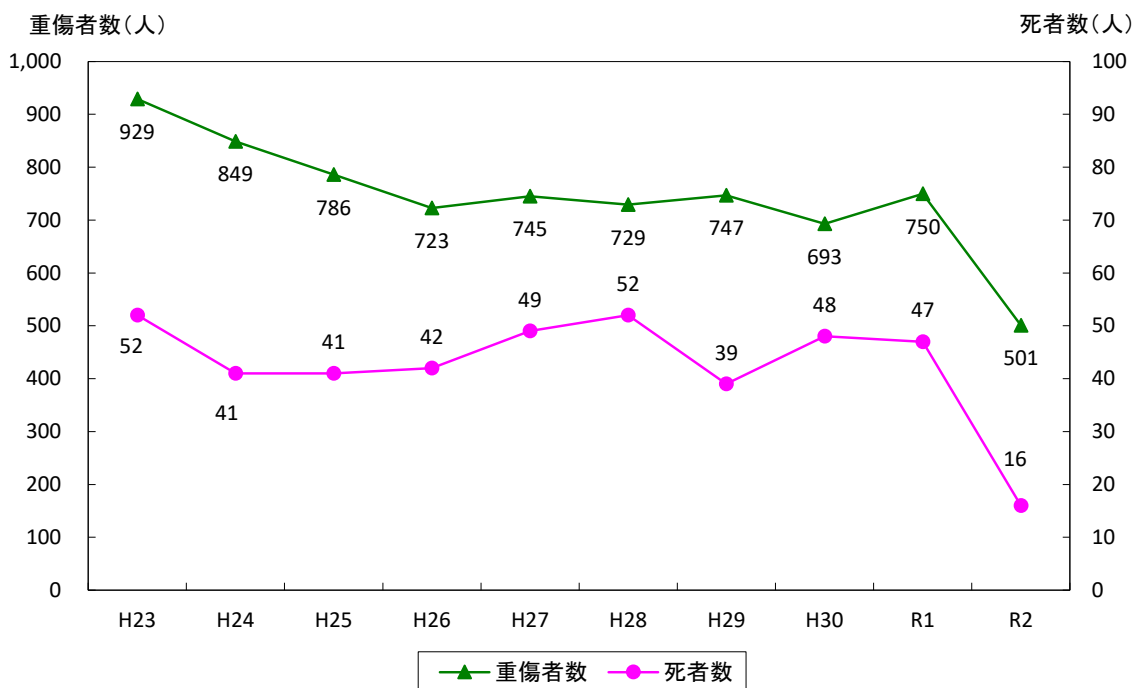
	死亡	重傷	軽傷	合計
法人	1	45	753	799
個人	0	4	42	46
その他乗用	0	0	0	0
計	1	49	795	845

出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) タクシー事故の死傷者数の推移

タクシー事故による重傷者数、死傷者は近年横ばい傾向となっているが、令和2年はいずれも前年と比べて大幅に減少している。

〔図 59〕 タクシー事故の死傷者数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 51〕 タクシーの事故の死傷者数の推移（人）

年	区分	死傷者合計	軽傷者数	重傷者数	死者数
H23		25,148	24,167	929	52
H24		22,541	21,651	849	41
H25		20,819	19,992	786	41
H26		18,816	18,051	723	42
H27		17,416	16,622	745	49
H28		15,893	15,112	729	52
H29		15,379	14,593	747	39
H30		14,031	13,290	693	48
R1		12,813	12,016	750	47
R2		8,586	8,069	501	16

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(4) タクシー事故のうち、同乗者の死傷者数

運転者が第1当事者となったタクシー事故の、業態別の同乗者の死傷者数は、以下の通りであった。

[表 52] タクシー事故のうち、同乗者の死傷者数 (人)

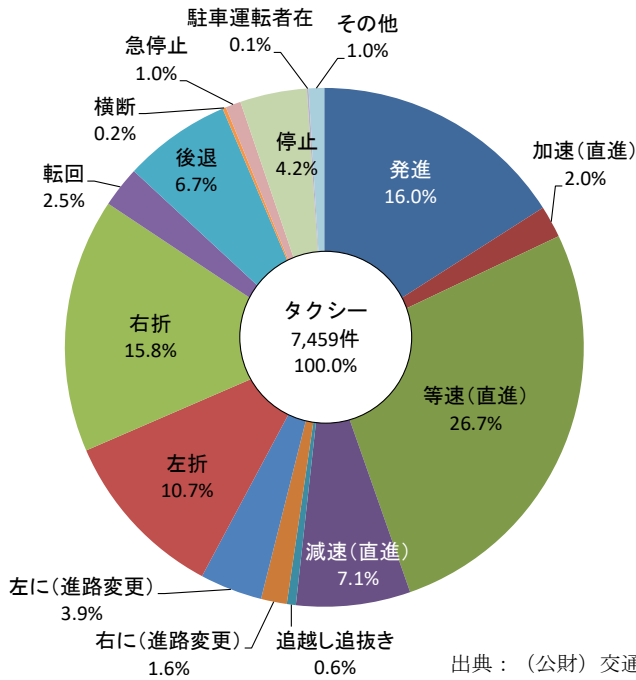
	死亡	重傷	軽傷	合計
法人	1	46	928	975
個人	0	4	46	50
その他乗用	0	0	0	0
計	1	50	974	1,025

出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(5) タクシーの行動類型別交通事故件数の割合

タクシーの交通事故をタクシーの動きで類型化すると、等速（直進）時、発進時や右折時が多く、合計で約60%を占めている。

〔図 60〕 タクシーの行動類型別交通事故件数の割合（令和2年）



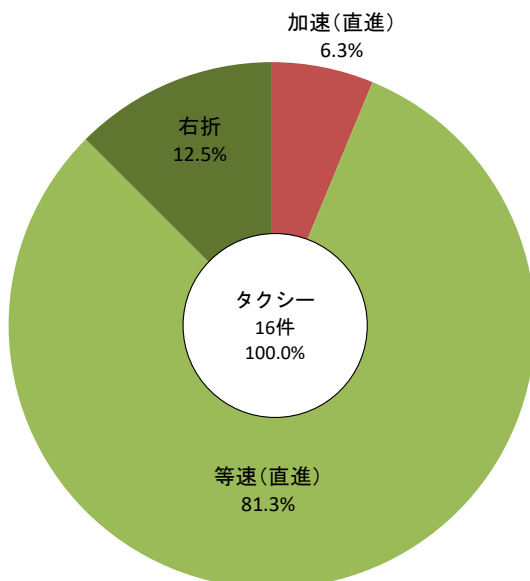
行動類型	件数	割合
発進	1,190 件	16.0%
加速(直進)	149 件	2.0%
等速(直進)	1,990 件	26.7%
減速(直進)	531 件	7.1%
追越し追抜き	42 件	0.6%
右に(進路変更)	120 件	1.6%
左に(進路変更)	290 件	3.9%
左折	797 件	10.7%
右折	1,182 件	15.8%
転回	190 件	2.5%
後退	500 件	6.7%
横断	16 件	0.2%
蛇行	0 件	0.0%
急停止	71 件	1.0%
停止	311 件	4.2%
駐車運転者在	8 件	0.1%
その他	72 件	1.0%

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(6) タクシーの行動類型別交通死亡事故件数の割合

タクシーの交通死亡事故をタクシーの動きで類型化すると、等速（直進）時が多く、80%を超えている。

〔図 61〕 タクシーの行動類型別交通死亡事故件数の割合（令和2年）



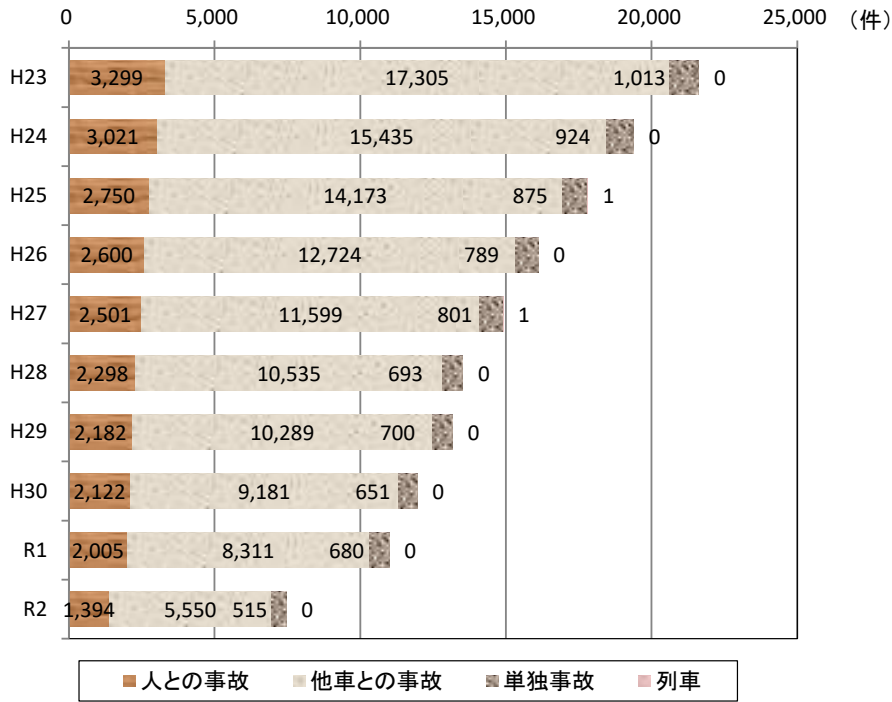
行動類型	件数	割合
発進	0 件	0.0%
加速(直進)	1 件	6.3%
等速(直進)	13 件	81.3%
減速(直進)	0 件	0.0%
追越し追抜き	0 件	0.0%
右に(進路変更)	0 件	0.0%
左に(進路変更)	0 件	0.0%
左折	0 件	0.0%
右折	2 件	12.5%
転回	0 件	0.0%
後退	0 件	0.0%
横断	0 件	0.0%
蛇行	0 件	0.0%
急停止	0 件	0.0%
停止	0 件	0.0%
駐車運転者在	0 件	0.0%
その他	0 件	0.0%

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(7) タクシーの事故類型別交通事故件数の推移

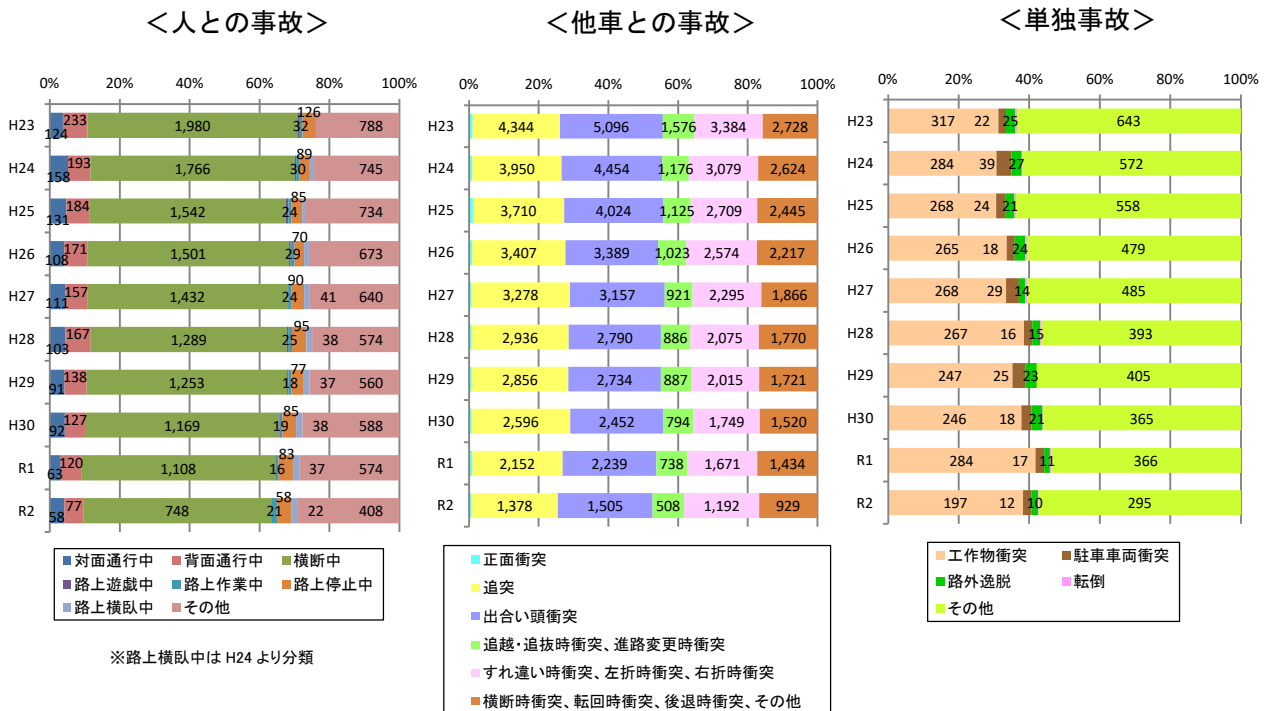
タクシーの交通事故を事故の種類で類型化すると、他車との事故が最も多く5,550件となっており、70%を超えている。

〔図 62〕 タクシーの事故類型別交通事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

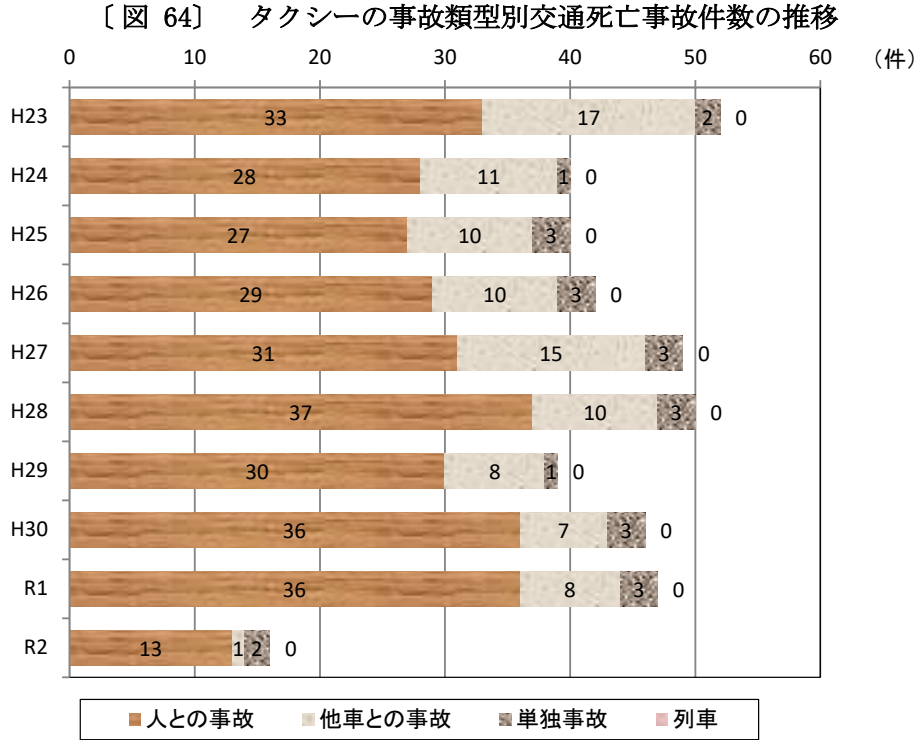
〔図 63〕 タクシーの事故類型別交通事故件数の内訳の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(8) タクシーの事故類型別交通死亡事故件数の推移

タクシーの交通死亡事故を事故の種類で類型化すると、人との事故が最も多く13件となっており、80%を超えている。そのうち、路上横臥中の事故が5件、横断中の事故が4件となっている。



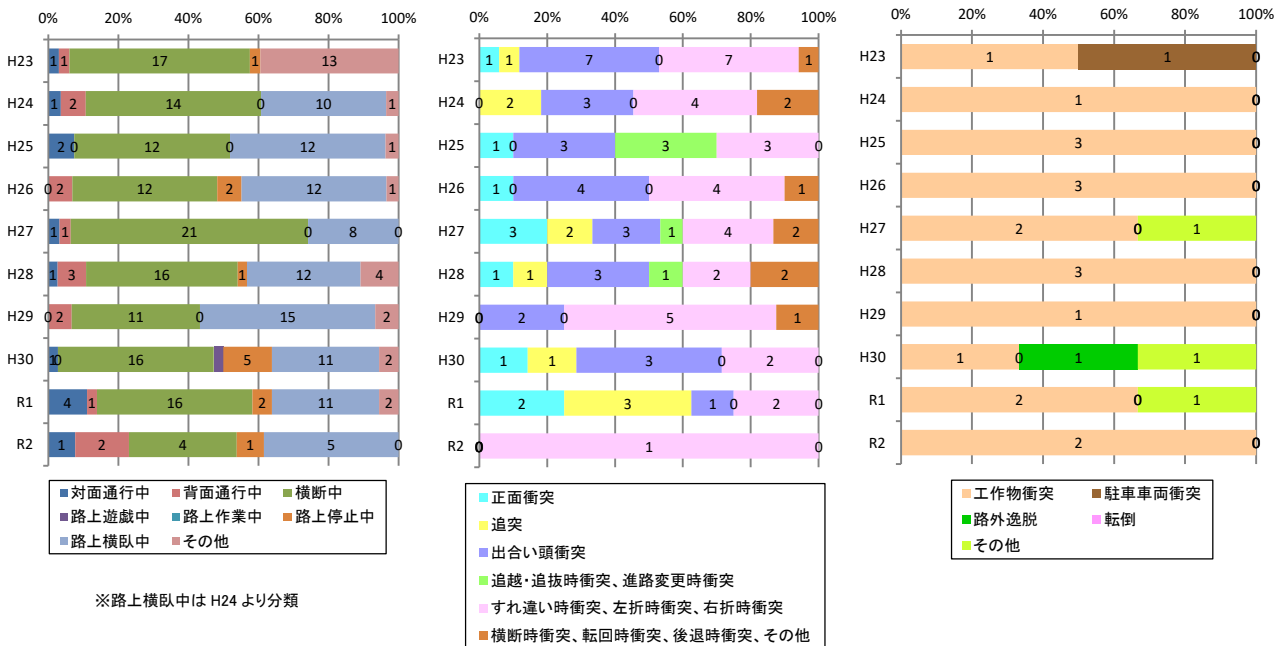
出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[図 65] タクシーの事故類型別交通死亡事故件数の内訳の推移

<人との事故>

<他車との事故>

<単独事故>

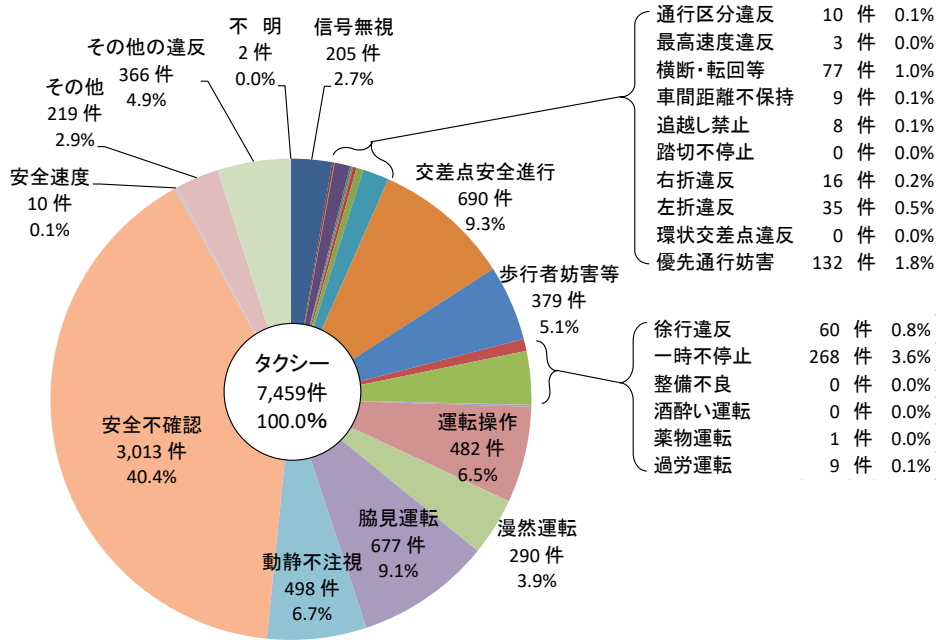


出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(9) タクシーの法令違反別の交通事故件数の割合

タクシーでは、「安全不確認」3,013件（40.4%）、「交差点安全進行」690件（9.3%）、「脇見運転」677件（9.1%）といった法令違反の交通事故が多い。

〔図 66〕 タクシーの法令違反別事故件数の割合（令和2年）

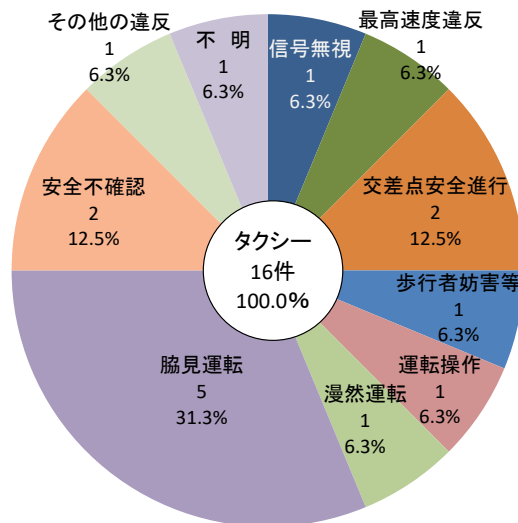


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(10) タクシーの法令違反別の交通死亡事故件数の割合

タクシーでは、「脇見運転」5件（31.3%）、「交差点安全進行」2件（12.5%）、「安全不確認」2件（12.5%）といった法令違反の交通死亡事故が多い。

〔図 67〕 タクシーの法令違反別死亡事故件数の割合（令和2年）

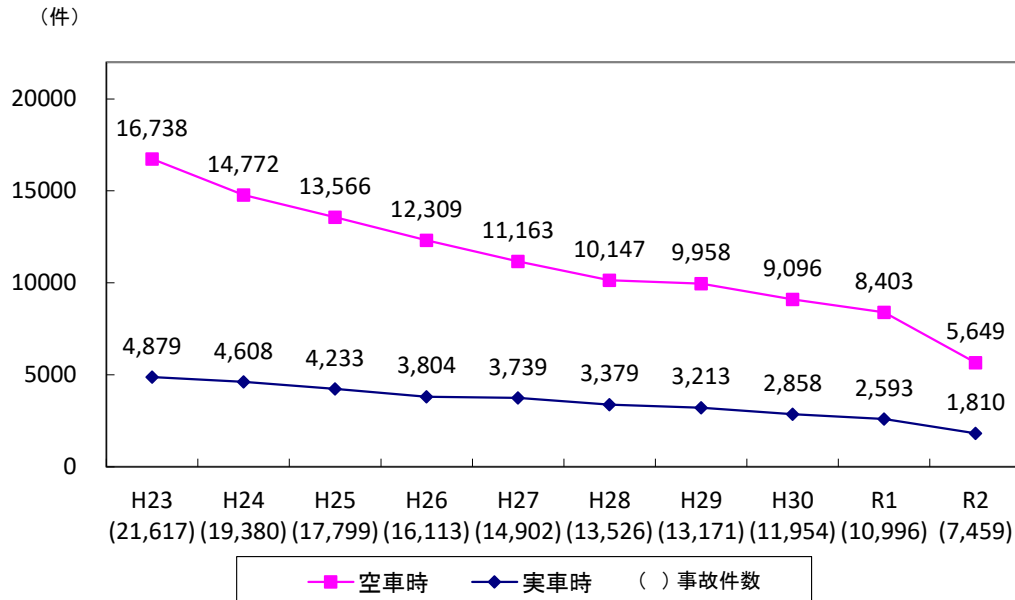


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(11) タクシーの交通事故件数（空車時、実車時）

タクシーの交通事故件数（空車時、実車時）は、空車時が実車時と比べて多く発生している。空車時、実車時ともに減少傾向となっている。

〔図 68〕 タクシーの事故件数（空車時、実車時）の推移

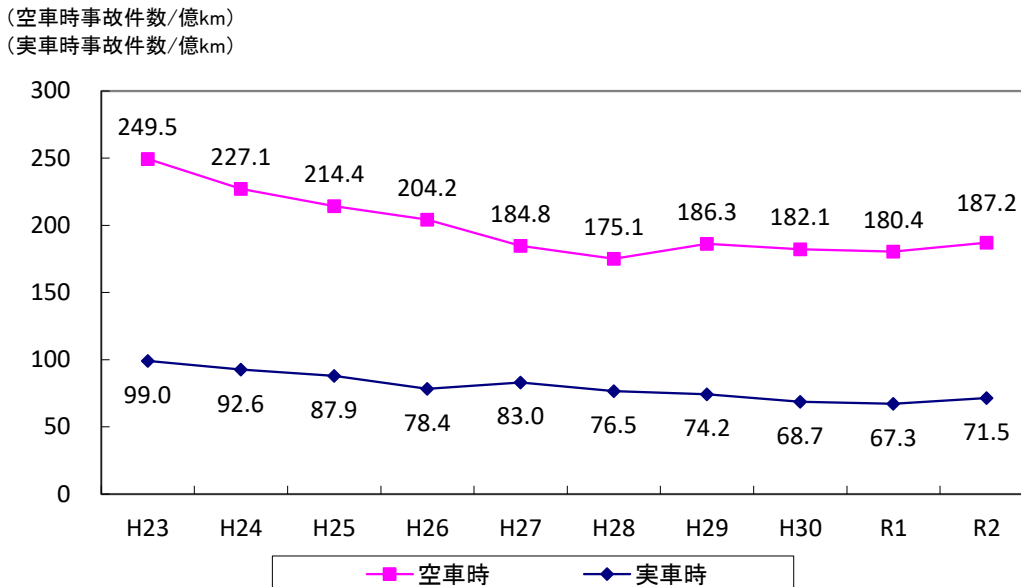


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(12) タクシーの走行距離 1 億キロあたりの交通事故件数（空車時、実車時）

タクシーの走行距離 1 億キロあたりの交通事故件数（空車時、実車時）は、空車時が実車時と比べて多く発生している。令和 2 年は前年に比べ、いずれも増加した。

〔図 69〕 タクシーの走行距離 1 億キロあたりの交通事故件数の推移



注1：（ ）内の数字は空車時と実車時を合わせた事故件数，単位は件

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
国土交通省「自動車輸送統計調査」

(13) タクシーの事故類型別、衝突地点別交通事故件数

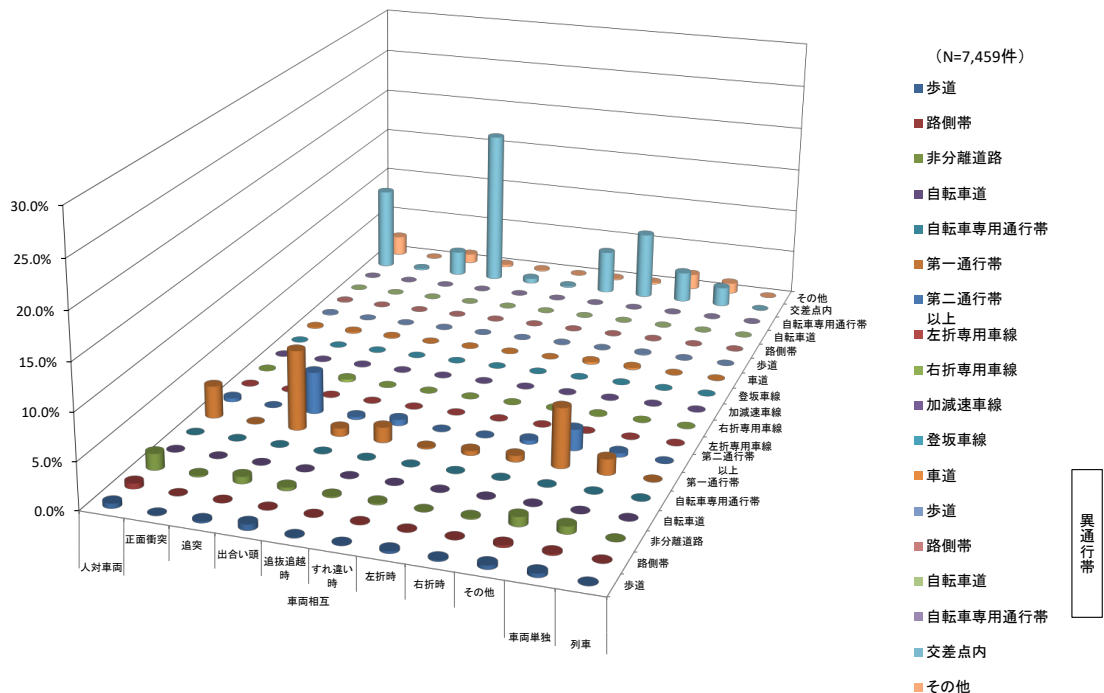
タクシーの事故類型別、衝突地点別交通事故件数と構成比をそれぞれ表53と図70に、交通死亡事故件数と構成比をそれぞれ表54と図71に示す。交通事故件数については、交差点内での出会い頭事故1,315件（17.6%）が最も多く、交通死亡事故件数については、第一通行帯での人対車両事故5件（31.3%）が最も多くなっている。

〔表 53〕 タクシーの事故類型別、衝突地点別交通事故件数（件）（令和2年）

	人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計	
		正面衝突	追突	出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他				
単路（交差点付近を含む）	歩道	38	0	13	47	4	3	18	9	31	30	0	193
	路側帯	44	0	3	4	4	4	3	2	18	11	0	93
	非分離道路	131	11	56	26	10	11	0	9	75	60	0	389
	自転車道	1	0	0	1	0	1	0	1	1	0	0	5
	自転車専用通行帯	0	0	1	0	2	0	1	0	2	0	0	6
	第一通行帯	261	3	643	65	123	10	37	50	478	127	0	1,797
	第二通行帯以上	30	0	339	22	48	2	4	31	169	32	0	677
	左折専用車線	1	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	5
	右折専用車線	2	0	22	2	1	0	0	4	5	1	0	37
	加減速車線	0	0	3	0	0	0	0	0	2	0	0	5
	登坂車線	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2
	異通行帯	車道	8	10	7	1	3	2	0	19	15	1	0
歩道		6	0	0	2	0	0	2	0	6	2	0	18
路側帯		4	0	0	0	0	1	0	0	3	0	0	8
自転車道		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
交差点内		701	11	208	1,315	40	11	365	566	257	162	0	3,636
その他		167	2	79	20	9	3	9	14	129	89	0	521
合計		1,394	38	1,378	1,505	244	48	439	705	1,193	515	0	7,459

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 70〕 タクシーの事故類型別、衝突地点別事故件数の構成比（%）（令和2年）



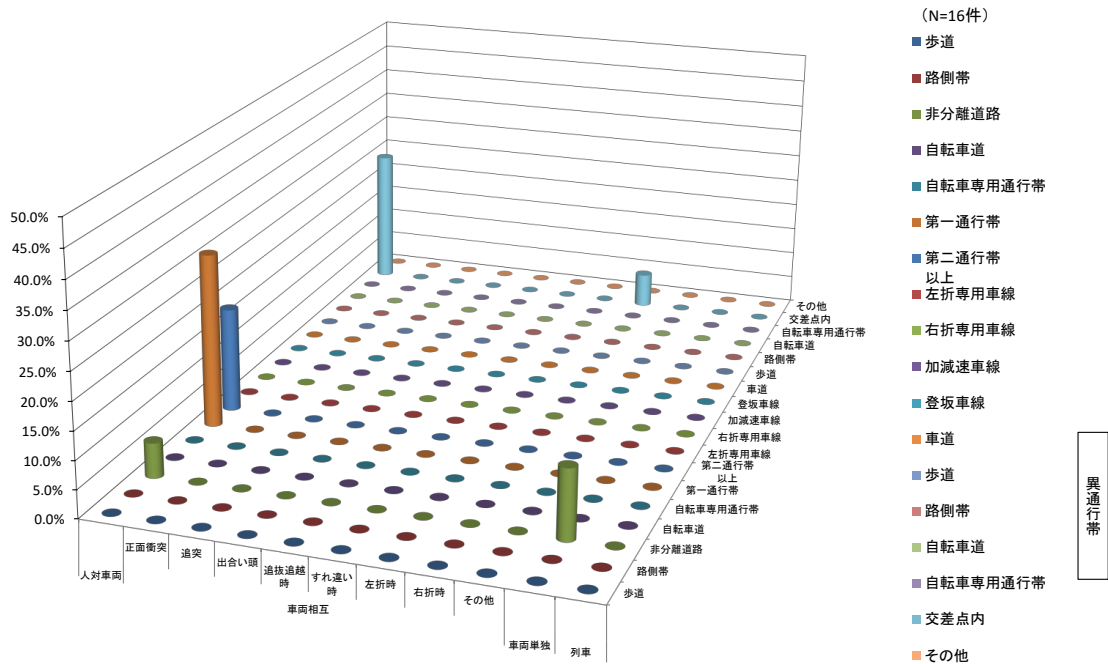
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[表 54] タクシーの事故類型別、衝突地点別交通死亡事故件数 (件) (令和 2 年)

	人対車両	車両相互									車両単独	列車	合計
		正面衝突	追突	出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他				
単路 (交差点付近を含む)	歩道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	路側帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非分離道路	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	3
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	第一通行帯	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
	第二通行帯以上	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	左折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	右折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	加減速車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	登坂車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
異 通 行 帯	車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	歩道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	路側帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交差点内	4	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	5	
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	13	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	16	

出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[図 71] タクシーの事故類型別、衝突地点別交通死亡事故件数の構成比 (%) (令和 2 年)



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(14) タクシーの事故類型別、行動類型別交通事故件数

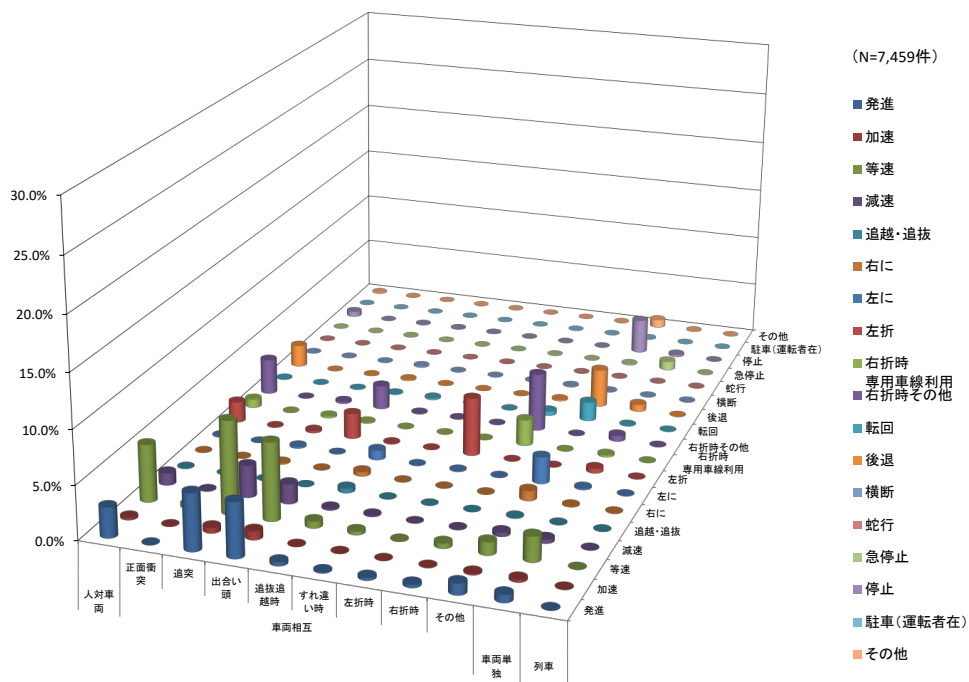
タクシーの事故類型別、行動類型別交通事故件数と構成比をそれぞれ表55と図72に、交通死亡事故件数と構成比をそれぞれ表56と図73に示す。交通事故件数については、等速直進時の追突事故648件（8.7%）が最も多く、交通死亡事故件数については、等速直進時の人対車両事故12件（75.0%）が多くなっている。

〔表 55〕 タクシーの事故類型別、行動類型別交通事故件数（件）（令和2年）

	人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計	
		正面衝突	追突	出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他				
発進	210	1	395	380	26	8	18	21	78	53	0	1,190	
直進	加速	16	1	38	60	3	1	0	2	10	18	0	149
	等速	400	25	648	542	47	24	4	35	90	175	0	1,990
	減速	86	4	223	138	12	8	0	4	28	28	0	531
追越・追抜		3	0	1	0	32	0	0	0	5	1	0	42
進路変更	右に	2	1	8	1	30	1	0	2	70	5	0	120
	左に	5	0	12	0	69	1	4	1	188	10	0	290
左折		147	3	16	181	5	1	411	0	0	33	0	797
右折時	専用車線利用	61	2	12	7	1	0	0	185	0	13	0	281
	その他	254	1	15	171	4	3	0	411	0	42	0	901
転回		4	0	1	4	11	0	0	31	136	3	0	190
後退		159	0	2	8	1	1	0	8	271	50	0	500
横断		0	0	0	8	0	0	2	5	1	0	0	16
蛇行		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
急停止		0	0	2	1	0	0	0	0	5	63	0	71
停止		38	0	3	4	2	0	0	0	249	15	0	311
駐車(運転者在)		2	0	0	0	0	0	0	0	4	2	0	8
その他		7	0	2	0	1	0	0	0	58	4	0	72
合計		1,394	38	1,378	1,505	244	48	439	705	1,193	515	0	7,459

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 72〕 タクシーの事故類型別、行動類型別交通事故件数の構成比（%）（令和2年）



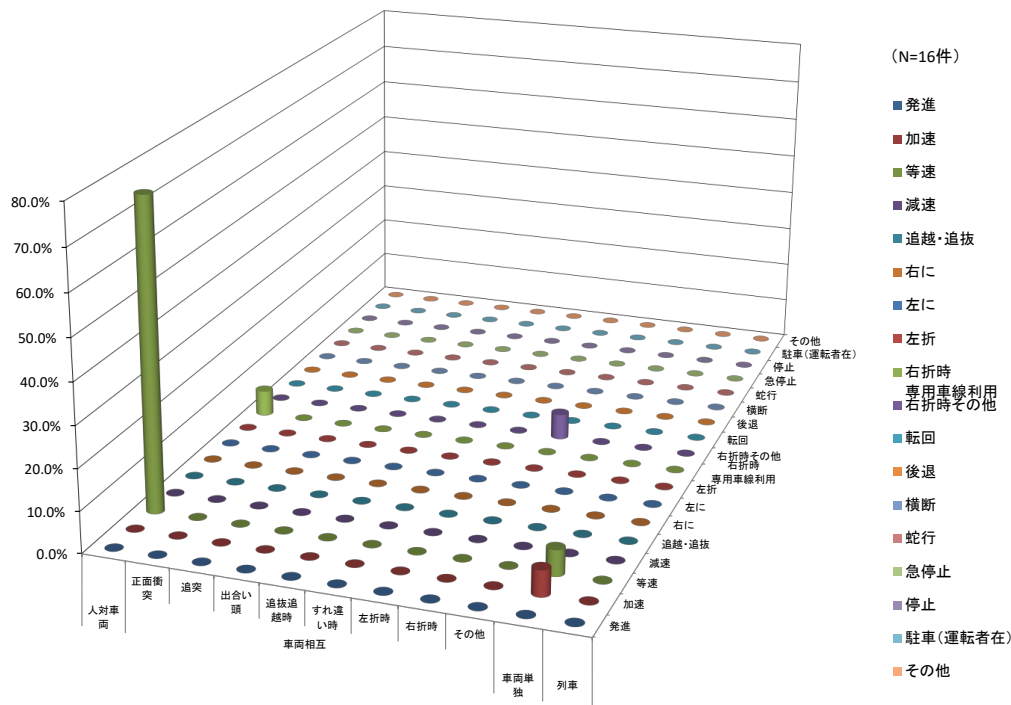
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[表 56] タクシーの事故類型別、行動類型別交通死亡事故件数（件）（令和2年）

	人対車両	車両相互									車両単独	列車	合計
		正面衝突	追突	出合い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他				
発進	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
直進	加速	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	等速	12	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	13
	減速	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	追越・追抜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
進路変更	右に	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	左に	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	左折	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右折時	専用車線利用	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	その他	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	転回	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	後退	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	横断	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	蛇行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	急停止	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	停止	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	駐車(運転者在)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	13	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	16

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[図 73] タクシーの事故類型別、行動類型別交通死亡事故件数の構成比（%）（令和2年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(15) 管轄運輸支局別のタクシーの出会い頭事故件数

〔表 57〕 タクシーの運輸支局別、出会い頭事故件数（件）（令和2年）

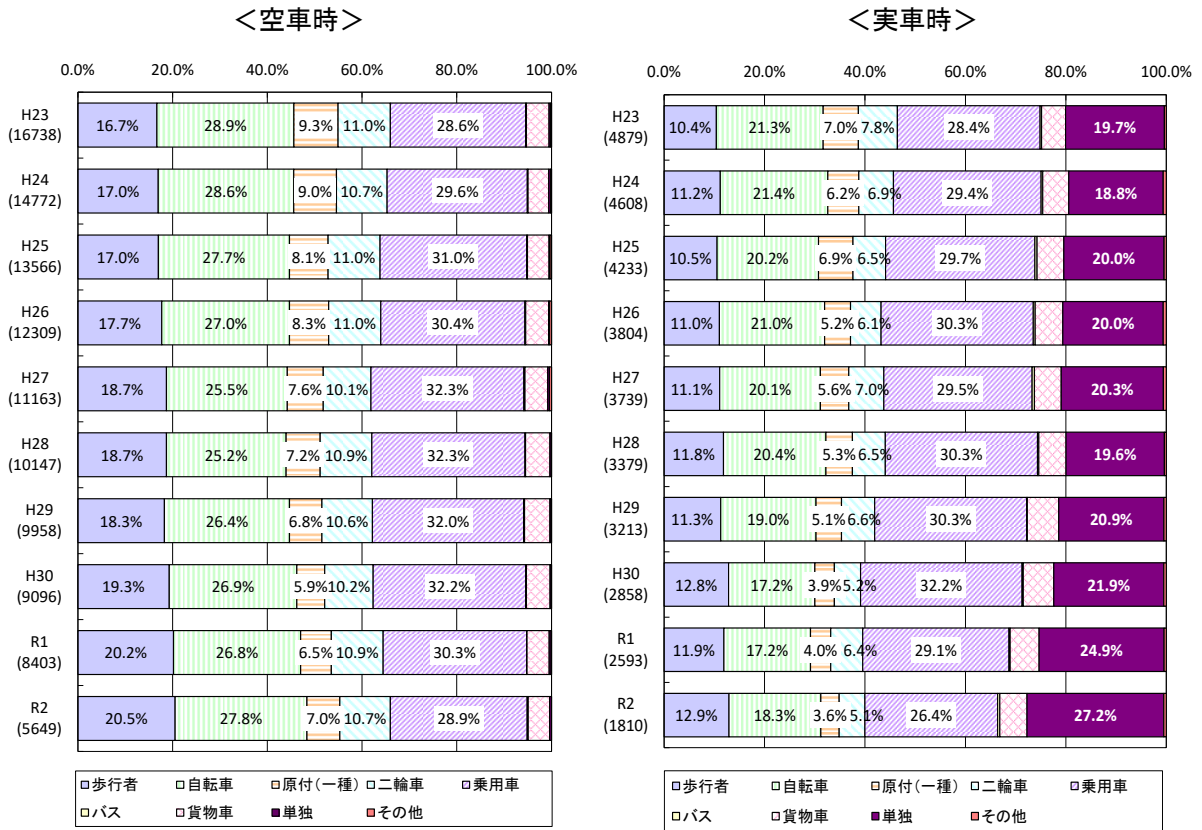
運輸支局等		法人	個人	特定 (その他乗用)	合計
北海道	札幌	77	1	0	78
	函館	6	0	0	6
	室蘭	2	0	0	2
	帯広	0	0	0	0
	釧路	3	0	0	3
	北見	1	0	0	1
	旭川	10	0	0	10
	小計	99	1	0	100
東北	宮城	13	1	0	14
	福島	5	0	1	6
	岩手	7	1	0	8
	青森	4	0	0	4
	山形	3	0	0	3
	秋田	5	0	0	5
	小計	37	2	1	40
北陸信越	新潟	1	0	0	1
	長野	7	0	1	8
	石川	7	0	0	7
	富山	1	0	0	1
	小計	16	0	1	17
関東	東京	274	27	0	301
	神奈川	61	5	0	66
	千葉	44	5	0	49
	埼玉	71	2	0	73
	茨城	3	0	0	3
	群馬	8	0	0	8
	栃木	3	0	0	3
	山梨	3	0	0	3
		小計	467	39	0
中部	愛知	59	6	0	65
	静岡	40	2	1	43
	岐阜	1	1	0	2
	三重	3	0	0	3
	福井	3	0	0	3
	小計	106	9	1	116
近畿	大阪	229	16	1	246
	京都	30	6	0	36
	兵庫	74	3	0	77
	滋賀	4	0	0	4
	奈良	2	0	1	3
	和歌山	4	0	1	5
	小計	343	25	3	371
中国	広島	27	4	0	31
	鳥取	3	0	0	3
	島根	0	0	0	0
	岡山	13	0	0	13
	山口	9	0	0	9
	小計	52	4	0	56
四国	香川	12	0	0	12
	徳島	3	0	0	3
	愛媛	6	0	0	6
	高知	5	0	0	5
	小計	26	0	0	26
九州	福岡	141	7	0	148
	佐賀	6	0	0	6
	長崎	13	1	0	14
	熊本	15	0	0	15
	大分	10	0	0	10
	宮崎	11	1	1	13
	鹿児島	16	0	1	17
	小計	212	9	2	223
沖縄	25	4	0	29	
不明	16	3	2	21	
合計	1,399	96	10	1,505	

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(16) タクシーの事故の相手方の割合の推移（空車時、実車時）

タクシーの交通事故のうち、実車時に多く見られる単独の事故は、空車時にはほぼ見られない。実車時の単独の事故の割合が緩やかに増加している傾向が見られるものの、他の割合の大きな変化は特に見られない。

〔図 74〕 タクシーの事故の相手方の割合の推移



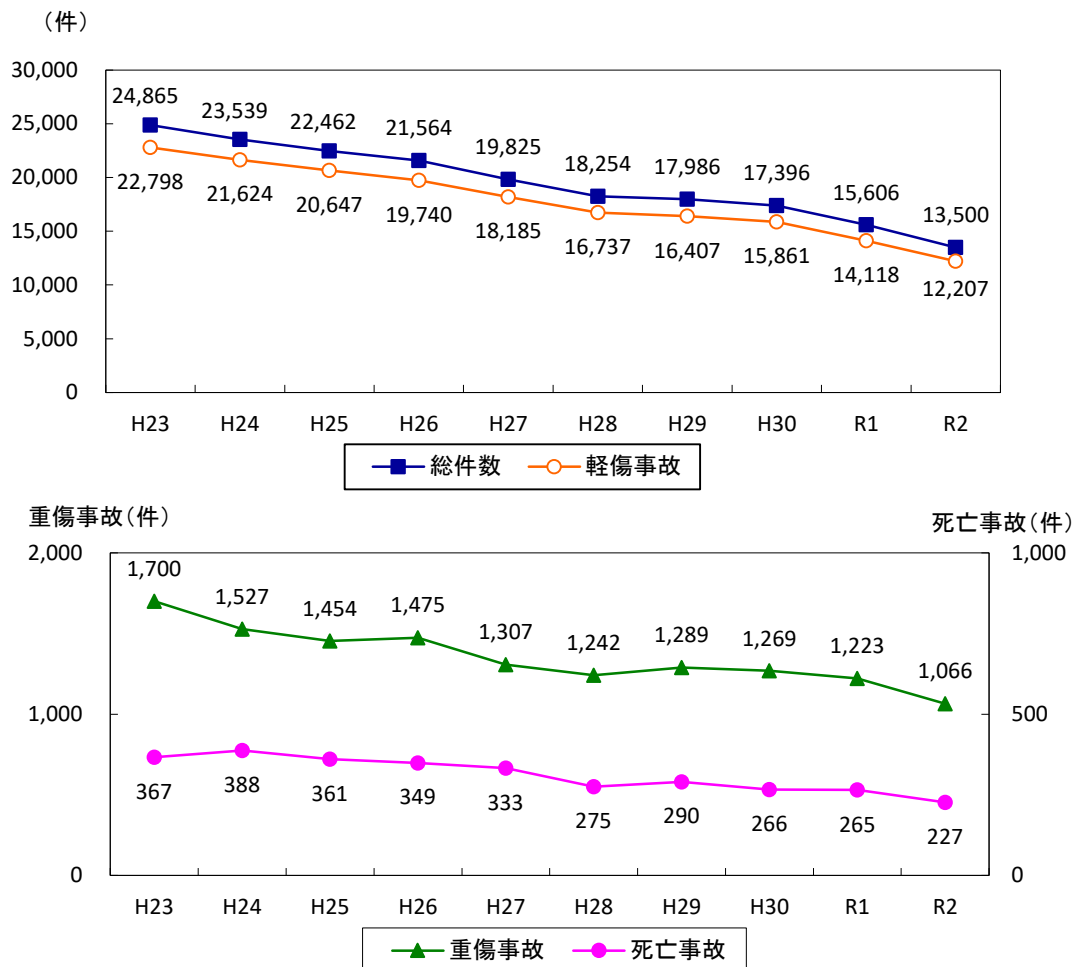
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

4. トラックの交通事故

(1) トラックの交通事故件数、交通死傷事故件数の推移

トラックの交通事故件数について、総件数、軽傷事故件数、重傷事故件数、交通死亡事故件数ともに近年減少傾向となっており、令和2年もいずれも前年と比べて減少している。

〔図 75〕 トラックの交通事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 58〕 トラックの交通事故件数の推移（件）

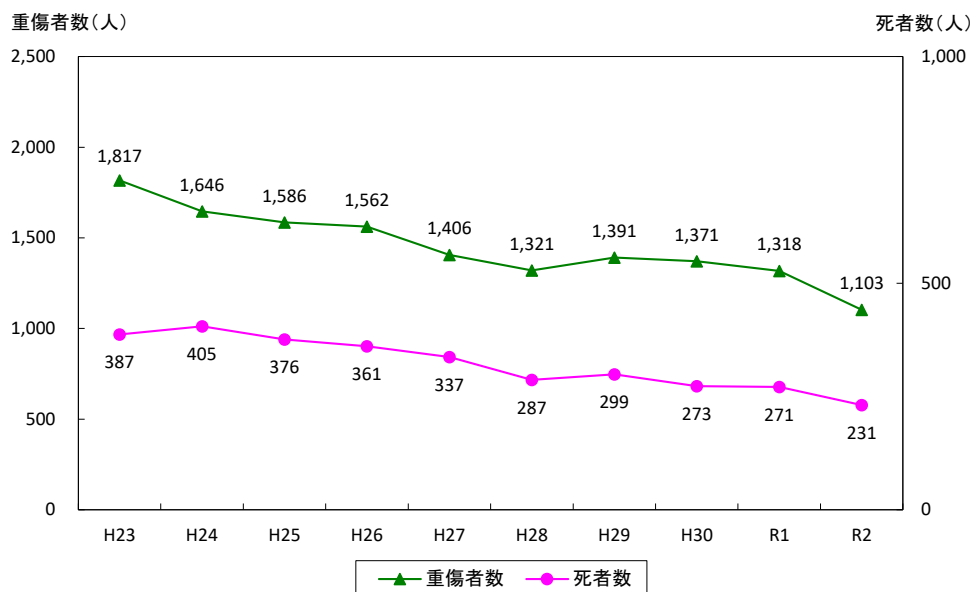
区分 年	総件数	軽傷事故	重傷事故	死亡事故
H23	24,865	22,798	1,700	367
H24	23,539	21,624	1,527	388
H25	22,462	20,647	1,454	361
H26	21,564	19,740	1,475	349
H27	19,825	18,185	1,307	333
H28	18,254	16,737	1,242	275
H29	17,986	16,407	1,289	290
H30	17,396	15,861	1,269	266
R1	15,606	14,118	1,223	265
R2	13,500	12,207	1,066	227

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) トラック事故の死傷者数の推移

トラック事故による重傷者数、死者数は近年減少傾向となっており、令和2年はいずれも前年と比べて15%程度減少している

〔図 76〕 トラック事故の死傷者数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 59〕 トラック事故の死傷者数の推移（人）

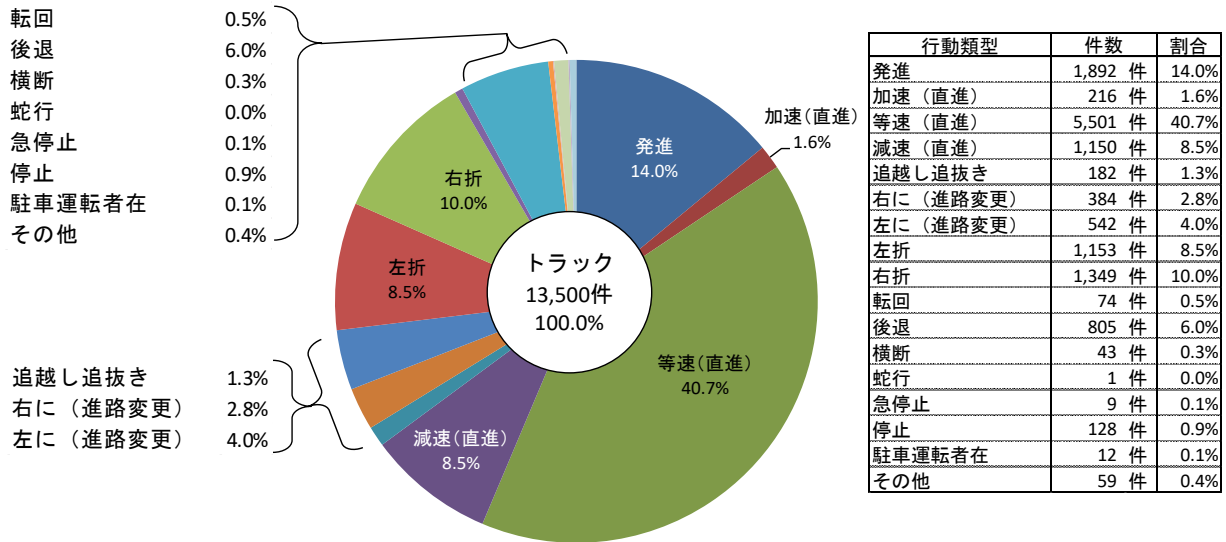
区分 年	死傷者合計	軽傷者数	重傷者数	死者数
H23	32,640	30,436	1,817	387
H24	30,875	28,824	1,646	405
H25	29,598	27,636	1,586	376
H26	28,422	26,499	1,562	361
H27	25,996	24,253	1,406	337
H28	23,689	22,081	1,321	287
H29	23,218	21,528	1,391	299
H30	22,364	20,720	1,371	273
R1	19,928	18,339	1,318	271
R2	16,765	15,431	1,103	231

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) トラックの行動類型別交通事故件数の割合

トラックの交通事故をトラックの動きで類型化すると、等速（直進）時が最も多く5,501件となっており、40%を超えている。

〔図 77〕 トラックの行動類型別交通事故件数の割合（令和2年）

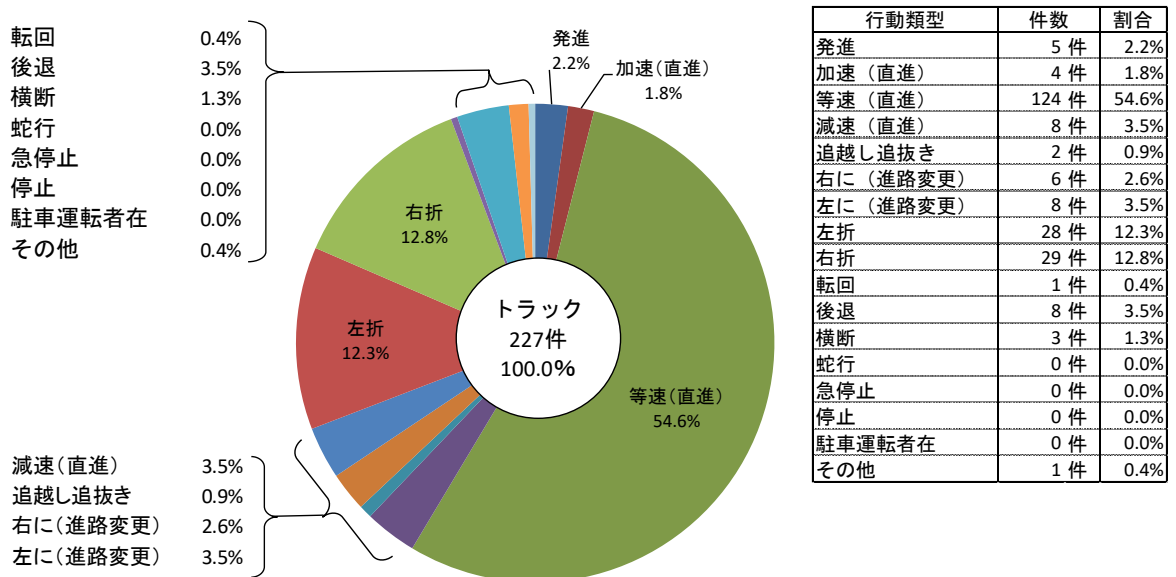


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(4) トラックの行動類型別交通死亡事故件数の割合

トラックの交通死亡事故をトラックの動きで類型化すると、等速（直進）時が最も多く124件となっており、50%を超えている。

〔図 78〕 トラックの行動類型別交通死亡事故件数の割合（令和2年）

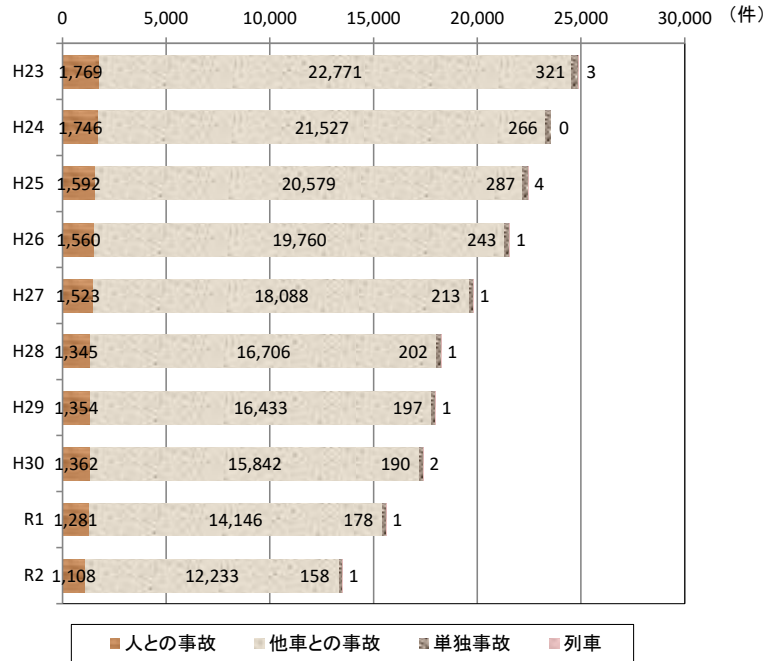


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(5) トラックの事故類型別交通事故件数の推移

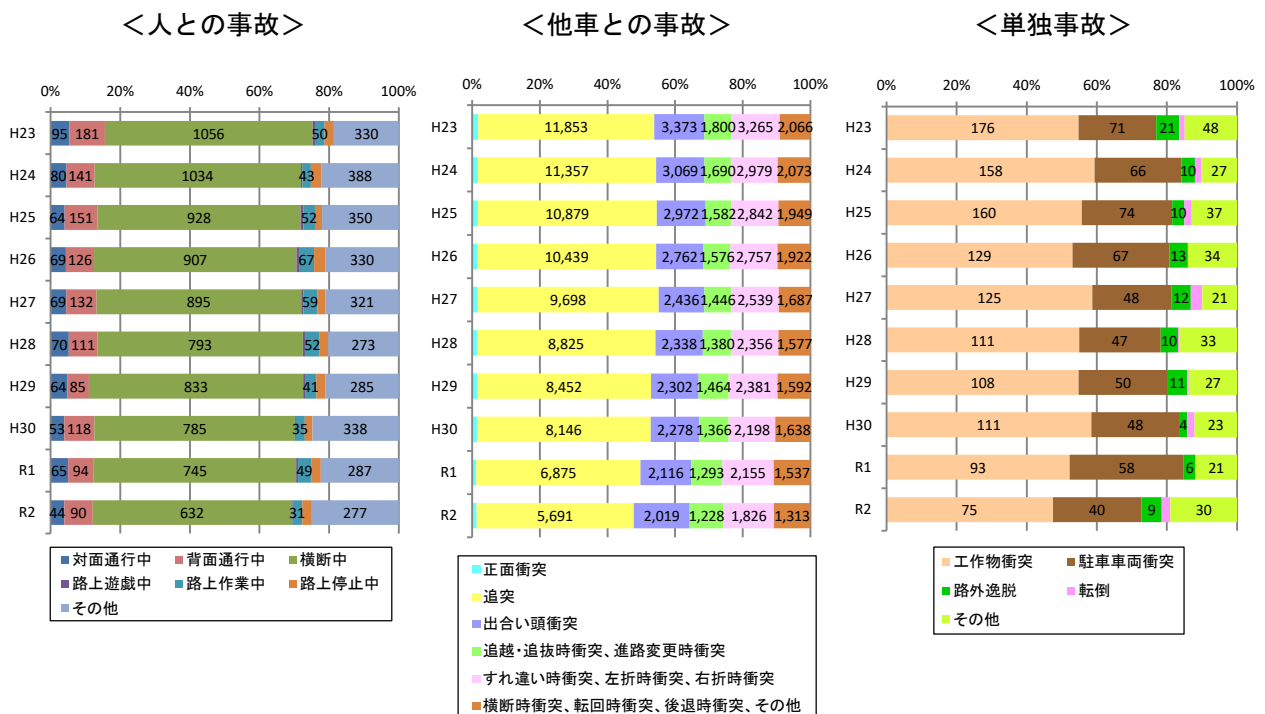
トラックの交通事故を事故の種類で類型化すると、他車との事故が最も多く12,223件となっており、約90%を占めている。また、そのうち半数程度が追突事故となっている。

〔図 79〕 トラックの事故類型別交通事故件数の推移



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 80〕 トラックの事故類型別交通事故件数の内訳の推移

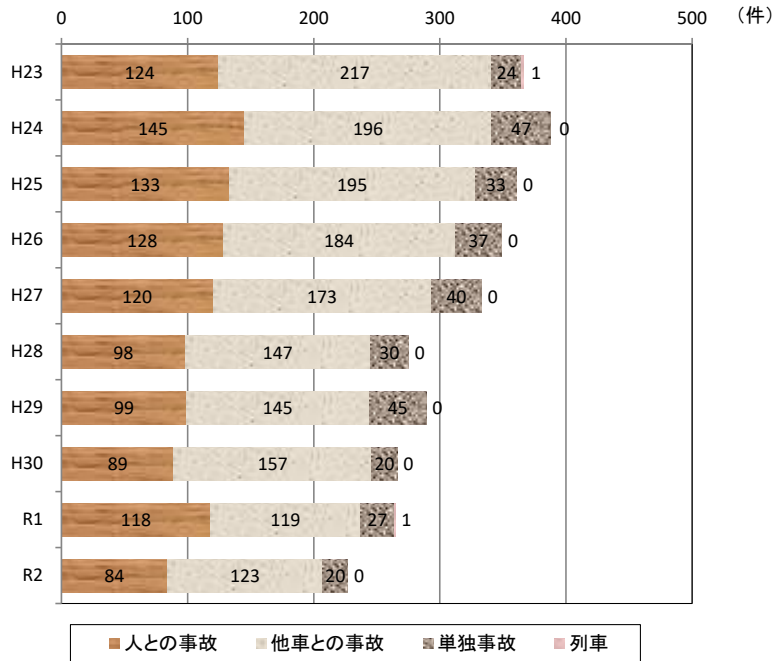


出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(6) トラックの事故類型別交通死亡事故件数の推移

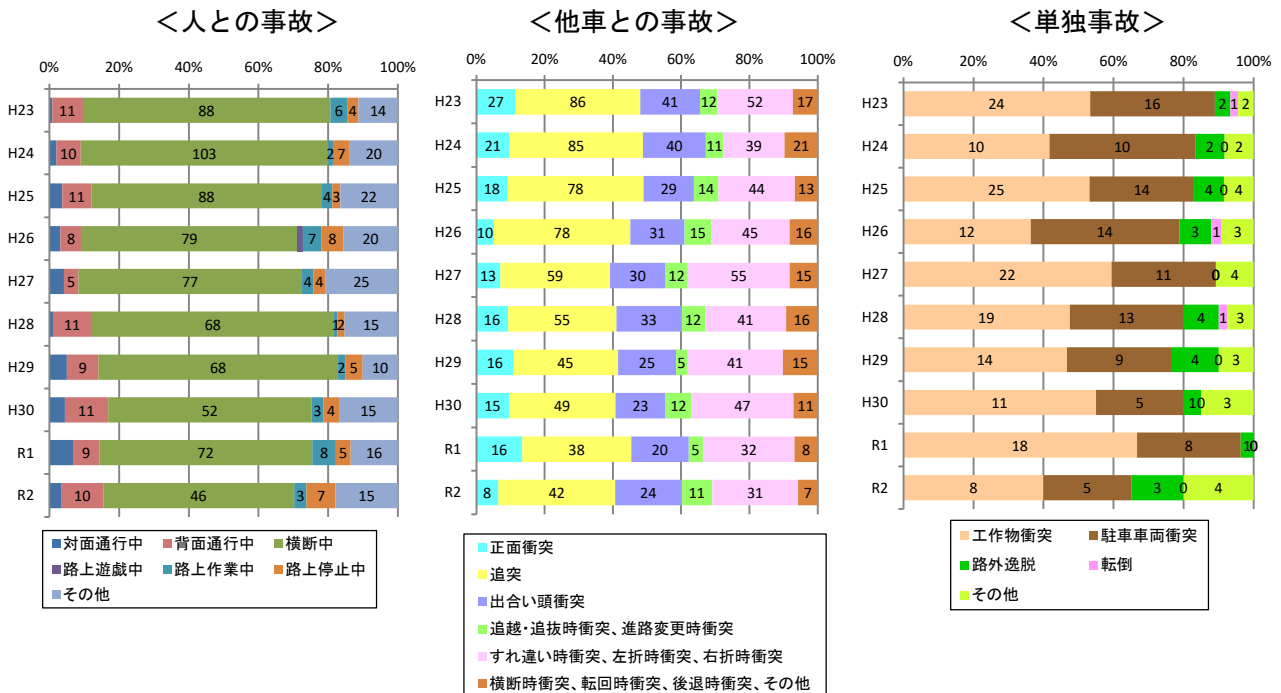
トラックの交通死亡事故を事故の種類で類型化すると、他車との事故が最も多く123件（54.2%）、人の事故が84件（37.0%）となっており、合計で約90%を占めている。また他車との事故のうち追突事故が42件と30%を超えている。またトラックの交通死亡事故の中では横断中の人との事故が最も多く、46件（20.3%）となっている。

〔図 81〕 トラックの事故類型別交通死亡事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 82〕 トラックの事故類型別交通死亡事故件数の内訳の推移

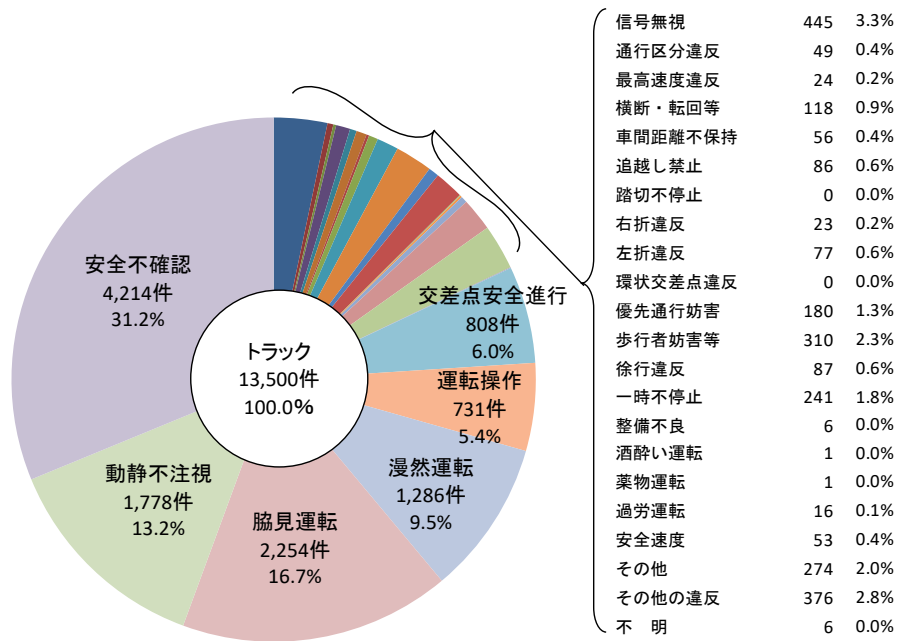


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(7) トラックの法令違反別の交通事故件数の割合

トラックでは、「安全不確認」4,214件（31.2%）、「脇見運転」2,254件（16.7%）、「動静不注視」1,778件（13.2%）といった法令違反の交通事故が多くなっており、合計で60%を超えている。

〔図 83〕 トラックの法令違反別の交通事故件数の割合（令和2年）

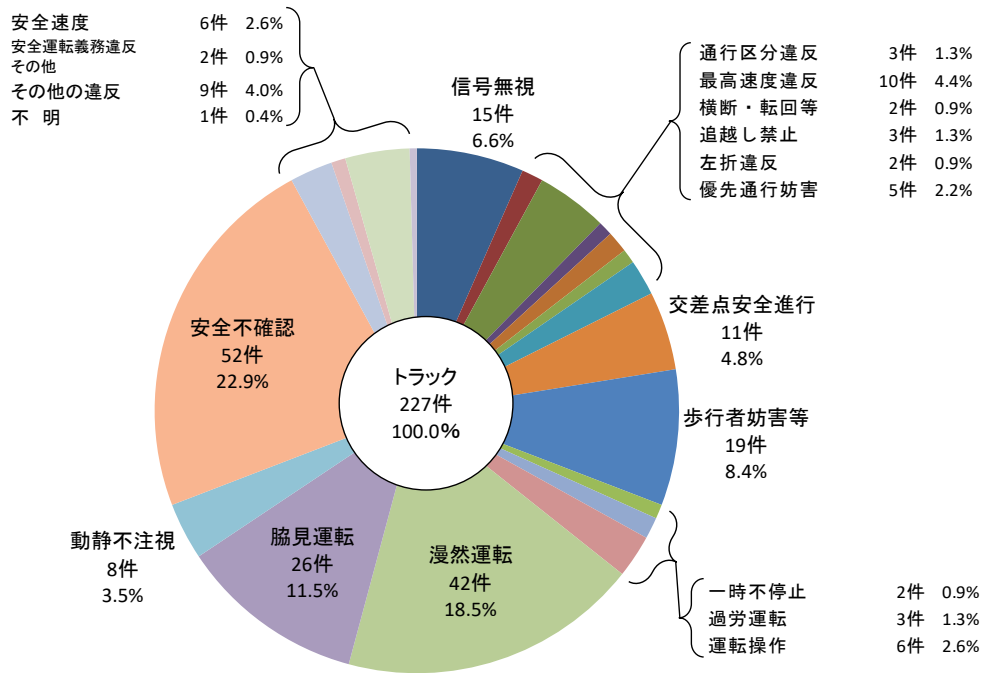


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(8) トラックの法令違反別の交通死亡事故件数の割合

トラックでは、「安全不確認」52件（22.9%）、「漫然運転」42件（18.5%）、「脇見運転」26件（11.5%）といった法令違反の交通事故が多くなっており、合計で50%を超えている。

〔図 84〕 トラックの法令違反別の交通死亡事故件数の割合（令和2年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(9) トラックの事故類型別、衝突地点別交通事故件数

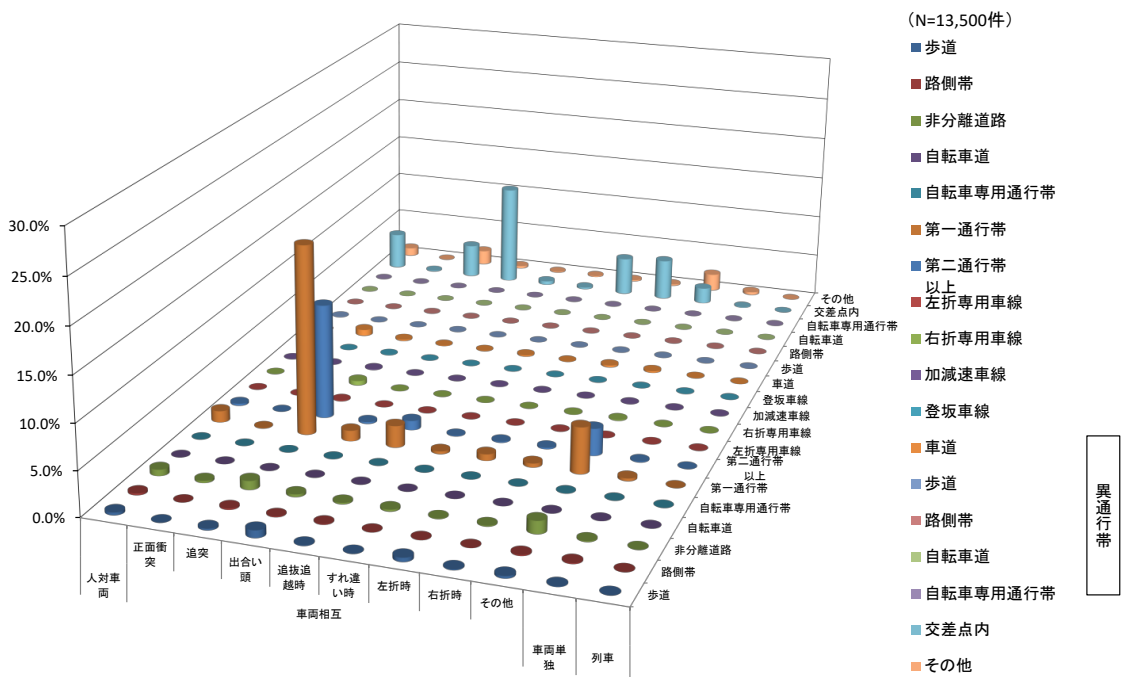
トラックの事故類型別、衝突地点別交通事故件数と構成比をそれぞれ表60と図85に、交通死亡事故件数と構成比をそれぞれ表61と図86に示す。交通事故件数については、第一通行帯での追突事故2,869件(21.3%)が最も多く、交通死亡事故件数については、交差点内での人対車両事故34件(15.0%)が最も多くなっている。

〔表 60〕 トラックの事故類型別、衝突地点別交通事故件数 (件) (令和2年)

	人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計	
		正面衝突	追突	出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他				
単路(交差点付近を含む)	歩道	42	0	26	112	9	2	61	11	35	7	0	305
	路側帯	29	0	21	12	12	3	5	2	16	15	0	115
	非分離道路	95	32	134	41	22	31	9	15	193	15	0	587
	自転車道	0	0	1	1	0	0	0	0	2	0	0	4
	自転車専用通行帯	0	0	0	2	0	0	3	0	4	0	0	9
	第一通行帯	175	7	2,869	161	330	43	98	61	702	42	0	4,488
	第二通行帯以上	32	0	1,743	29	144	9	16	23	412	12	0	2,420
	左折専用車線	0	0	12	0	0	0	0	1	1	1	0	15
	右折専用車線	1	0	71	1	0	1	0	5	13	1	0	93
	加減速車線	0	0	12	0	0	1	0	1	3	1	0	18
	登坂車線	1	0	6	0	0	1	0	1	0	1	0	10
異通行帯	車道	3	100	21	8	7	21	6	31	26	4	0	227
	歩道	6	0	0	4	0	0	1	2	3	0	0	16
	路側帯	0	0	2	0	0	0	0	1	3	1	0	7
	自転車道	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交差点内	588	13	538	1,609	60	29	613	656	253	11	0	4,370	
その他	135	4	235	39	13	16	22	25	278	47	1	815	
合計	1,108	156	5,691	2,019	597	157	834	835	1,944	158	1	13,500	

出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 85〕 トラックの事故類型別、衝突地点別交通事故件数の構成比 (%) (令和2年)



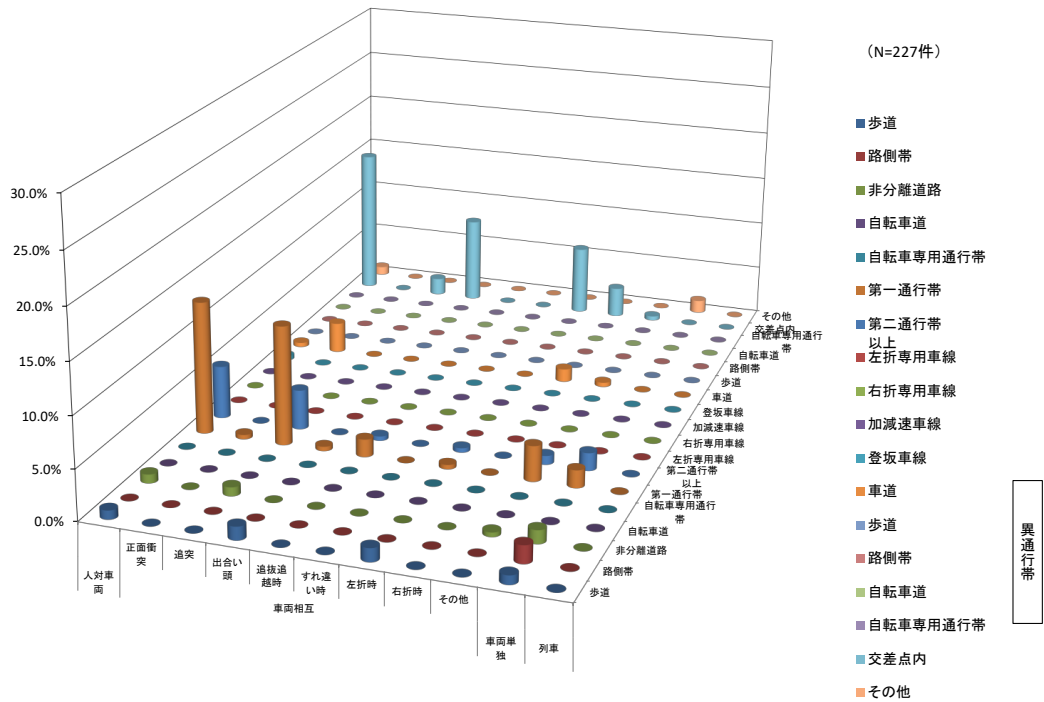
出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[表 61] トラックの事故類型別、衝突地点別交通死亡事故件数（件）（令和2年）

	人対車両	車両相互									車両単独	列車	合計
		正面衝突	追突	出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他				
単路（交差点付近を含む）	歩道	2	0	0	3	0	0	3	0	0	2	0	10
	路側帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	4
	非分離道路	2	0	2	0	0	0	0	0	1	3	0	8
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	第一通行帯	30	1	27	1	4	0	1	0	8	4	0	76
	第二通行帯以上	12	0	9	0	1	0	1	0	2	4	0	29
	左折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	右折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	加減速車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	登坂車線	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
異通行帯	車道	1	7	0	0	0	0	0	3	1	0	0	12
	歩道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	路側帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
交差点内	34	0	4	20	0	0	16	7	1	0	0	82	
その他	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	5	
合計	84	8	42	24	5	0	21	10	13	20	0	227	

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[図 86] トラックの事故類型別、衝突地点別交通死亡事故件数の構成比（%）（令和2年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(10) トラックの事故類型別、行動類型別交通事故件数

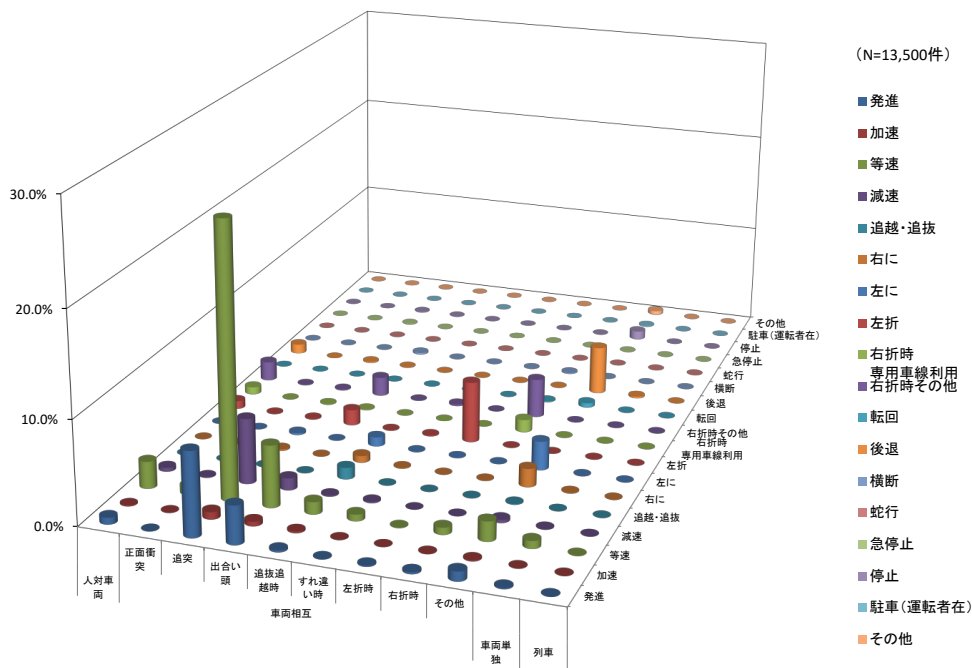
トラックの事故類型別、行動類型別交通事故件数と構成比をそれぞれ表62と図87に、交通死亡事故件数と構成比をそれぞれ表63と図88に示す。交通事故件数は、等速直進時の追突事故3,541件（26.2%）が最も多く、交通死亡事故件数は、等速直進時の人対車両事故51件（22.5%）が最も多くなっている。

〔表 62〕 トラックの事故類型別、行動類型別交通事故件数（件）（令和2年）

	人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計	
		正面衝突	追突	出合い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他				
発進	89	1	1,095	500	25	5	14	24	125	14	0	1,892	
直進	加速	13	4	95	60	20	1	1	5	14	3	0	216
	等速	352	107	3,541	803	160	85	5	91	257	99	1	5,501
	減速	52	10	851	157	15	17	0	2	40	6	0	1,150
追越・追抜		4	3	5	1	152	2	0	3	11	1	0	182
進路変更	右に	2	16	18	2	88	8	0	4	240	6	0	384
	左に	2	0	25	1	122	5	5	1	378	3	0	542
左折		107	6	11	206	6	11	805	0	0	1	0	1,153
右折時	専用車線利用	98	1	8	7	0	0	0	166	0	1	0	281
	その他	257	6	11	252	4	21	0	515	0	2	0	1,068
転回		1	0	0	0	2	2	0	10	58	1	0	74
後退		127	0	14	5	0	0	0	1	638	20	0	805
横断		1	0	0	22	1	0	3	13	3	0	0	43
蛇行		0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
急停止		0	0	7	0	0	0	0	0	2	0	0	9
停止		1	1	8	3	0	0	0	0	115	0	0	128
駐車(運転者在)		1	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	12
その他		1	1	2	0	1	0	1	0	52	1	0	59
合計		1,108	156	5,691	2,019	597	157	834	835	1,944	158	1	13,500

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 87〕 トラックの事故類型別、行動類型別交通事故件数の構成比（%）（令和2年）



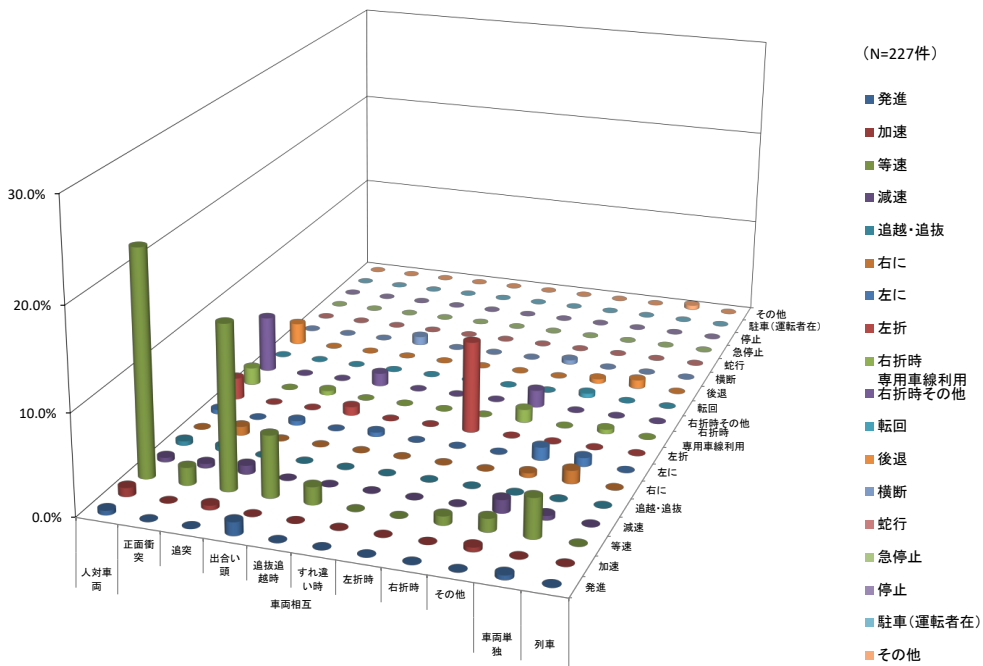
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[表 63] トラックの事故類型別、行動類型別交通死亡事故件数（件）（令和2年）

	人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計
		正面衝突	追突	出合い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他			
発進	1	0	0	3	0	0	0	0	0	1	0	5
直進	加速	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	4
	等速	51	4	37	14	4	0	0	2	3	9	124
	減速	1	1	2	0	0	0	0	0	3	1	8
追越・追抜	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
進路変更	右に	0	2	0	0	0	0	0	0	1	3	6
	左に	1	0	1	0	1	0	0	0	3	2	8
左折	5	0	0	2	0	0	21	0	0	0	0	28
右折時	専用車線利用	4	0	1	0	0	0	0	3	0	1	9
	その他	13	0	0	3	0	0	0	4	0	0	20
転回	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
後退	5	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	8
横断	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	3
蛇行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
急停止	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
停止	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
駐車(運転者在)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
合計	84	8	42	24	5	0	21	10	13	20	0	227

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[図 88] トラックの事故類型別、行動類型別交通死亡事故件数の構成比（%）（令和2年）

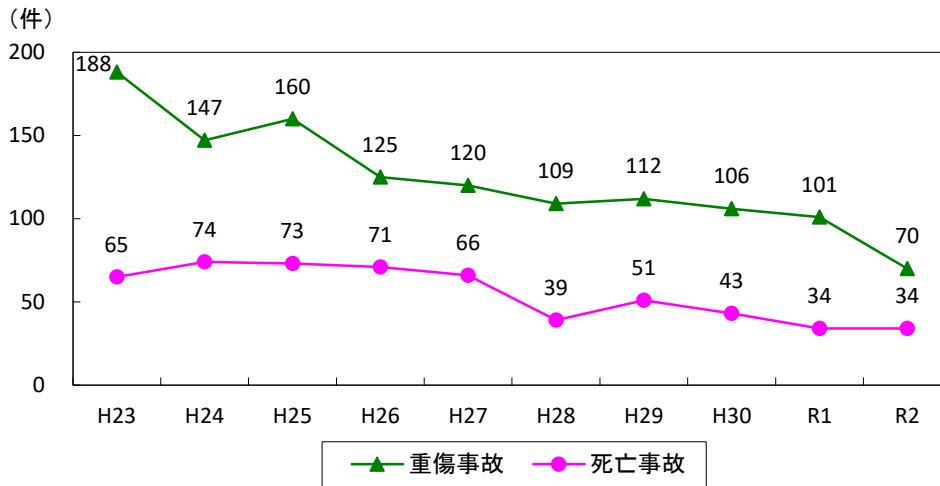


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(11) トラックの高速道路における交通事故のうち死亡・重傷事故の件数の推移

トラックの高速道路における令和2年の交通死亡事故は34件で前年と同数、交通重傷事故は70件で前年より31件減少している。

[図 89] トラックの高速道路における交通事故のうち死亡・重傷事故の件数の推移



出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(12) トラックの追突事故件数、交通死亡事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布

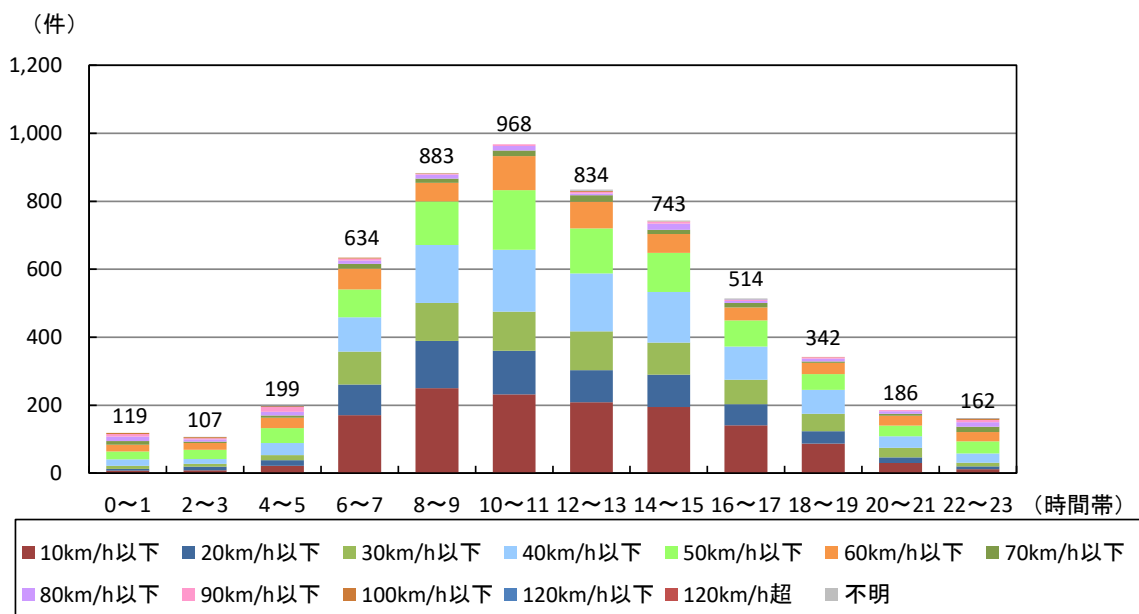
時間帯別危険認知速度別追突事故件数をみると、時間帯は10時～11時台が最も多く968件(17.0%)、次いで8時～9時台が883件(15.5%)、速度は10km/h以下が最も多く1,366件(24.0%)、次いで30km/h～40km/h以下1,071件(18.8%)となっている。交通死亡事故件数の時間帯では、0時～1時台が9件(21.4%)と最も多く、速度は40km/h～50km/h以下、50km/h～60km/h以下、70km/h～80km/h以下がそれぞれ8件(19.0%)となっており、危険認知速度が高めとなっている。

〔表 64〕 トラックの追突事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布 (件) (令和2年)

危険認知速度	時 間 帯												合計
	0～1	2～3	4～5	6～7	8～9	10～11	12～13	14～15	16～17	18～19	20～21	22～23	
10km/h以下	8	9	22	171	250	232	209	195	141	87	30	12	1,366
20km/h以下	5	10	16	90	139	128	94	95	62	37	17	8	701
30km/h以下	9	9	15	97	112	115	114	94	72	51	28	11	727
40km/h以下	19	14	36	101	170	182	171	149	98	70	34	27	1,071
50km/h以下	23	27	44	82	129	176	132	115	77	47	31	36	919
60km/h以下	20	20	30	61	54	100	79	56	38	33	29	27	547
70km/h以下	11	4	7	14	13	16	19	12	13	4	6	16	135
80km/h以下	13	7	11	10	11	14	5	18	6	8	7	13	123
90km/h以下	7	3	14	6	3	5	5	6	4	4	4	7	68
100km/h以下	4	3	2	2	1	0	2	1	0	1	0	4	20
120km/h以下	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	1	4
120km/h超	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	1	1	0	1	0	3	2	2	0	0	0	10
合計	119	107	199	634	883	968	834	743	514	342	186	162	5,691

出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 90〕 トラックの追突事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布 (令和2年)



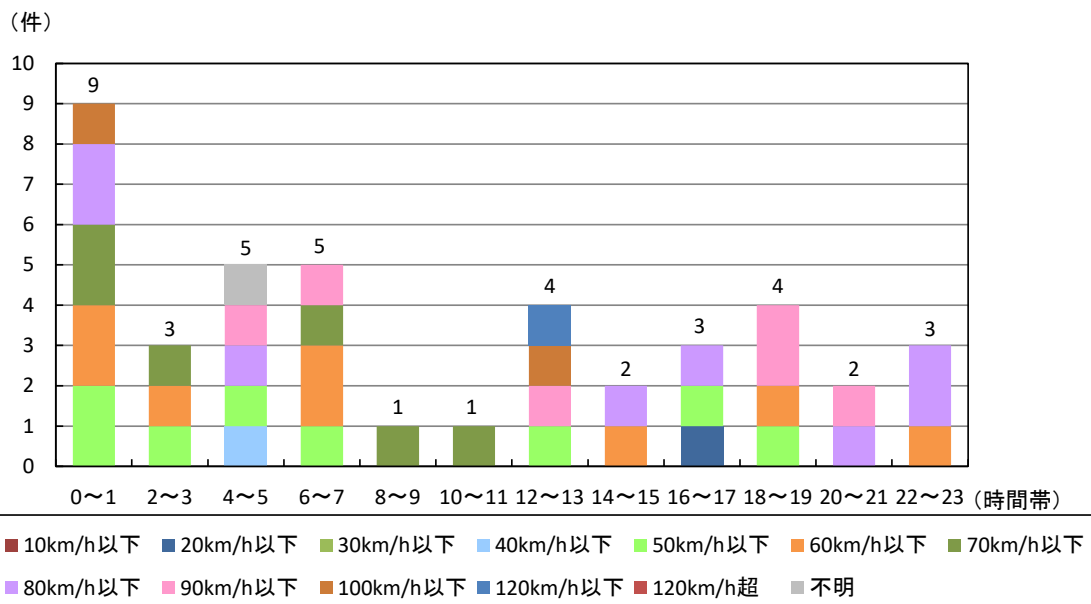
出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 65〕 トラックの追突死亡事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布 (件) (令和2年)

危険認知速度	時 間 帯													合計
	0～1	2～3	4～5	6～7	8～9	10～11	12～13	14～15	16～17	18～19	20～21	22～23		
10km/h以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20km/h以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
30km/h以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
40km/h以下	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
50km/h以下	2	1	1	1	0	0	1	0	1	1	1	0	0	8
60km/h以下	2	1	0	2	0	0	0	1	0	1	0	1	0	8
70km/h以下	2	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	6
80km/h以下	2	0	1	0	0	0	0	1	1	0	1	2	0	8
90km/h以下	0	0	1	1	0	0	1	0	0	2	1	0	0	6
100km/h以下	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
120km/h以下	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
120km/h超	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	9	3	5	5	1	1	4	2	3	4	2	3	42	

出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

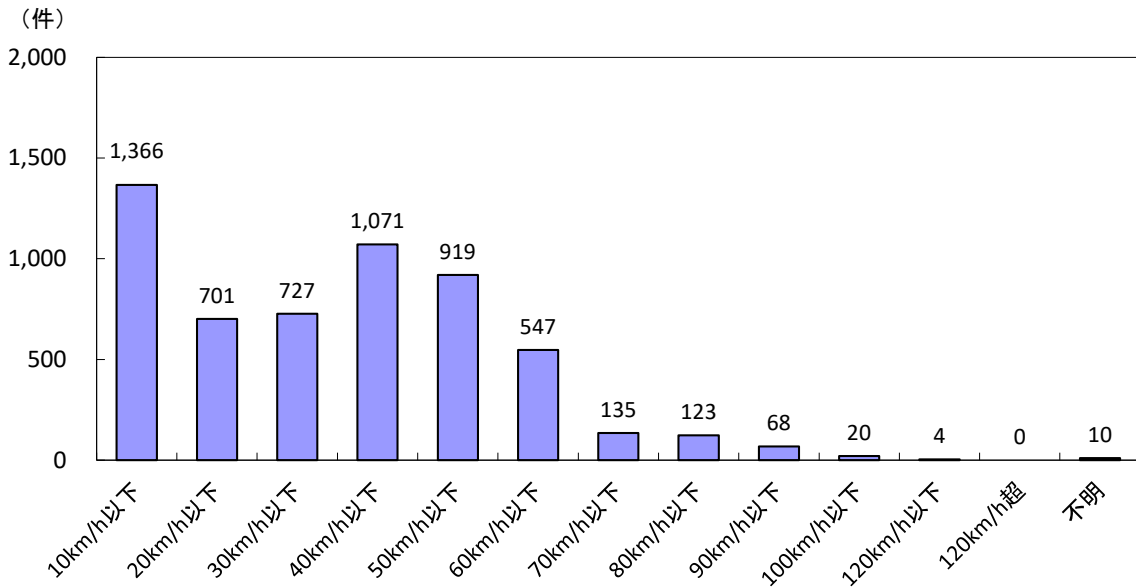
〔図 91〕 トラックの追突死亡事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布 (令和2年)



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

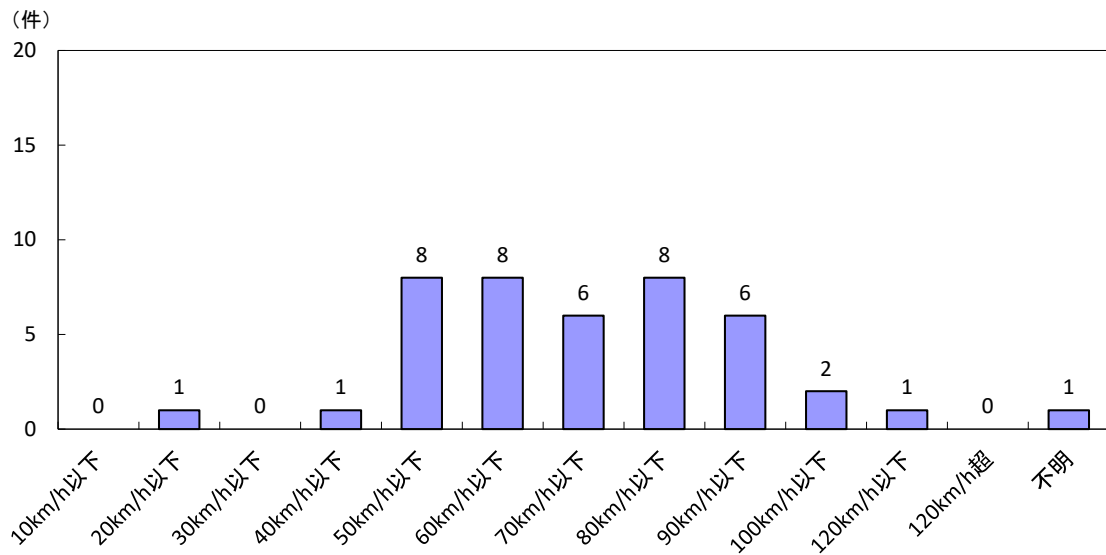
トラックの追突事故において、追突死亡事故は追突事故全体に比べて危険認知速度の分布が高速側に分布している。

〔図 92〕 トラックの危険認知速度別の追突事故件数（令和 2 年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 93〕 トラックの危険認知速度別の追突死亡事故件数（令和 2 年）

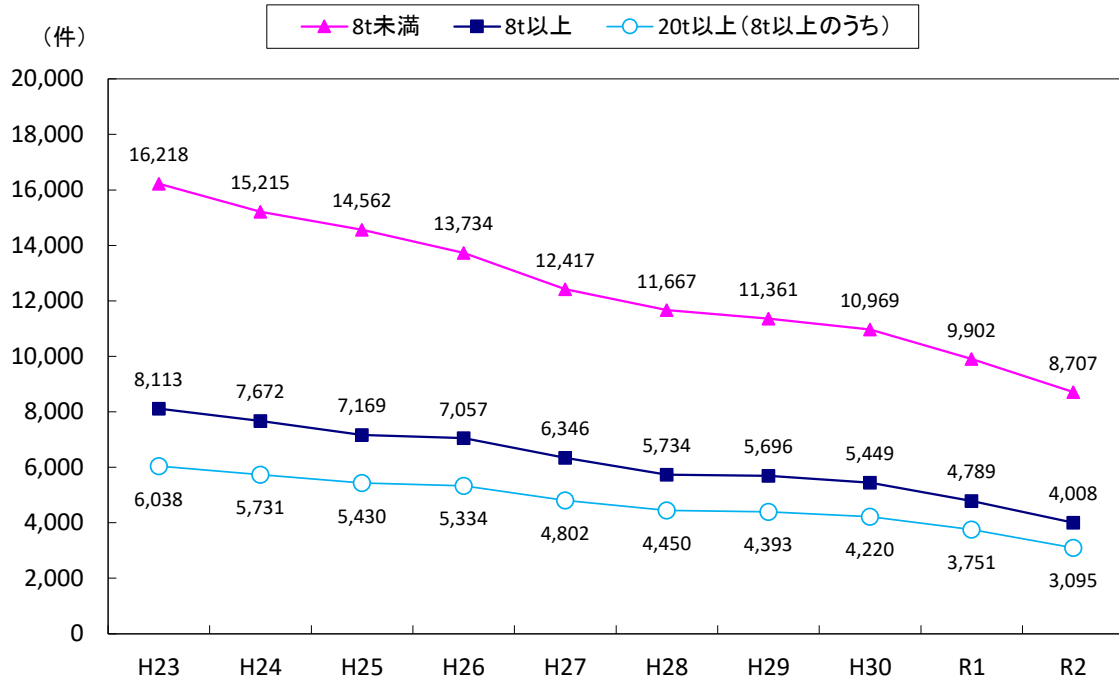


(13) トラックの車両総重量別の交通事故件数の推移

① 交通事故件数

トラックの交通事故件数の推移を車両総重量別にみると、8トン未満、8トン以上ともに減少傾向となっている。

〔図 94〕 トラックの車両総重量別交通事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 66〕 車両総重量別交通事故件数の推移（件）

区分 年	交通事故件数			合計
	8t未満	8t以上	うち20t以上	
H23	16,218	8,113	6,038	24,331
H24	15,215	7,672	5,731	22,887
H25	14,562	7,169	5,430	21,731
H26	13,734	7,057	5,334	20,791
H27	12,417	6,346	4,802	18,763
H28	11,667	5,734	4,450	17,401
H29	11,361	5,696	4,393	17,057
H30	10,969	5,449	4,220	16,418
R1	9,902	4,789	3,751	14,691
R2	8,707	4,008	3,095	12,715

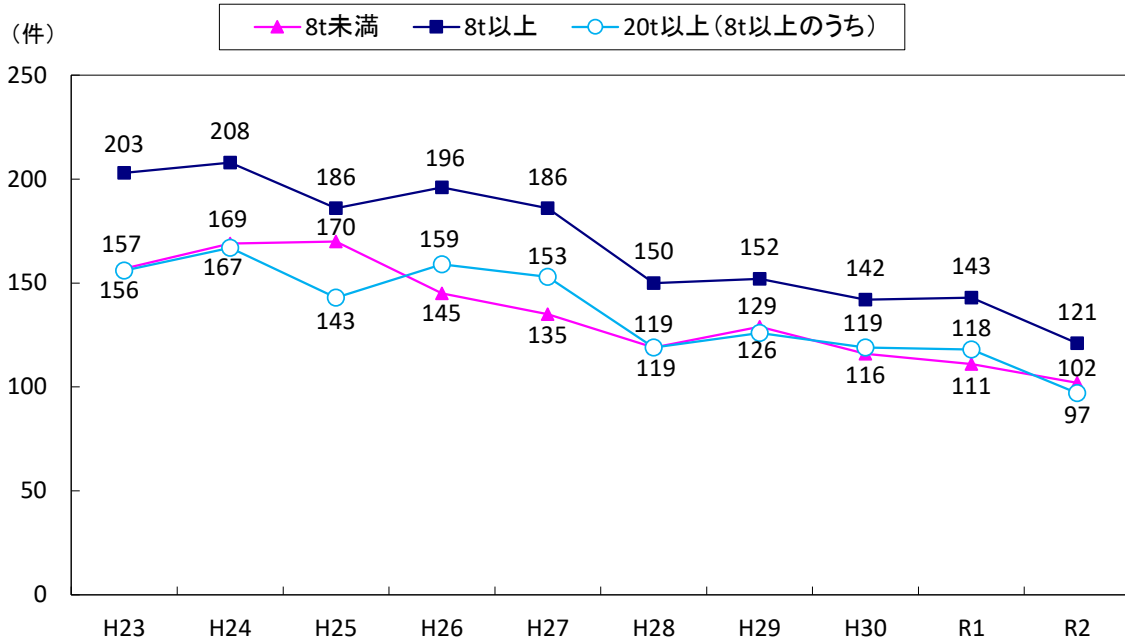
注：合計は車両総重量不明を除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

② 死亡事故件数

トラックの交通死亡事故件数の推移を車両総重量別にみると、8トン未満、8トン以上ともに減少している。

〔図 95〕 トラックの車両総重量別交通死亡事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 67〕 車両総重量別交通死亡事故件数の推移（件）

区分 年	交通死亡事故件数			合計
	8t未満	8t以上	うち20t以上	
H23	157	203	156	360
H24	169	208	167	377
H25	170	186	143	356
H26	145	196	159	341
H27	135	186	153	321
H28	119	150	119	269
H29	129	152	126	281
H30	116	142	119	258
R1	111	143	118	254
R2	102	121	97	223

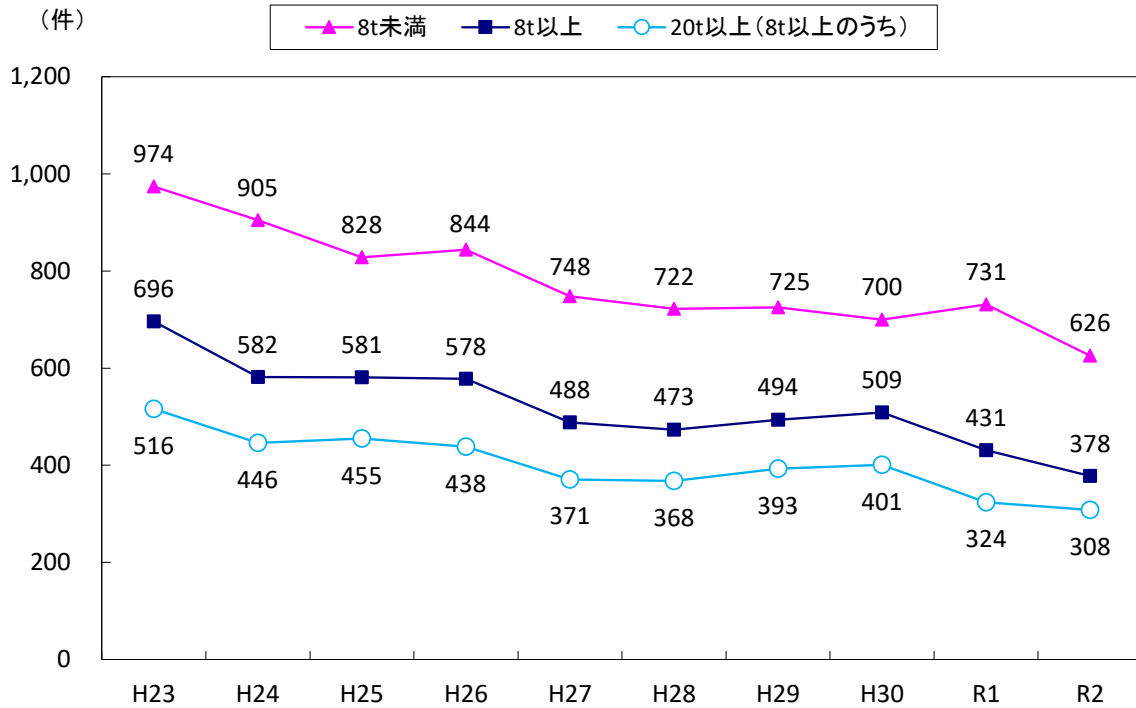
注：合計は車両総重量不明を除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

③ 重傷事故件数

トラックの交通重傷事故件数の推移を車両総重量別にみると、8トン未満が多くなっている。前年に比べ8トン未満、8トン以上ともに減少している。

〔図 96〕 トラックの車両総重量別重傷事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 68〕 車両総重量別重傷事故件数の推移（件）

区分 年	重傷事故件数			合計
	8t未満	8t以上	うち20t以上	
H23	974	696	516	1,670
H24	905	582	446	1,487
H25	828	581	455	1,409
H26	844	578	438	1,422
H27	748	488	371	1,236
H28	722	473	368	1,195
H29	725	494	393	1,219
H30	700	509	401	1,209
R1	731	431	324	1,162
R2	626	378	308	1,004

注：合計は車両総重量不明を除く

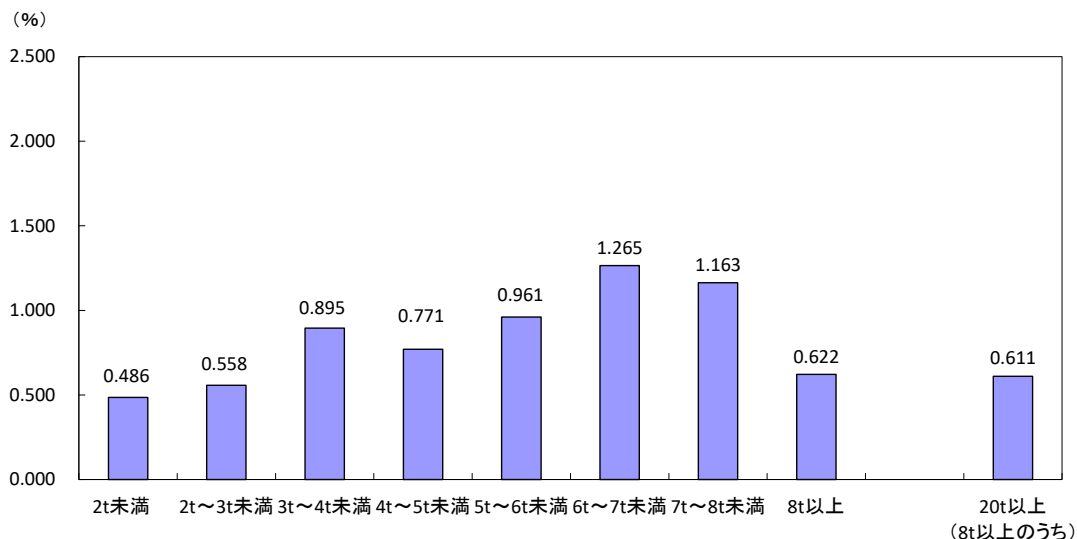
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(14) トラックの車両総重量別車両数あたりの交通事故発生率

① 交通事故発生率

トラックの車両総重量別車両数あたりの交通事故発生率は、6トン～7トン未満が最も高い。

〔図 97〕 トラックの車両総重量別車両数あたり交通事故発生率（令和2年）



注：軽トラックを除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

〔表 69〕 トラックの車両総重量別車両数あたり交通事故件数、車両数、発生率（令和2年）

	事故件数(件)	車両数(事業用)(両)	発生率
2t未満	43	8,854	0.486%
2t～3t未満	67	12,015	0.558%
3t～4t未満	328	36,660	0.895%
4t～5t未満	788	102,262	0.771%
5t～6t未満	681	70,870	0.961%
6t～7t未満	603	47,676	1.265%
7t～8t未満	2,821	242,556	1.163%
8t以上	4,008	644,760	0.622%
うち20t以上	3,095	506,654	0.611%

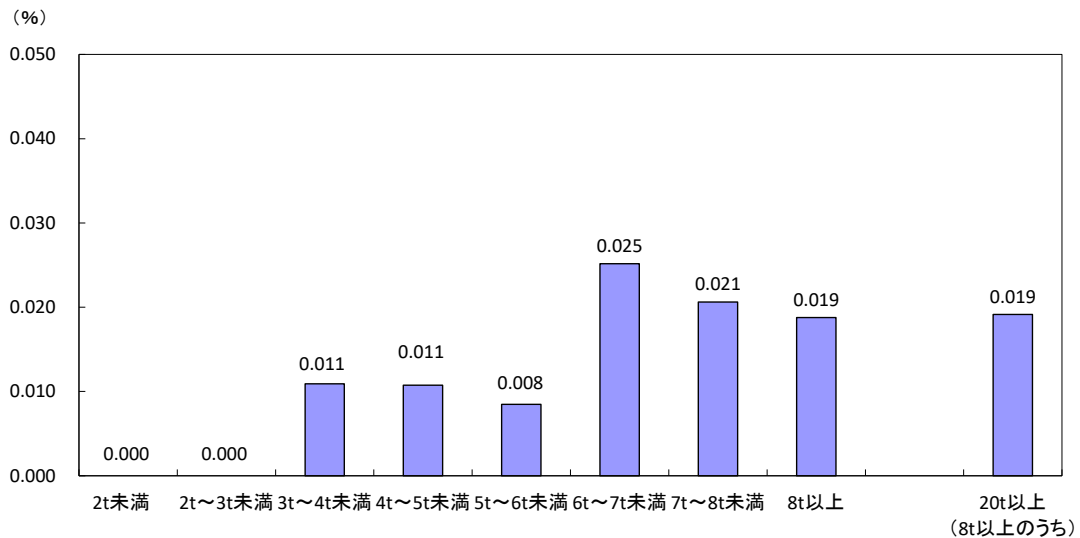
注：軽トラックを除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

② 死亡事故発生率

トラックの車両総重量別車両数あたりの交通死亡事故発生率は、6トン～7トン未満が最も高い。

〔図 98〕 トラックの車両総重量別車両数あたり死亡事故発生率（令和2年）



注：軽トラックを除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

〔表 70〕 トラックの車両総重量別車両数あたり死亡事故件数、車両数、発生率（令和2年）

	死亡事故件数	車両数(事業用)(両)	発生率
2t未満	0	8,854	0.000%
2t～3t未満	0	12,015	0.000%
3t～4t未満	4	36,660	0.011%
4t～5t未満	11	102,262	0.011%
5t～6t未満	6	70,870	0.008%
6t～7t未満	12	47,676	0.025%
7t～8t未満	50	242,556	0.021%
8t以上	121	644,760	0.019%
うち20t以上	97	506,654	0.019%

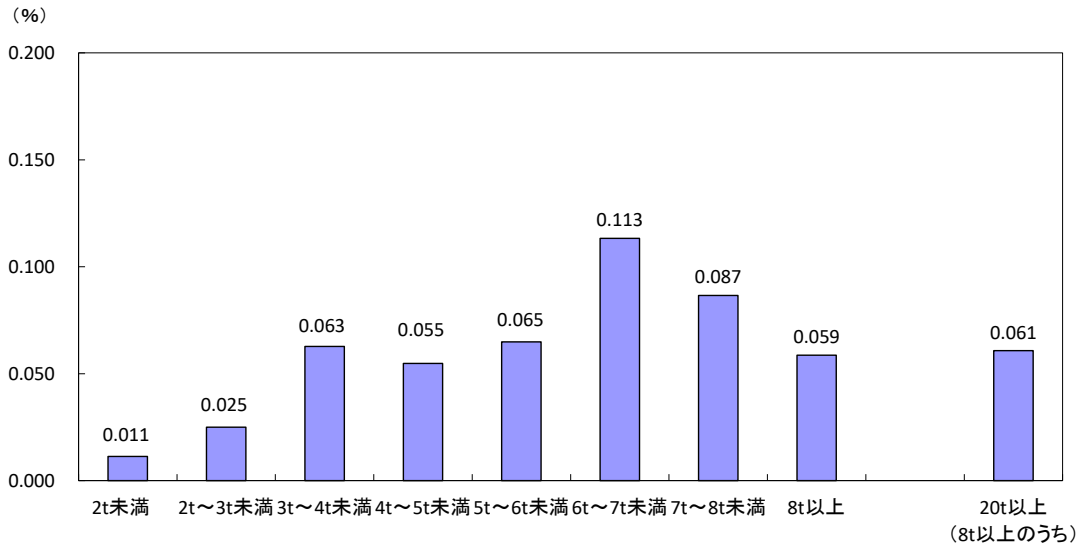
注：軽トラックを除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

③ 重傷事故発生率

トラックの車両総重量別車両数あたりの交通重傷事故発生率は、6トン～7トン未満が最も高い。

〔図 99〕 トラックの車両総重量別車両数あたり重傷事故発生率（令和2年）



注：軽トラックを除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

〔表 71〕 トラックの車両総重量別車両数あたり重傷事故件数、車両数、発生率（令和2年）

	重傷事故件数	車両数(事業用)(両)	発生率
2t未満	1	8,854	0.011%
2t～3t未満	3	12,015	0.025%
3t～4t未満	23	36,660	0.063%
4t～5t未満	56	102,262	0.055%
5t～6t未満	46	70,870	0.065%
6t～7t未満	54	47,676	0.113%
7t～8t未満	210	242,556	0.087%
8t以上	378	644,760	0.059%
うち20t以上	308	506,654	0.061%

注：軽トラックを除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

5. まとめ

令和2年中に全国で発生した事業用自動車の交通事故件数は21,871件で、そのうち交通死亡事故件数は253件、死者数は257人であり、前年と比べていずれも大きく減少している。

なお、令和2年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響に留意する必要がある。

各業態における特徴は以下のとおり。

○乗合バス

乗合バスの交通事故件数は近年減少傾向となっており、令和2年は813件と、前年と比べて約20%減少している。

- ・「他車との事故」や「単独事故」が多く、合計で661件と約80%を占めている。また、「単独事故」のうち約80%が「車内事故」である。
- ・乗合バスの交通事故の中で最も多い「車内事故」265件のうち、103件が「発進時」、96件が「直進（加速、等速、減速）時」、44件が「急停止時」に発生している。また、「車内事故」による負傷者は270人おり、半数以上（138人）を高齢者（65歳以上）が占めている。なお、男性に比べて女性の負傷者数は3.5倍となっている（男性60人、女性210人）。

また、乗合バスの交通死亡事故件数は近年横ばいで推移していたが、令和2年は9件と、前年と比べて4件増加している。内訳は、「人との事故」が7件、「他車との事故」が2件である。

○貸切バス

貸切バスの交通事故件数は近年減少傾向となっており、令和2年は95件と、前年と比べて約60%減少と大幅に減少している。

- ・「他車との事故」が多く、73件と約80%を占めている。このうち、約40%が「追突事故」である。
- ・貸切バスの交通事故の中で最も多い「追突事故」27件のうち、「第一通行帯」での発生が12件、「第二通行帯以上」での発生が10件となっている。

また、貸切バスの交通死亡事故は、令和元年は9件と大幅に増加していたが、令和2年は発生しなかった。

○タクシー

タクシーの交通事故件数は近年減少傾向となっており、令和2年は7,459件と、前年と比べて約30%減少と大幅に減少している。

- ・「他車との事故」が多く、5,550件と70%を超えている。このうち、約30%が「出会い頭衝突事故」である。

- ・タクシーの交通事故の中で最も多い「出会い頭衝突事故」1,505 件のうち、「交差点内」での発生が1,315 件となっている。
- ・なお、タクシーの交通事故のうち、5,649 件（75.7%）が空車時に発生している。

また、タクシーの交通死亡事故件数は近年横ばいで推移していたが、令和2年は16件と、前年と比べて約70%減少と大幅に減少している。

- ・「人との事故」が多く、13件と約80%を占めている。このうち、「第一通行帯」での発生が5件、「交差点内」での発生が4件となっている。また、「人との事故」のうち、「横断中」や「路上横臥中」に発生している件数が多い傾向が見られる。

○トラック

トラックの交通事故は近年減少傾向となっており、令和2年は13,500件と、前年と比べて約13%減少している。

- ・「他車との事故」が多く、12,233件と約90%を占めている。このうち、約50%が「追突事故」である。
- ・トラックの交通事故の中で最も多い「追突事故」を発生時間帯で分類すると、6時～17時が4,576件と約80%を占めており、このうち10時～11時が968件と最多になっている。また、危険認知速度で分類すると、10km/h以下の低速が1,366件と約24%を、30km/h～40km/hの中速が1,071件と約20%を占めている。発生地点で分類すると、「第一通行帯」での発生が2,869件と約50%を占めている。

また、トラックの交通死亡事故は近年減少傾向となっており、令和2年は227件と、前年と比べて約15%減少している。

- ・「他車との事故」や「人との事故」が多く、合計で207件と約90%を占めている。
- ・「他車との事故」のうち、「追突事故」が42件、「出会い頭衝突事故」が24件、「左折時」が21件となっている。
- ・「人との事故」を発生地点で分類すると、「交差点内」での発生が34件、「第一通行帯」での発生が30件となっている。

また、飲酒運転による事業用自動車の交通事故は、平成24年から横ばい傾向となっていたが、令和2年は36件と、前年と比べて約36%減少している。なお、令和2年は全てトラックによるものであり、バスとタクシーは0件となっている。